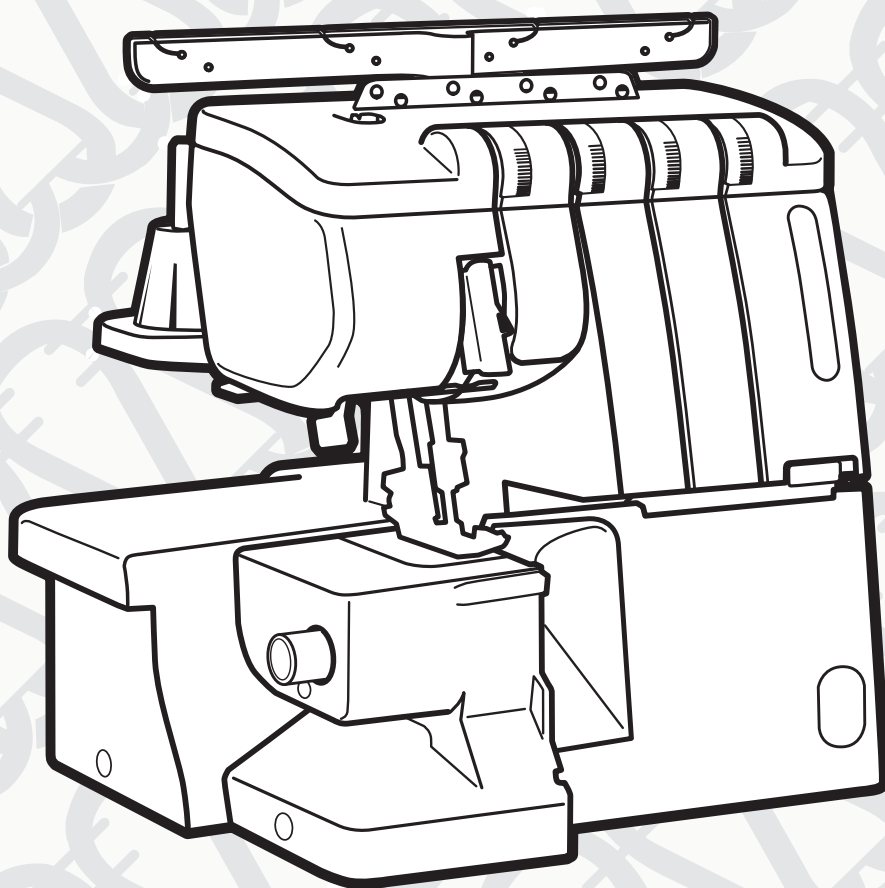


取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

- ◆ ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
----------------	---	---

本文中の図記号の意味		△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 警告	感電・火災の原因となります。
	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
	電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 ・ 傷つける ・ 加工する ・ はさみ込む ・ たばねる ・ 引っ張る ・ 無理に曲げたり、ねじったりする ・ 重い物をのせる ・ 高温部に近づける 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
	必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
	必ず実行 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	必ず電源プラグを抜く 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用したあと ・ ミシン使用中に停電したとき

 注意	感電・火災・けがの原因となります。
	分解はしないでください。
	接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・ルーパー・メス・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	禁止 このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。

 注意	感電・火災・けがの原因となります。
	禁止 曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。
	禁止 めい途中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
	禁止 ミシンの通風口はふさがないようにください。
	禁止 フットコントローラーの上に物をのせないでください。 また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
	注意 お子様でご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
	必ず実行 ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
	必ず実行 プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
	必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。
	必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	必ず実行 以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・ 押さえ、アタッチメントを交換するとき ・ 針糸、ルーパー糸をセットするとき
	必ず電源プラグを抜く 以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ ミシンのお手入れを行うとき ・ 針、針板、メスを交換するとき
	必ず電源プラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・ 正常に作動しないとき ・ 水にぬれたとき ・ 落下などにより破損したとき ・ 異常な臭い・音がするとき ・ 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

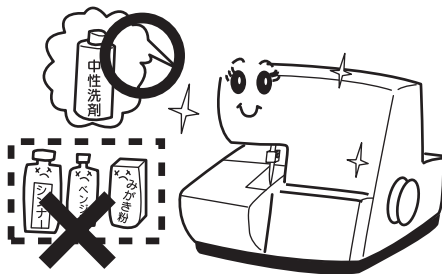
目次

◎お取り扱いについてのお願い.....	3	◎ふちかがりぬい、合わせかがりぬい.....	28 ~ 35
◎各部のなまえと標準付属品.....	4 ~ 5	●試しぬいをする.....	28 ~ 29
●各部のなまえ.....	4	★ぬい始め.....	28
●標準付属品.....	5	★ぬい終わり.....	29
●ダストボックス.....	5	★続けてぬうとき.....	29
●物入れケース.....	5	★ガイドラインの使い方.....	29
●糸通し器の収納.....	5	●ぬい始め、ぬい終わりの糸の始末.....	30
◎操作方法.....	6 ~ 15	★ぬい目のほどこき方.....	30
●電源のつなぎ方.....	6	●糸調子の出し方.....	31 ~ 35
●速さの調節.....	6	★2本針 4本糸ふちかがりぬい.....	31 ~ 32
●はずみ車の使い方.....	7	★1本針 3本糸ふちかがりぬい.....	32 ~ 33
●補助テーブル.....	7	★1本針 2本糸ふちかがりぬい.....	34
●フリーアームの使い方.....	7	★巻きぬい（1本針 2本糸）の正しい糸調子.....	35
●ルーパーカバーの開け方、閉め方.....	7	●布に適した糸や針を選ぶ目安 （ふちかがりぬいと合わせかがりぬい）.....	35
●糸かけスタンドの位置決め.....	8	◎1本針 3本糸の巻きぬい、ピコぬい、 細ロックぬい.....	36 ~ 37
●糸こま押さえ、糸こまネットの付け方.....	8	★巻きぬいとピコぬいの糸調子の調節.....	37
●針の取りかえ方.....	9	◎応用ぬい.....	38 ~ 42
★針ホルダーの使い方.....	9	●ふち飾りぬい.....	38
●押さえ上げの使い方.....	10	●ギャザーよせ.....	39
●押さえの取りかえ方.....	10	●ピンタック.....	40
●押さえ圧の調節.....	10	●フラットロックぬい.....	41
●ぬい目のあらさの調節.....	11	●コーナー部の上手なぬい方.....	42
●ぬい目の伸縮調節.....	11	◎ミシンのお手入れ.....	43 ~ 46
●上メスの解除と駆動.....	12	●上メスの交換.....	43
●切り幅の調節.....	13	●切りくず、糸くずの掃除.....	43
●かがり爪の切りかえ（ふちかがりぬいと巻きぬい、 ピコぬい、細ロックの切りかえ）.....	14	●送り歯の掃除.....	44
●補助糸調子スライドつまみとスライド糸案内 の設定.....	15	●注油.....	44
★補助糸調子スライドつまみ.....	15	●アタッチメント取付板.....	45
★スライド糸案内.....	15	●ミシンの調子が悪いときの直し方.....	46
◎糸の通し方.....	16 ~ 37	◎アタッチメント（オプション）.....	48 ~ 62
●2本針 4本糸ふちかがりぬいの場合.....	16	●すそ引き押さえの使い方.....	49
●糸が1本だけ切れて通し直す場合.....	17	●テープ付けセットの使い方.....	50
●下ルーパー糸の通し方.....	18 ~ 19	●コード付け押さえ（1）の使い方.....	51
★ウーリーナイロン糸の通し方.....	19	●コード付け押さえ（2）の使い方.....	52
●上ルーパー糸の通し方.....	20 ~ 21	★広幅巻きぬい（芯入り）.....	52
●右針糸の通し方.....	22 ~ 23	★ニット地の伸び止め、または通常のコード付け.....	53
●糸通し器の使い方.....	23	●ビーズ付けセットの使い方.....	54
●左針糸の通し方.....	24 ~ 25	●ギャザリングアタッチメントの使い方.....	56
●1本針 3本糸ふちかがりぬいの糸の通し方.....	26	●ゴムテープ付けアタッチメントの使い方.....	58
★右針を使うとき.....	26	●布ガイドの使い方.....	60
★左針を使うとき.....	26	●パイピング押さえの使い方.....	61
●1本針 2本糸ふちかがりぬいの糸の通し方.....	27 ~ 28	●ギャザリング押さえの使い方.....	62
★右針を使うとき.....	27		
★左針を使うとき.....	27		
★スプレッダーの付け方、外し方.....	28		

◎お取り扱いについてのお願い

◇ ご使用前に

- ① ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

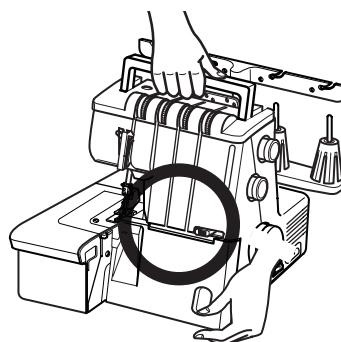
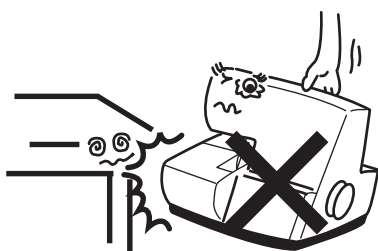


◇ いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。



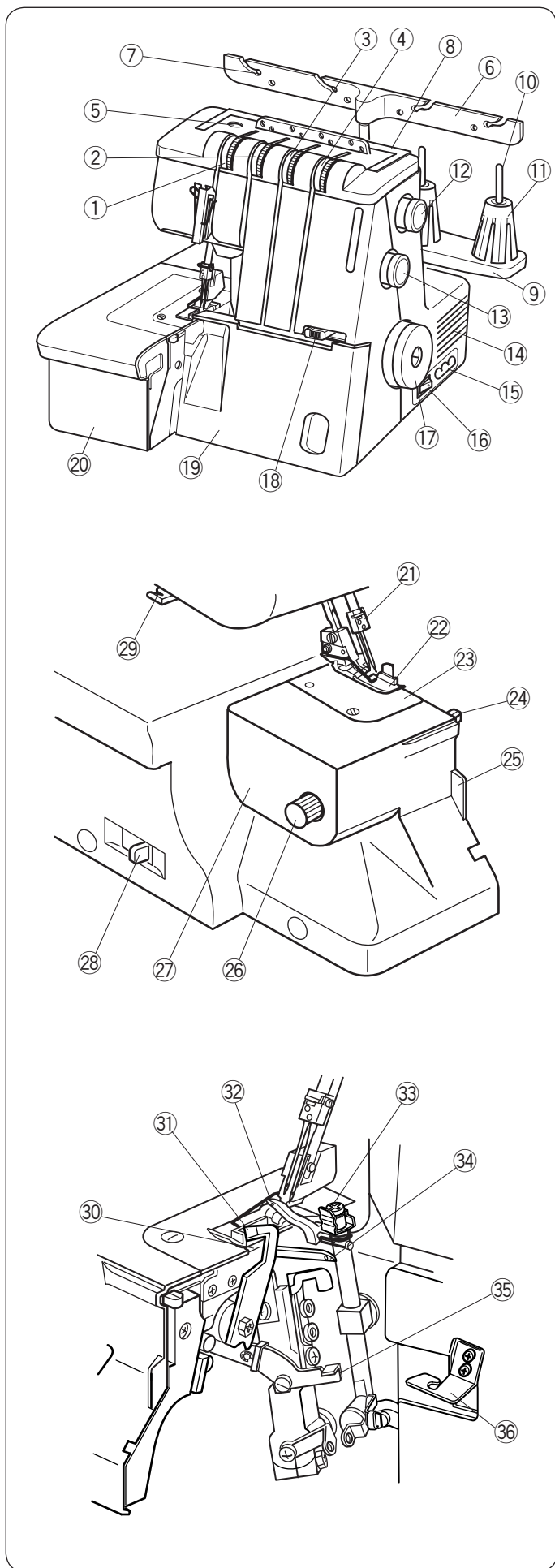
◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(46 ページ参照) にしたがって点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえと標準付属品

●各部のなまえ

- ① 左針糸調子ダイヤル
- ② 右針糸調子ダイヤル
- ③ 上ルーパー糸調子ダイヤル
- ④ 下ルーパー糸調子ダイヤル
- ⑤ 押さえ圧調節ねじ
- ⑥ 糸かけスタンド
- ⑦ 糸かけ
- ⑧ 手さげハンドル
- ⑨ 糸立て台
- ⑩ 糸立て棒
- ⑪ 糸こまホルダー
- ⑫ めい目のあらか調節ダイヤル
- ⑬ めい目の伸縮調節ダイヤル
- ⑭ 通風口
- ⑮ プラグ受け
- ⑯ 電源スイッチ
- ⑰ はずみ車
- ⑱ 補助糸調子スライドつまみ
- ⑲ ルーパーカバー
- ⑳ 布板
- ㉑ 針止め
- ㉒ 押さえ
- ㉓ 針板
- ㉔ かがり爪つまみ
- ㉕ つまみ
- ㉖ 切り幅調節ダイヤル
- ㉗ フリーアーム
- ㉘ 上メス解除レバー
- ㉙ 糸切り
- ㉚ 下メス
- ㉛ 上メス
- ㉜ 上ルーパー
- ㉝ スプレッダーホルダー
- ㉞ 下ルーパー
- ㉟ 下ルーパーレバー
- ㊱ スライド糸案内

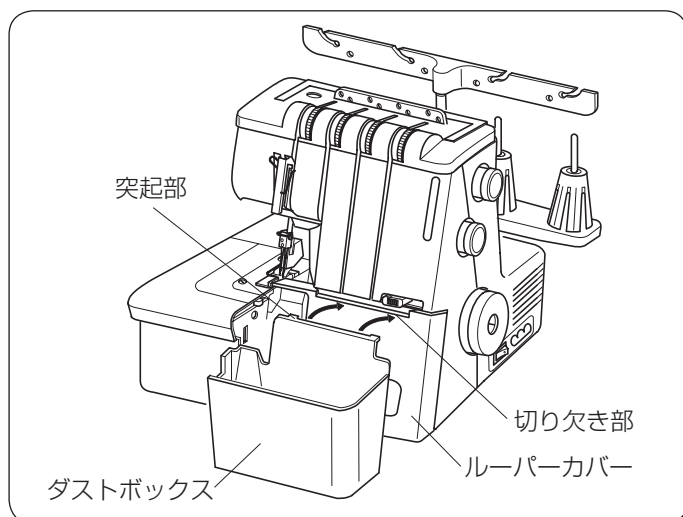
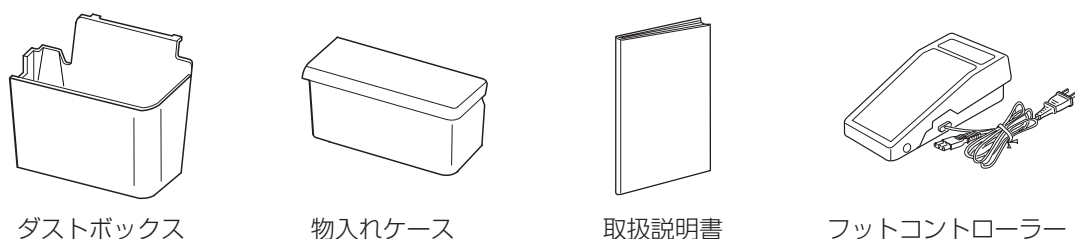
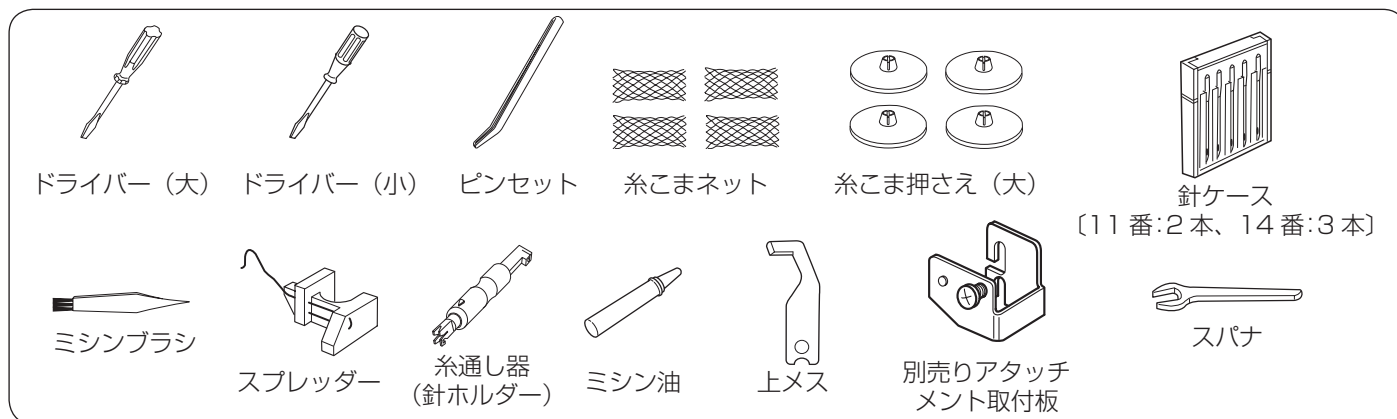


※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

※ ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

● 標準付属品

※ 物入れケースに入っています。

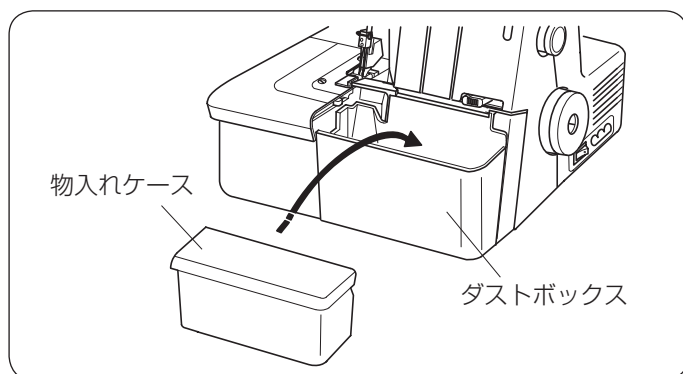


● ダストボックス

ダストボックスは、布端をメスで切ったときに出る切りくずが入るボックスです。切りくずがたまったら、ミシンから外して切りくずを捨ててください。

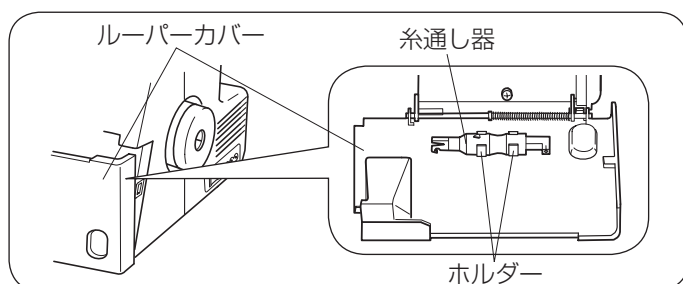
【付け方】

ルーパーカバーの切り欠き部にダストボックスの突起部を差し込み、布くず受けとして使用します。



● 物入れケース

ミシンを使わないとき、物入れケースはダストボックスに収納できます。



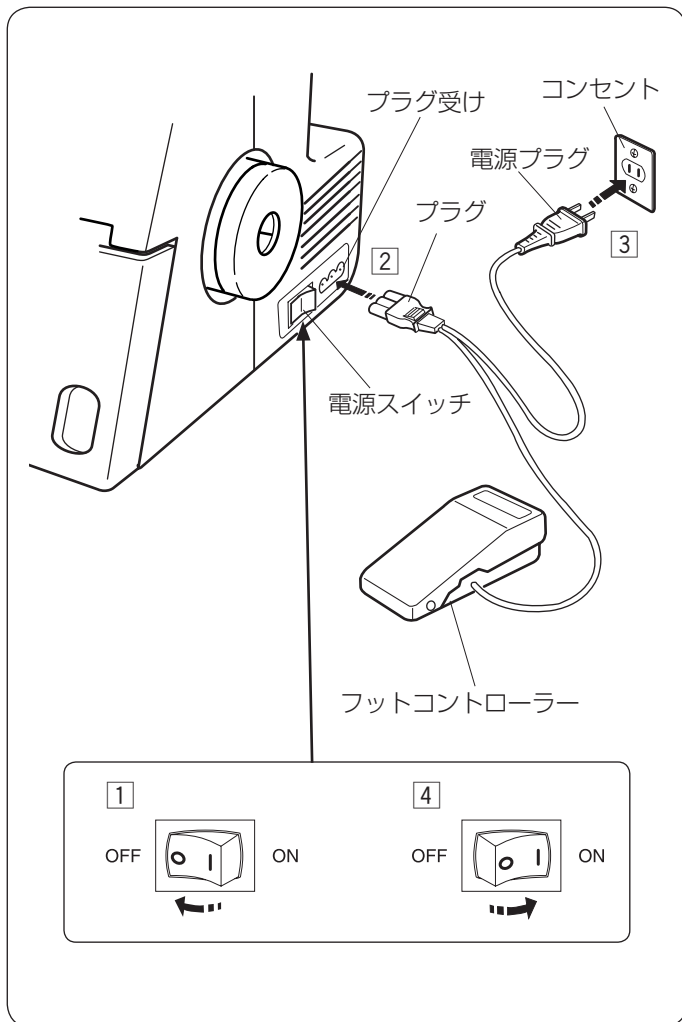
● 糸通し器の収納

糸通し器は、ルーパーカバーの内側にあるホルダーに収納できます。

糸通し器をホルダーに収納すると、使うときにすぐに取り出すことができます。

◎操作方法

●電源のつなぎ方



⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると、湿気などによって絶縁不良となり火災の原因となります。

- 1 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- 2 プラグをプラグ受けに差し込みます。
- 3 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 4 電源スイッチを「ON」(入) にします。

●速さの調節

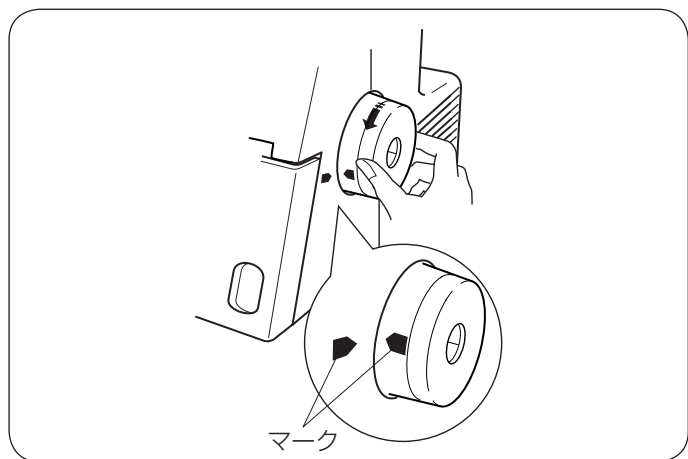
ぬう速さは、フットコントローラーのふみかげんで調節します。

- 深くふむ→速くなる。
- 浅くふむ→遅くなる。

※ フットコントローラーをふみ込んでもミシンが動かない場合、もう一度電源を入れなおし、フットコントローラーをゆっくりふみ込んでください。

⚠ 注意

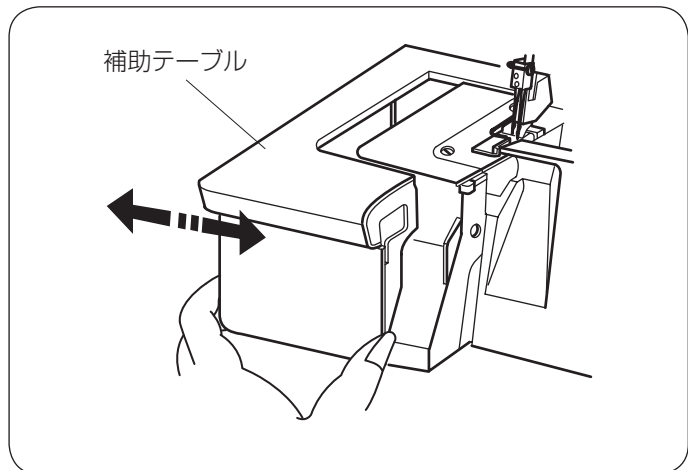
- フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因になります。
- フットコントローラーを使用するときは、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
動作不良を起こし、けがや故障の原因になります。



● はずみ車の使い方

糸を通したあと、ぬい始め、ぬい終わりなど、はずみ車をまわすときは、手前にまわします。

※ 上メスを解除する場合、はずみ車を手でまわし、ミシンのマークとはずみ車のマークを合わせます。
(12 ページ参照)

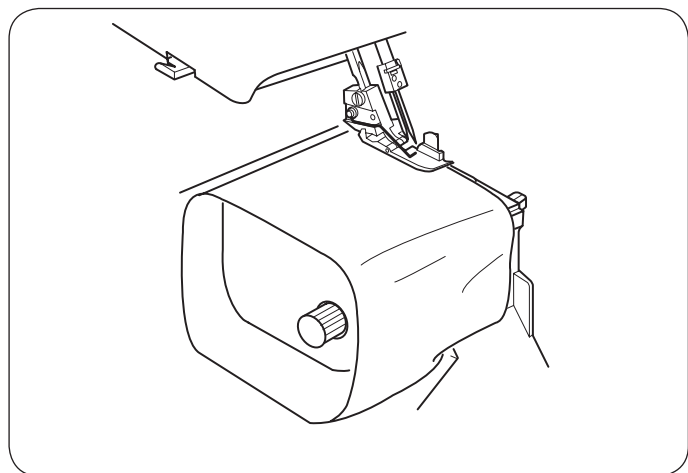


● 補助テーブル

【補助テーブルの外し方・付け方】

補助テーブルを横に引いて外します。

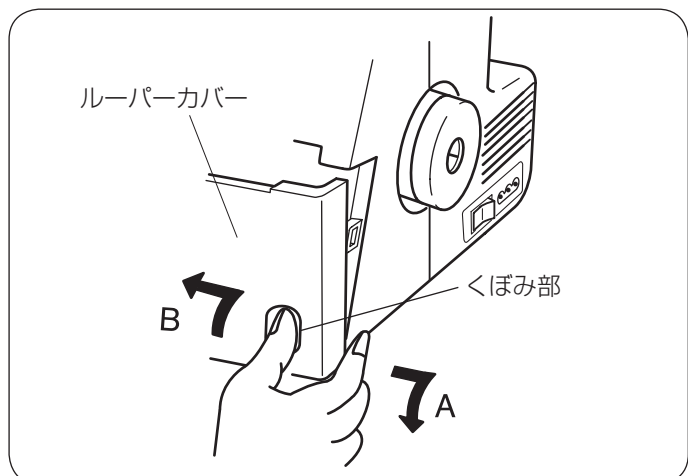
補助テーブルを取り付けるときは、反対方向にカチッと音がするまで入れて取り付けます。



● フリーアームの使い方

補助テーブルを外すと、フリーアームになります。

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。



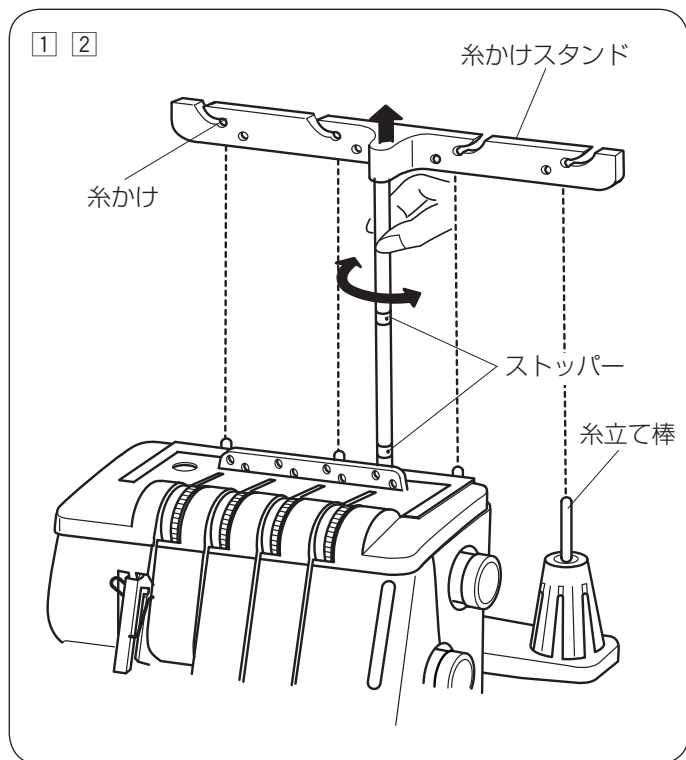
● ルーパーカーバーの開け方、閉め方

【開け方】

ルーパーカーバーのくぼみ部に指を入れ、右側にいっぱい引いてから手前に引きます。(図 A の方向)

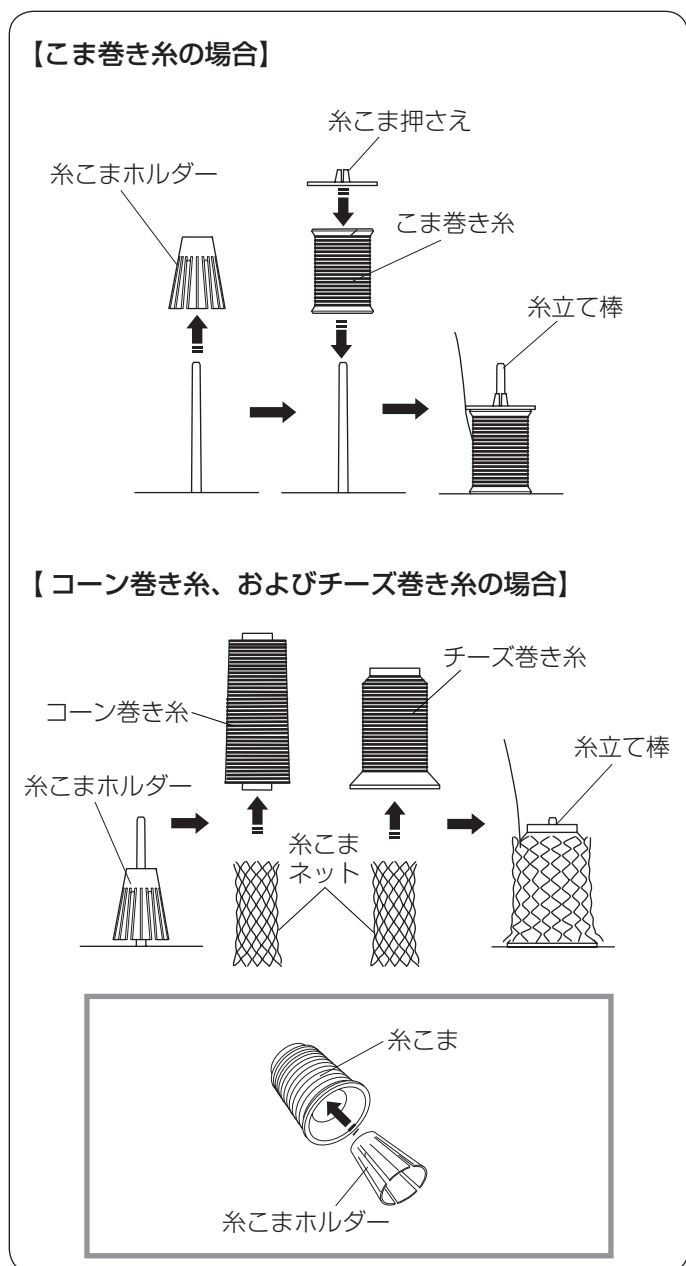
【閉め方】

ルーパーカーバーを持ち上げて、軽く押し付けると閉まります。(図 B の方向)



● 糸かけスタンドの位置決め

- ① 糸かけスタンドをいっぱい伸ばします。
 - ② 糸かけが糸立て棒の真上にくるように、糸かけスタンドを回転させ、ストッパーで位置を決めます。
- ※ ストッパーは図のように2か所あります。
必ず2か所ともきちんと位置を決めます。



● 糸こま押さえ、糸こまネットの付け方

このマシンはこま巻き糸と、コーン巻き糸およびチーズ巻き糸が使用できます。

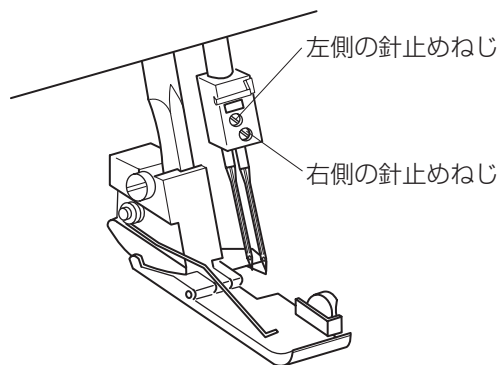
こま巻き糸は、糸こまホルダーを外し、こま巻き糸を糸立て棒にセットして糸こま押さえを差し込みます。

コーン巻き糸、およびチーズ巻き糸は糸こまホルダーを使います。

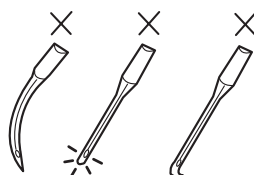
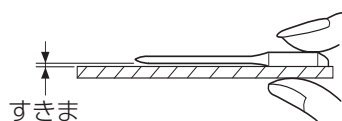
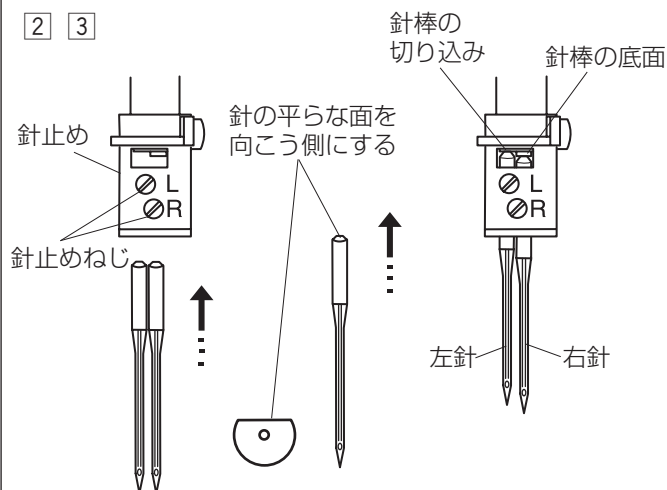
化繊糸などの特に巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸こまネットを下からかぶせて使用してください。

※ 糸こまが動く場合は、糸こまホルダーを奥まで差し込んで、糸立て棒に糸こまをセットしてください。

1



2 3



● 針の取りかえ方

※ 針はHAx1SPの14番または11番をお使いください。

※ 購入時のミシンには14番針が付いています。

⚠ 注意

針を交換する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがの原因となります。

はずみ車を手で手前にまわし、針をいちばん上にあげます。

① 取りかえる針の針止めねじをドライバー（小）でゆるめ、針を外します。

② 右側の針を付ける場合、針止めの右側の穴に針を取り付けます。

針の平らな面を向こう側に向けて、針棒の底面に突きあたるまで差し込み、右側の針止めねじをかたくしめます。

③ 左側の針を付ける場合、針止めの左側の穴に針を取り付けます。

針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱい針棒の切りこみに突きあたるまで差し込み、左側の針止めねじをかたくしめます。

※ 針の取り付けは、針ホルダーを使うと便利です。
（下記「針ホルダーの使い方」参照）

※ 片方の針のみ使用するとき、使わない方の針止めねじは、外れないようにかくしておきます。

※ 針が正しく取り付けられていると、左図のように左側の針は、右側の針よりも少し上に上がった位置にあります。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたときに、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。

※ 針先が曲がったり、つぶれたりしているものは使わないでください。

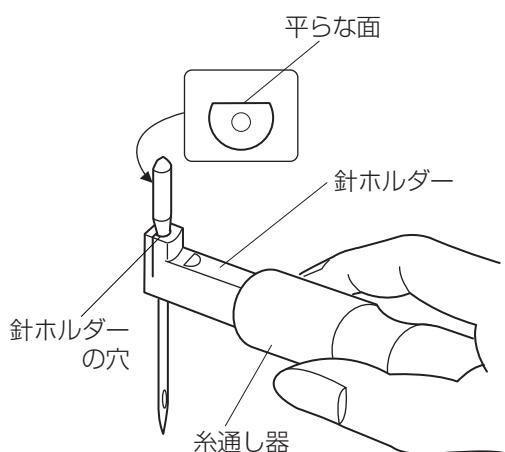
★ 針ホルダーの使い方

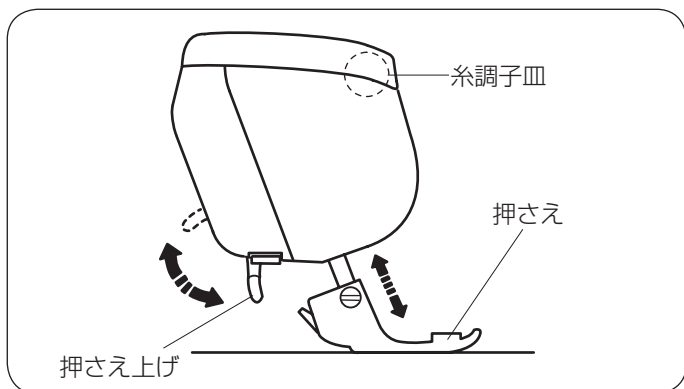
針をミシンに取り付ける場合、糸通し器の針ホルダーを利用すると簡単に取り付けることができます。

① 針の平らな面を向こう側にして、糸通し器の針ホルダーの穴に針を差し込みます。

② 糸通し器を持って、ミシンの針止めに針をしっかり差し込みます。

③ 針止めねじをかたくしめ、針ホルダーを引き下げて取り外します。



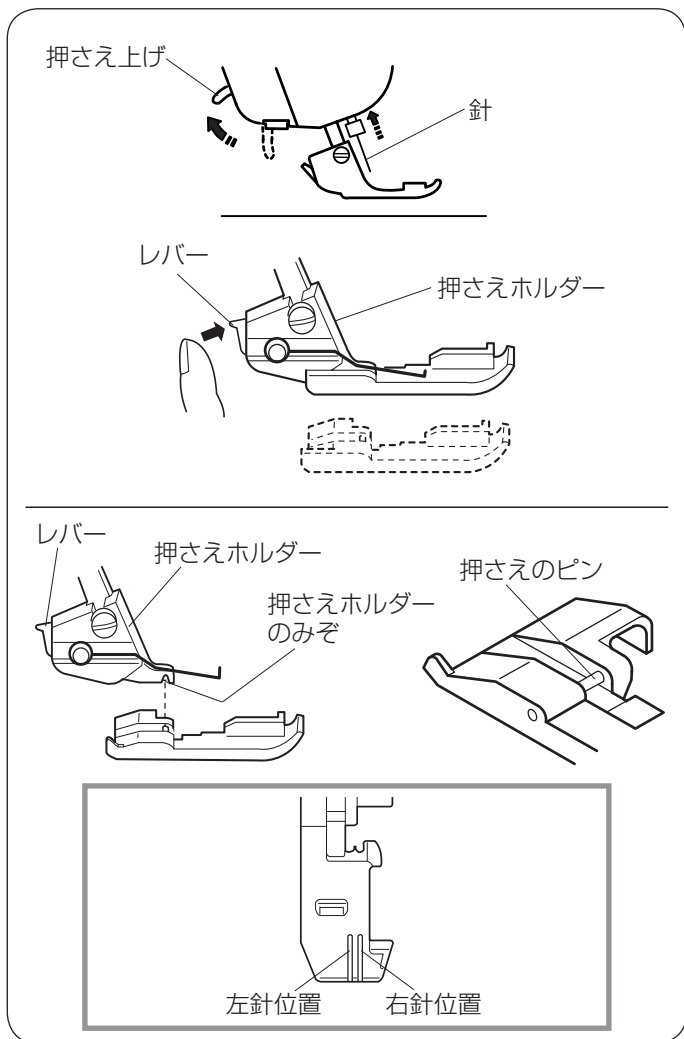


● 押さえ上げの使い方

押さえをあげ下げするとき、押さえ上げを上下に動かします。

※ 一般的に、糸を通し直すとき以外は、押さえ上げをさげたままにして、使用します。

※ 押さえ上げをあげると、糸調子皿が開きます。糸調子に糸を通すときは、必ず押さえ上げをあげてください。



● 押さえの取りかえ方



注意

押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【押さえの外し方】

押さえ上げをあげ、はずみ車を手で手前にまわして針をいちばん上まであげます。

押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、押さを外します。

※ レバーを上から押さないでください。故障の原因となります。

【押さえの付け方】

押さえのピンを押さえホルダーのみぞの下に置き、押さえ上げを静かにおろします。

※ 押さえが入りにくい場合は、押さえ上げをさげたまま、レバーを押してください。

※ 押さえ上げをあげ、押さえが確実に付いていることを確認してください。

※ 押さえの先端には2本の指示線が入っています。右の指示線は右針位置を、左の指示線は左針位置を示しています。布を押さえの下に入れるとき、ぬい目位置の目安として使います。

● 押さえ圧の調節

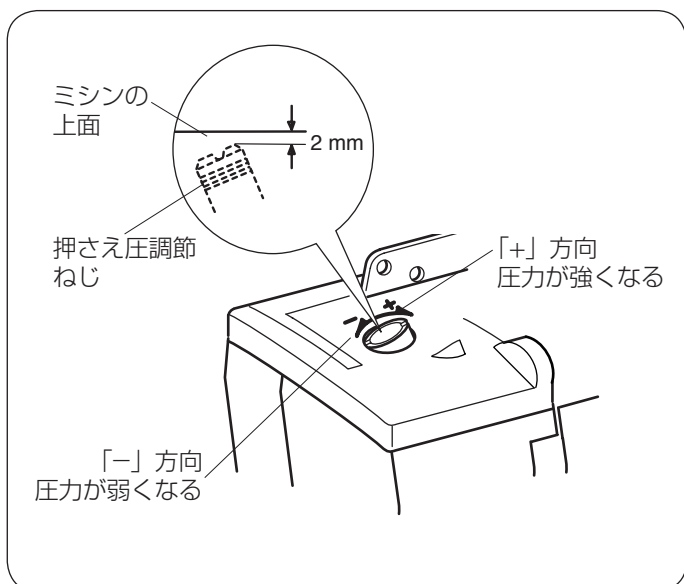
通常、押さえ圧を調節する必要ありませんが、極薄ものや極厚ものをぬう場合、押さえ圧調節ねじで調節してください。

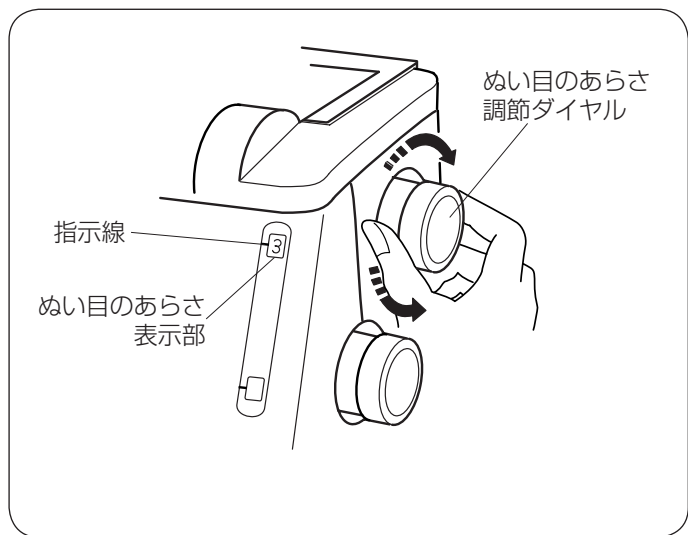
※ 極薄ものをぬうとき、押さえ上げをさげ、ドライバーで押さえ圧調節ねじを「-」方向にまわして、圧力を弱くします。

※ 極厚ものをぬうとき、押さえ上げをさげ、ドライバーで押さえ圧調節ねじを「+」方向にまわして、圧力を強くします。

ぬい終わったら、押さえ圧調節ねじは標準位置にもどしてください。

押さえ圧調節ねじの標準位置は、ミシンの上面からおよそ2mm低い位置です





● ぬい目のあらしの調節

ぬい目のあらし調節ダイヤルで、ぬいの種類に応じたぬい目のあらしを選ぶことができます。

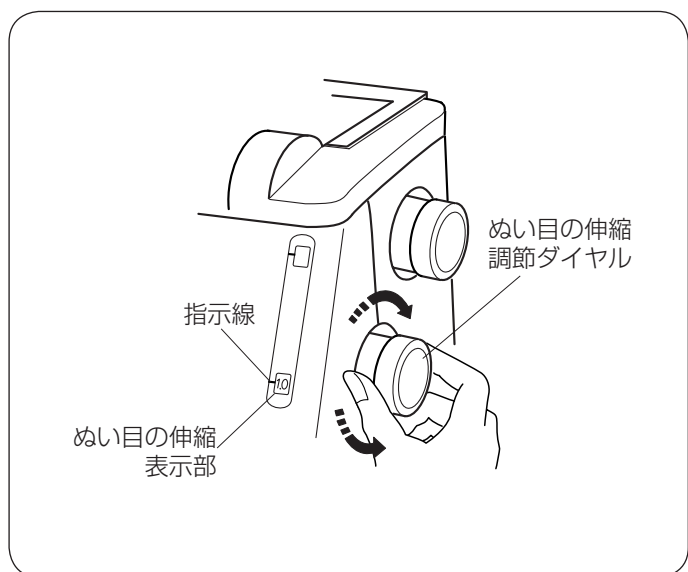
ぬい目のあらし調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。

※ ぬい目のあらしは、最小 1 mm から最大 5 mm まで調節できます。

※ 目盛「R」は、巻きぬいまたは細ロックぬいをするときのぬい目のあらしで、約 1.5 mm です。

※ ぬい目のあらしダイヤルをまわして、クリック感の大きな位置が標準（普通のふちかがりぬい）位置の「3」（約 3 mm）です。

※ 表示の数値は目安です。



● ぬい目の伸縮調節

ぬい伸び、ぬい縮みしやすい布地をぬい目の伸縮ダイヤルで平らにきれいに仕上げることができます。

ぬい目の伸縮ダイヤルの目盛を指示線に合わせて伸び縮みを調節します。

※ ぬい目の伸縮ダイヤルの目盛「1.0」は伸縮比「1.0」を表示し、ぬい目の伸縮のかかっていない状態です。（伸縮比は差動比とも呼ばれています。）

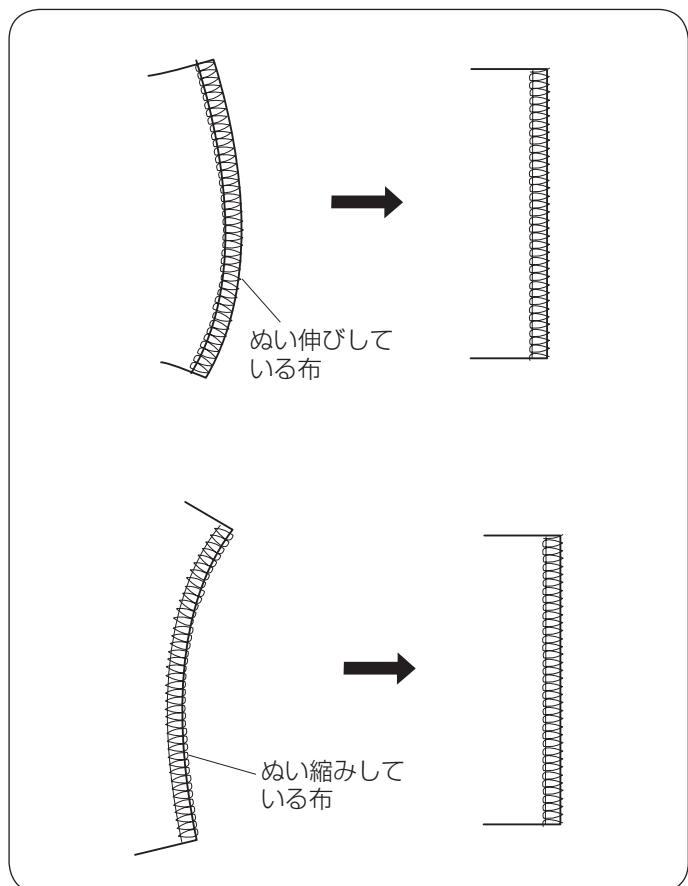
※ 目盛が「1.0」より大きいと布を縮ませながらぬう状態になり、「1.0」より小さいと布を伸ばしながらぬう状態になります。

※ ぬい目の伸縮ダイヤルをまわして、クリック感の大きな位置が標準の「1.0」の位置です。

※ 表示の数値は目安です。

【布地が伸びてしまうときの直し方】

ぬい目の伸縮調節ダイヤルを手前側へまわし「2.2」の方へ大きくするに従い、ぬい伸び防止の効果が高まります。



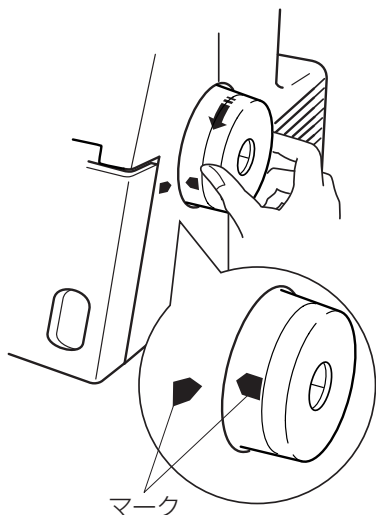
【布地が縮んでしまうときの直し方】

ぬい目の伸縮調節ダイヤルを向こう側へまわし「0.5」の方へ小さくするに従い、ぬい縮み防止の効果が高まります。

※ ぬい目のあらし調節ダイヤルを「1」～「4」に設定した場合、最大伸縮比は「2.2」になります。

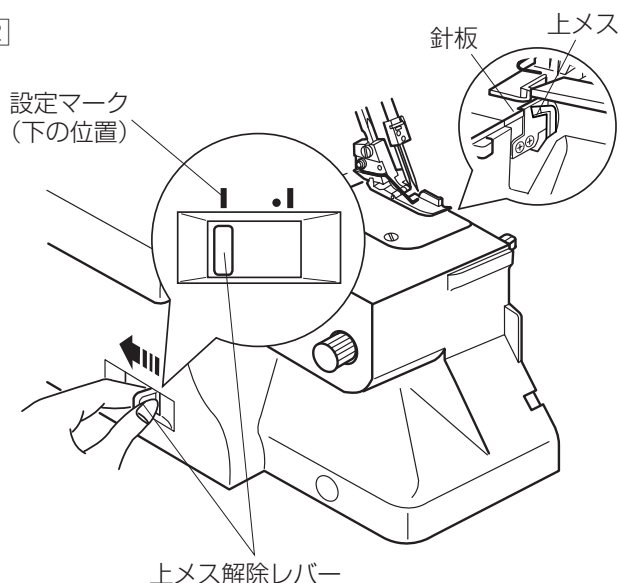
※ ぬい目のあらし調節ダイヤルを「5」に設定した場合、最大伸縮比は「1.8」に制限されます。

1 3



マーク

2



設定マーク
(下の位置)

針板 上メス

上メス解除レバー

● 上メスの解除と駆動

⚠ 注意

- 上メス解除レバーを操作する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因となります。
- 上メスを使用する場合、布以外のものを切らないでください。故障の原因となります。

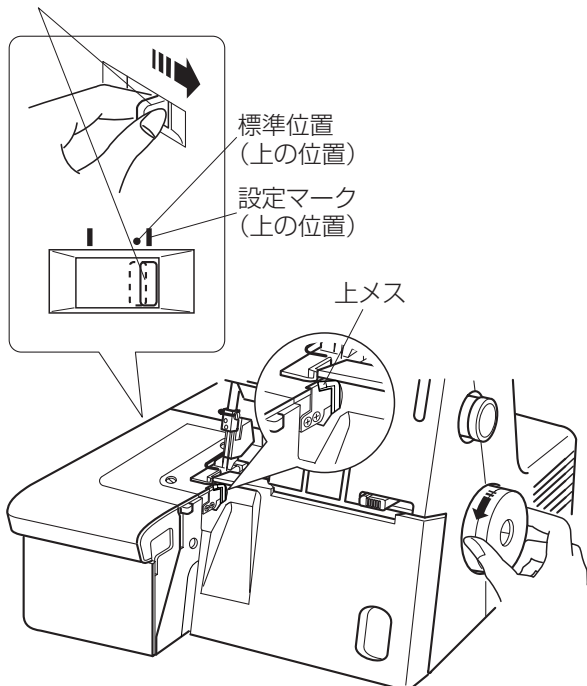
フラットロックやピンタックのように布を切らずにぬうときには、上メスを解除します。

【解除のし方】

- 1 はずみ車を手で手前にまわし、ミシンのマークとはずみ車のマークを合わせます。
- 2 上メス解除レバーを奥にある設定マークまで完全に押し下げます（下の位置）。
※ 上メスは針板の下位置にきます。
- 3 はずみ車を手で手前にまわし、上メスの解除を確認します。

1 2 3

上メス解除レバー

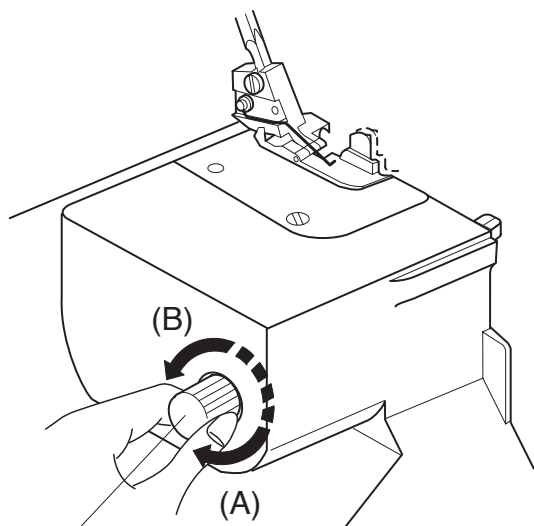


標準位置
(上の位置)
設定マーク
(上の位置)

上メス

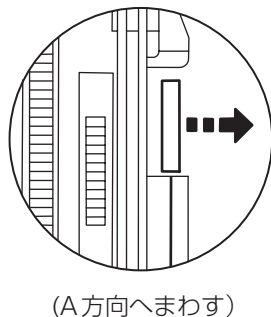
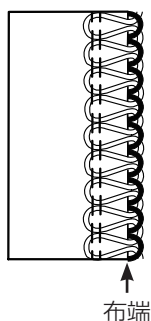
【駆動のし方】

- 1 上メス解除レバーを手前の設定マークまで引っ張りながら、はずみ車を手で手前に完全に1回転させます（上の位置）。
- 2 上メス解除レバーを放すと、丸いマークの標準位置に少しもどります。
- 3 はずみ車を手で手前にまわし、上メスが駆動するか確認します。

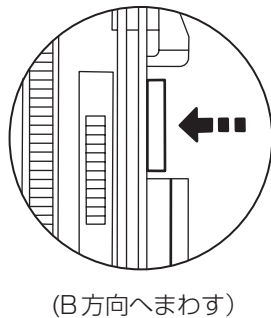
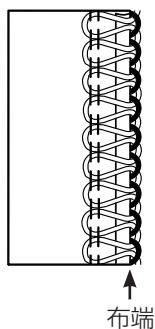


切り幅調節ダイヤル

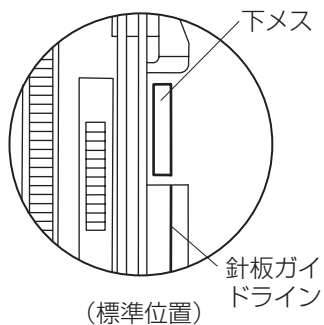
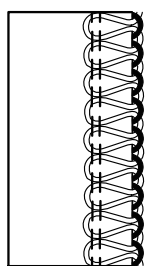
【布端がぬい目にとどかない場合】



【布端が余りすぎる場合】



【正しいぬい目】



● 切り幅の調節



注意

切り幅を調節する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

ぬい目の右端と布とのすきまが詰まりすぎたり、あきすぎたりするときは、布端を切るメスの位置を切り幅調節ダイヤルで調節します。

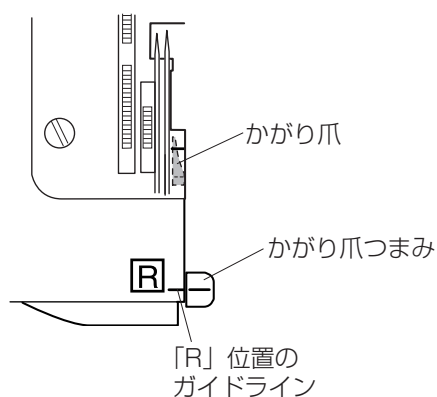
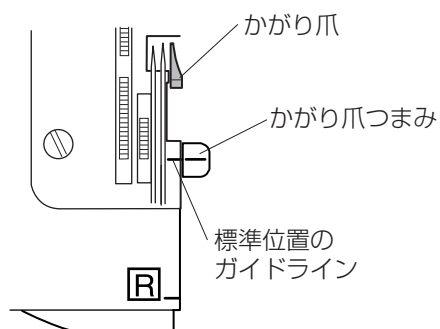
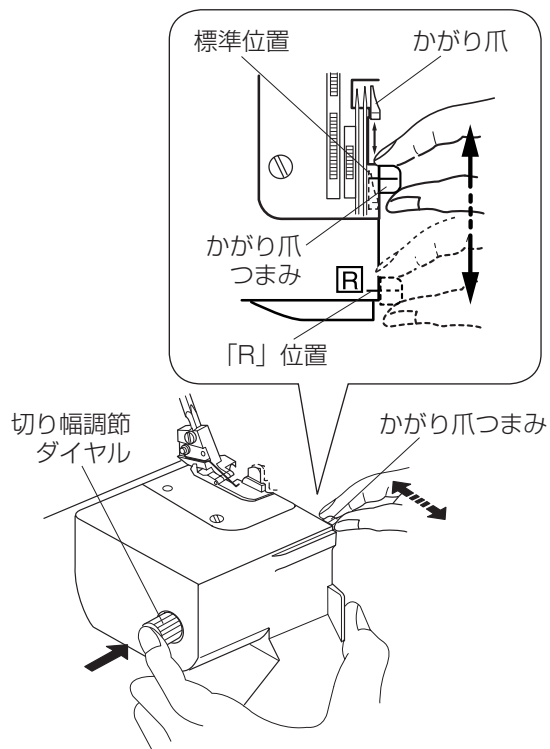
※ 切り幅調節ダイヤルを使う場合、補助テーブルを外します。(7 ページ参照)

① 切り幅調節ダイヤルをまわして、布端を切るメスの位置を合わせます。

- 布端がぬい目にとどかない場合、切り幅調節ダイヤルを A 方向へまわして、下メスを右へ移動します。
- 布端が余りすぎてシワになる場合、切り幅調節ダイヤルを B 方向へまわして、下メスを左へ移動します。

※ 下メスの標準位置は、下メスの右側面と針板ガイドラインが一致する位置です。

② 試しぬいをして、切り幅を確認します。



● かがり爪の切りかえ（ふちかがりぬいと巻きぬい、ピコぬい、細ロックの切りかえ）

かがり爪の位置は標準位置と「R」位置があり、ぬい目の種類に合わせて切りかえます。

⚠ 注意

かがり爪の切りかえをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【切りかえ方】

- ① 補助テーブルを外し、ルーパーカバーを開けます。（7 ページ参照）
- ② 切り幅調節ダイヤルを右いっぱいを押しながら、かがり爪つまみを標準位置または「R」位置へ移動します。
※ 移動が完了したら、切り幅調節ダイヤルの手をはなし、元にもどします。
- ③ ルーパーカバーを閉じ、補助テーブルを取り付けます。（7 ページ参照）

【標準位置】（ふちかがりぬい）

普通のふちかがりぬいの場合、標準位置に設定します。
普通のふちかがりぬいでは、布ふちでかがり糸を支えるため、左図のようにかがり爪が針板の側面にくるよう、かがり爪つまみを標準位置のガイドラインに合わせます。

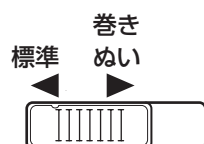
【R 位置】（巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬい）

巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬいの場合、「R」位置に設定します。

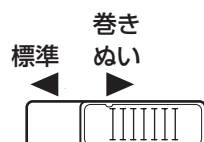
巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬいでは布ふちをまきこむため、かがり爪は不要となります。

左図のようにかがり爪が針板の下側にくるよう、かがり爪つまみを「R」位置のガイドラインに合わせます。

《普通のふちかがりぬいの場合》



《巻きぬいの場合》



● 補助糸調子スライドつまみとスライド糸案内の設定

★ 補助糸調子スライドつまみ

普通のふちかがりぬいの場合、補助糸調子スライドつまみを「標準」に設定します。

※ 2 本、3 本、4 本糸のぬいすべてに適用します。

巻きぬいの場合、補助糸調子スライドつまみを「巻きぬい」に設定します。

※ 2 本、3 本糸のぬいに適用します。

★ スライド糸案内

スライド糸案内は、ルーパーカバーを開けると正面にあります。(7 ページ参照)

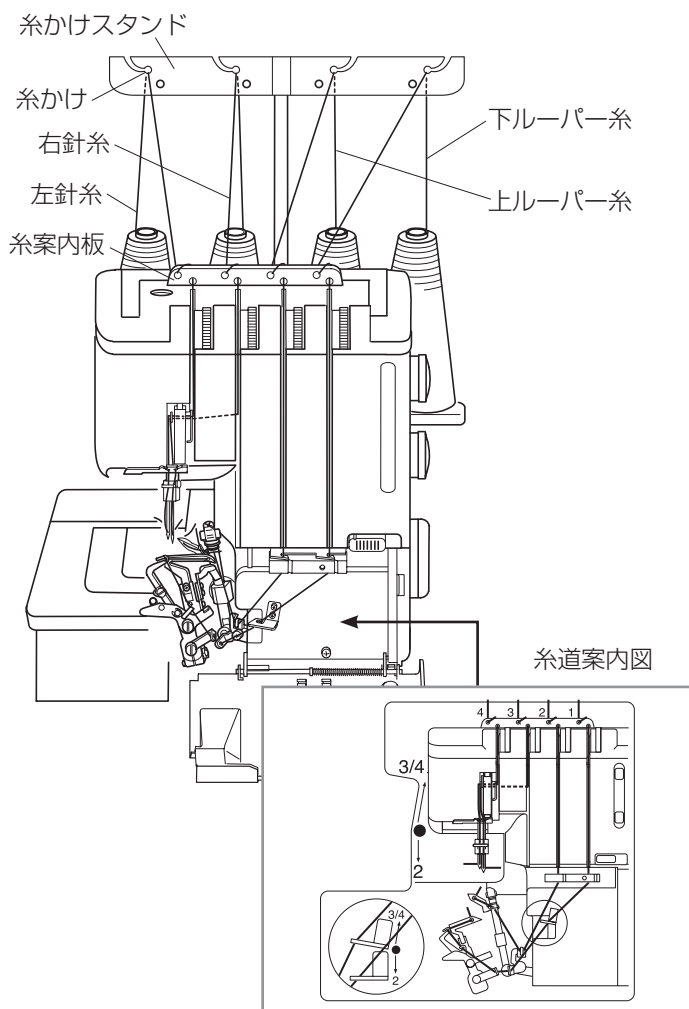
⚠ 注意

3 本または 4 本糸のぬいと、2 本糸のぬいで、スライド糸案内を必ず切りかえてください。
スライド糸案内を正しく切りかえていないと、補助糸調子スライドつまみをぬいに合わせて設定しても、適正な糸調子が得られず、正しいぬい目になりません。

補助糸調子スライドつまみとスライド糸案内の設定の組み合わせによって、下ルーパー糸調子圧は下表のように設定されます。

補助糸調子スライドつまみ スライド糸案内	普通のふちかがりぬい	巻きぬい
	標準 巻きぬい	標準 巻きぬい
3 本または 4 本糸でのぬい	下ルーパー糸調子圧 変化なし	下ルーパー糸調子圧 強くなる
2 本糸でのぬい	下ルーパー糸調子圧 強くなる	下ルーパー糸調子圧 変化なし

※ 下ルーパー糸通しをするときは、補助糸調子スライドつまみを「標準」側に、スライド糸案内を「3/4」側に合わせてください。



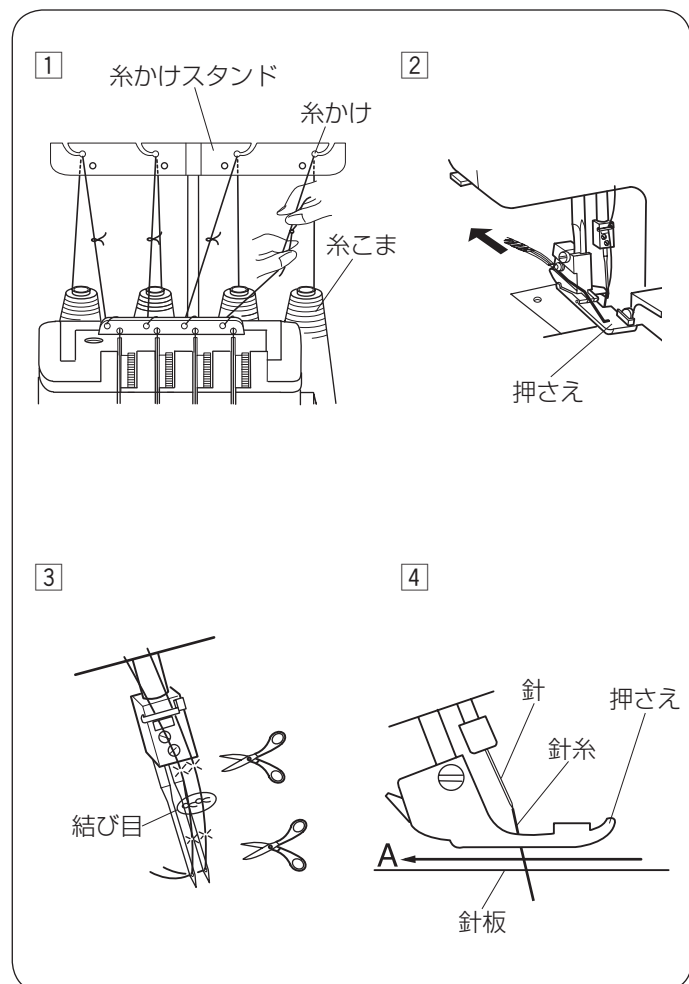
◎糸の通し方

● 2 本針 4 本糸ふちかがりぬいの場合

左の図は 4 本の糸を通し終わった状態です。

⚠ 注意

糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。



購入時のマシンには、あらかじめ糸がセットされています。
糸を通すときは、次のようにすると簡単に糸が通せます。

- ① 糸こまをセットします。(8 ページ参照)
糸こまから引き出した糸を、糸かけスタンドの糸かけに通します。
糸こまから引き出した糸と、あらかじめセットされている糸の両端を結びます。
- ② 押さえ上げをあげ、押さえの下から向こう側へ糸を引き出します。
- ③ 結び目が針穴の直前に到達したら、針の糸を引くのをやめます。
結び目を切って針の目に通します。
- ④ 押さえの下から針糸を A の方向に引き出します。
押さえから約 10 cm ほど糸をうしろへ引き出し、押さえをさげます。

※ 新たに糸を通す場合、下ルーパー糸、上ルーパー糸、右針糸、左針糸の順に通します。
通した各糸は、うしろへ約 10 cm ほど引き出しておきます。

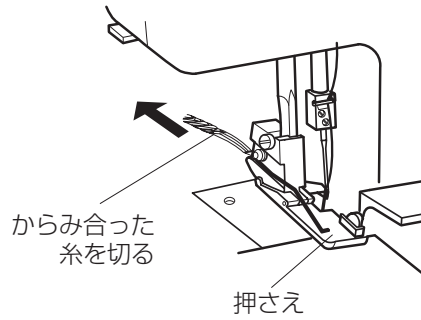
● 糸が 1 本だけ切れて通し直す場合



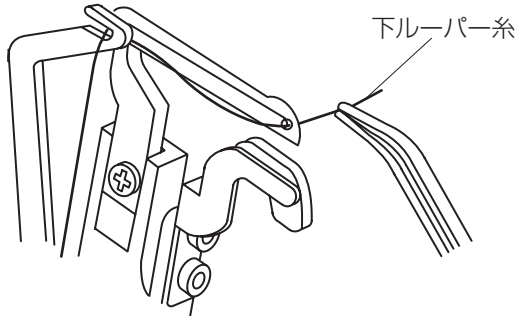
注意

糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

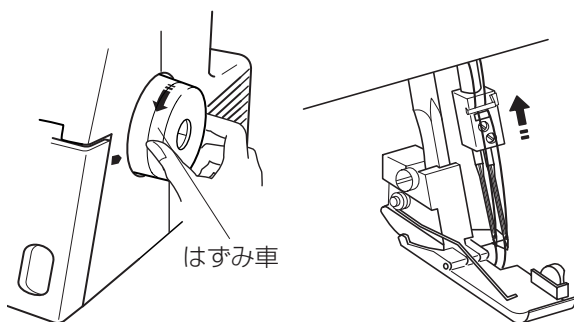
1



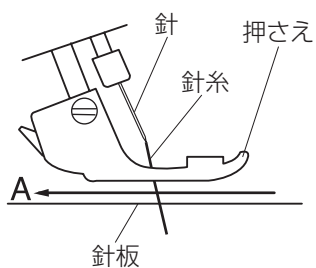
2



3



4



① 押さえをあげ、切れてない残りのからみ合った糸を押さえのうしろまで引き出します。

からみ合った糸を切り、糸どうしがからみ合っていない状態にします。

② 切れた糸を通し直します。(例では下ルーパー糸)

③ はずみ車を手で手前にまわし、針を上いっぱいまであげます。

④ 押さえの下から針糸を A の方向に引き出します。
押さえから約 10 cm ほど糸をうしろへ引き出し、押さえをさげます。

● 下ルーパー糸の通し方

⚠ 注意

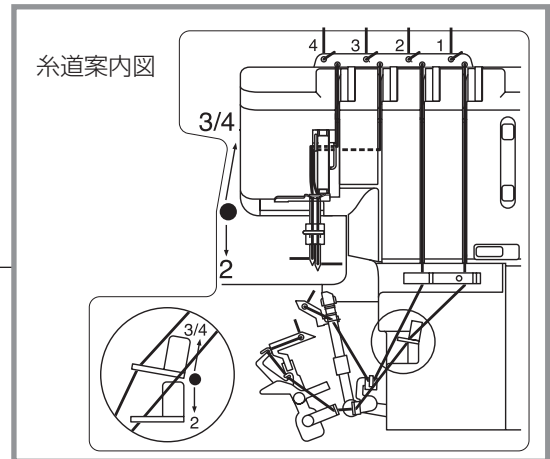
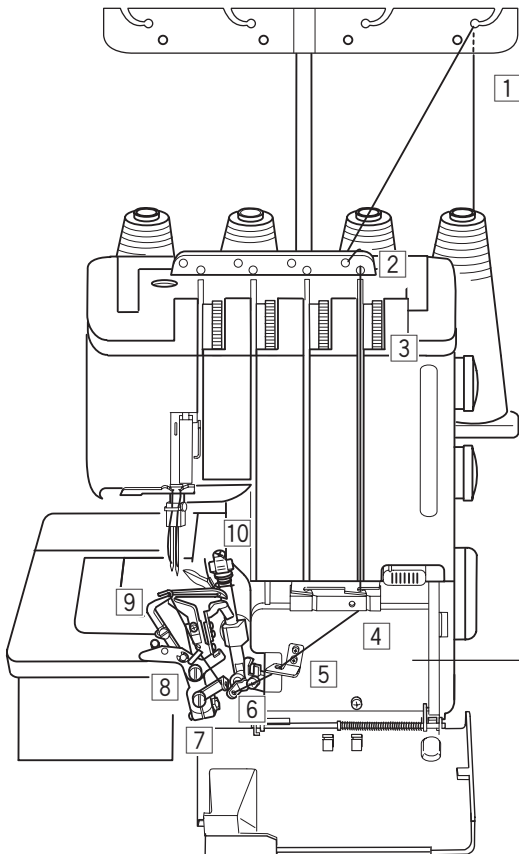
糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

ルーパーカバーを開きます。(7 ページ参照)

右端の糸立て棒に糸コマをセットします。(8 ページ参照)

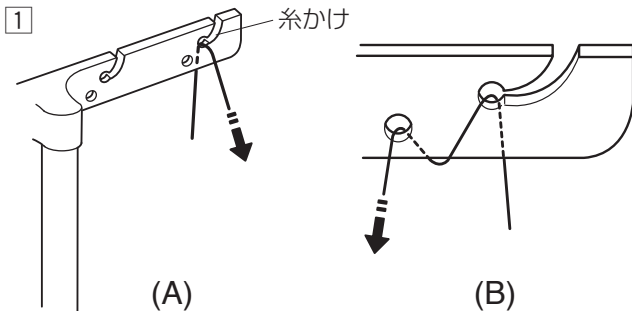
※ 糸道案内図の緑色マークの糸道を通します。

※ 糸道案内図は、ルーパーカバーを開けると左図の位置にあります。

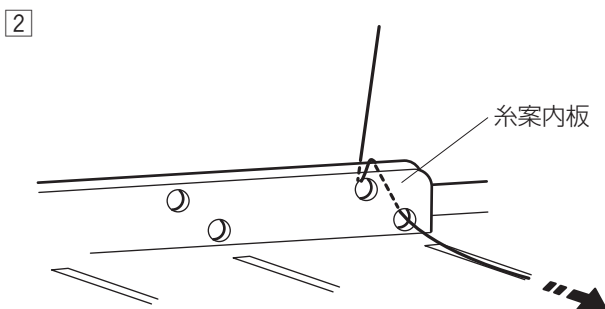


① 糸コマから引き出した糸を、右側の糸かけにかけます。

※ 通常は (A) のように糸をかけますが、糸かけから外れやすい糸は (B) のように穴にもう一度通します。



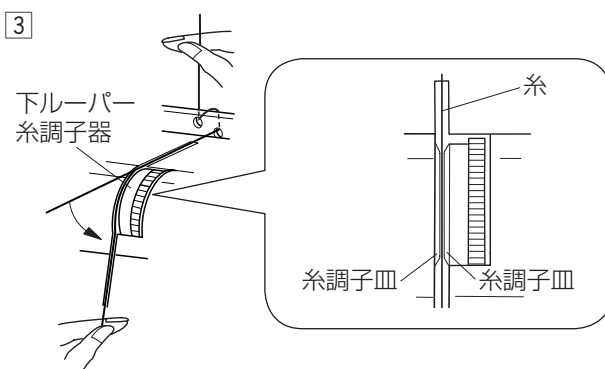
② 糸案内板の 1 番右側の 2 つの穴に糸を通します。



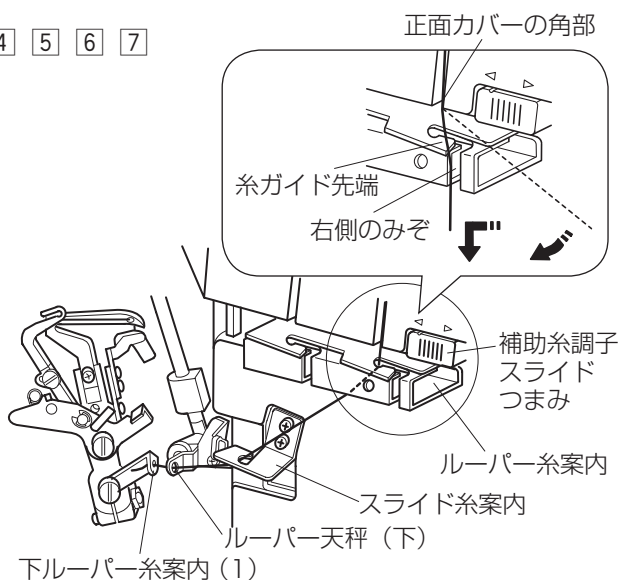
③ 糸の両端を持ってゆっくりと引っ張り、下ルーパー糸調子器の 2 枚の糸調子皿のあいだに糸を通します。

※ 押さえ上げをあげると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

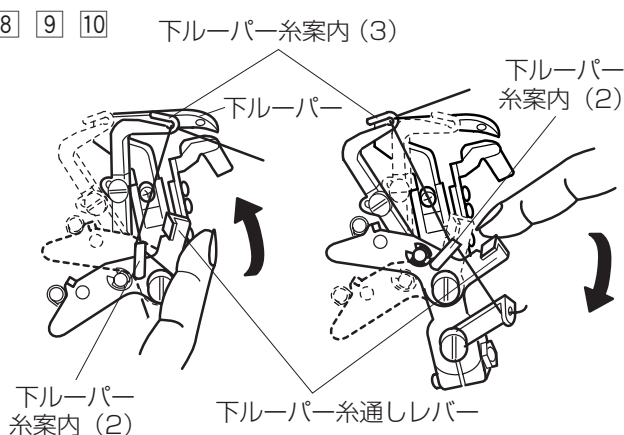
※ 糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿のあいだに入っていることを確かめてください。



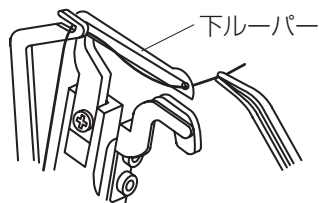
4 5 6 7



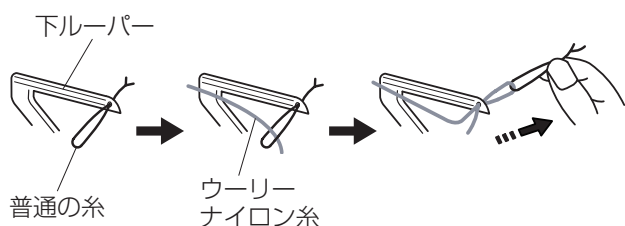
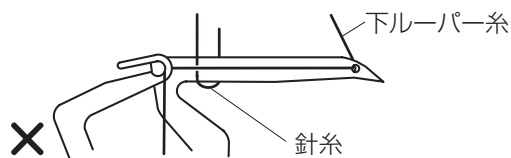
8 9 10



11



【針糸が下ルーパーを捕捉した状態】



- 4 糸を正面カバーの角部、糸ガイド先端の順に案内し、ルーパー糸案内の右側のみぞに通します。
- 5 スライド糸案内に糸を通します。
※ 下ルーパー糸通しをするときは、補助糸調子スライドつまみを「標準」側に、スライド糸案内を「3/4」側に合わせておきます。
- 6 ルーパー天秤 (下) に糸を通します。
- 7 下ルーパー糸案内 (1) に糸を通します。

- 8 はずみ車を手前にまわし、下ルーパーが1番右にくる位置にすると、下ルーパー糸案内 (2) が現れます。下ルーパー糸ガイド (2) に糸をかけます。
- 9 下ルーパー糸通しレバーを持ちあげると、下ルーパー糸ガイド (3) が、上方に現われます。下ルーパー糸ガイド (3) に糸をかけます。
- 10 糸の先端を持って、下ルーパー糸通しレバーを指で押し下げると下ルーパー糸案内 (2)、(3) は、元の位置にもどります。
※ 下ルーパー糸通しレバーをもどしわすれても、はずみ車を手前にまわすと、下ルーパー糸通しレバー、下ルーパー糸案内 (2)、(3) は自動的に元の位置にもどります。
- 11 はずみ車をまわし、再び下ルーパーが1番右にくる位置にします。下ルーパーの糸穴に糸を通し、糸穴から10 cm ほど糸端を引き出しておきます。

※ 針糸が下ルーパーに絡まっていないことを確認してください。針糸が下ルーパーを捕捉した状態で下ルーパー糸を通すと、正しくぬえません。針糸を下ルーパーから外して、下ルーパー糸を通してください。

※ 糸を通し終わったら、ルーパーカバーを閉めます。

★ ウーリーナイロン糸の通し方

下ルーパーの糸穴に通しにくいウーリーナイロン糸などは、左図の方法で通します。

※ 上ルーパーも、同じ方法で糸を通してください。

● 上ルーパー糸の通し方

⚠ 注意

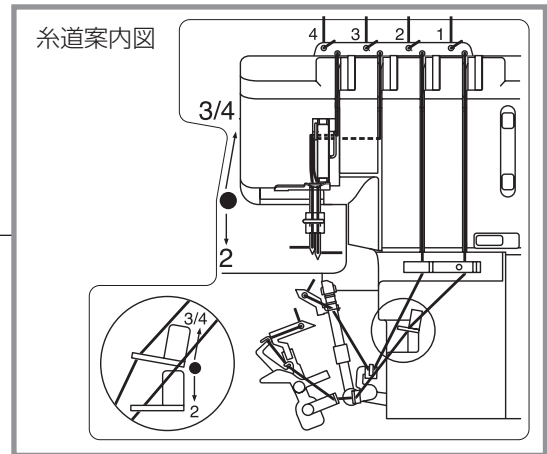
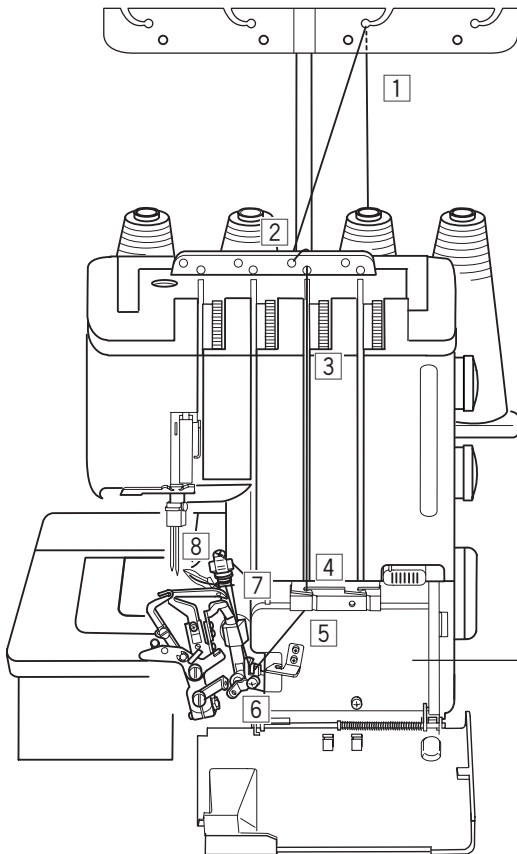
糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

ルーパーカバーを開きます。(7 ページ参照)

右から 2 番目の糸立て棒に糸コマをセットします。
(8 ページ参照)

※ 糸道案内図の赤色マークの糸道を通します。

※ 糸道案内図は、ルーパーカバーを開けると左図の位置
にあります。



① 糸コマから引き出した糸を、右から 2 番目の糸かけ
にかけます。

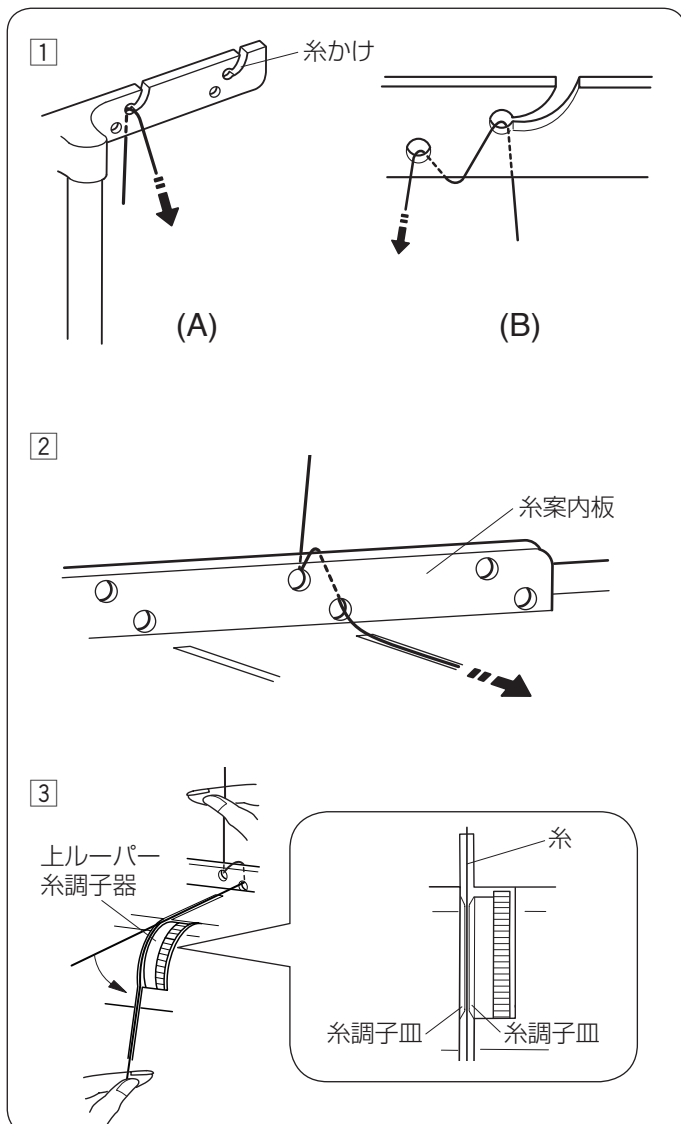
※ 通常は (A) のように糸をかけますが、糸かけか
ら外れやすい糸は (B) のように穴にもう一度通
します。

② 糸案内板の右から 2 番目の 2 つの穴に糸を通します。

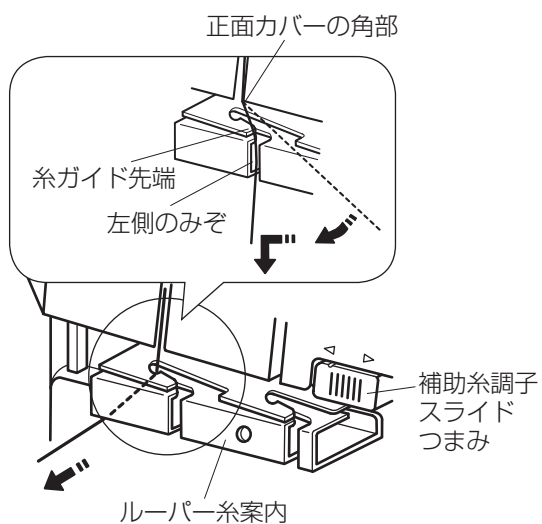
③ 糸の両端を持ってゆっくりと引っ張り、上ルーパー糸
調子器の 2 枚の糸調子皿のあいだに糸を通します。

※ 押さえ上げをあげると糸調子皿が開放され、糸が
入りやすくなります。

※ 糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子
皿のあいだに入っていることを確かめてください。



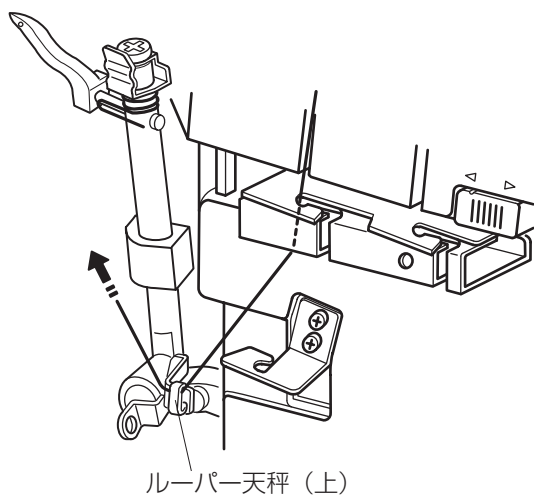
4 5



4 糸を正面カバーの角部、糸ガイド先端の順に案内します。

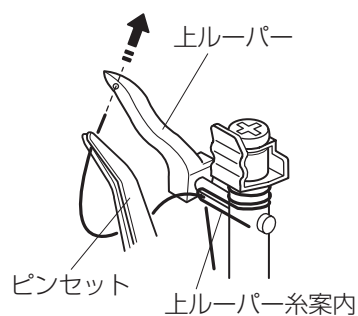
5 ルーパー糸案内の左側のみぞに糸を通します。

6



6 ルーパー天秤 (上) に糸を通します。

7 8



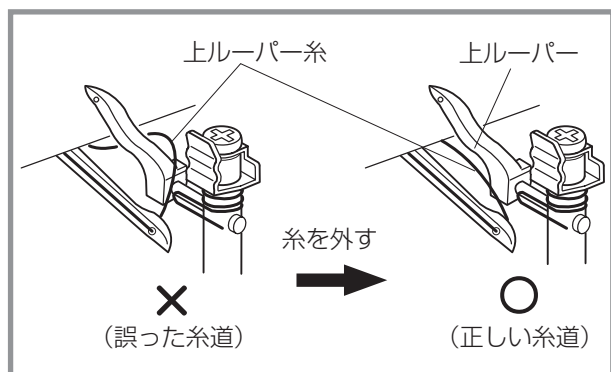
7 上ルーパー糸案内に右側から糸をかけます。

8 糸の先端をピンセットでつまみ、上ルーパーの糸穴に通します。糸は糸穴から 10 cm ほど引き出しておきます。

※ 上ルーパーが移動の中間点にくる位置まで、はずみ車を手前にまわします。

上ルーパーから下ルーパー糸を外し、上ルーパーの糸穴に糸を通します。

※ 糸を通し終わったら、ルーパーカバーを閉めます。



● 右針糸の通し方

⚠ 注意

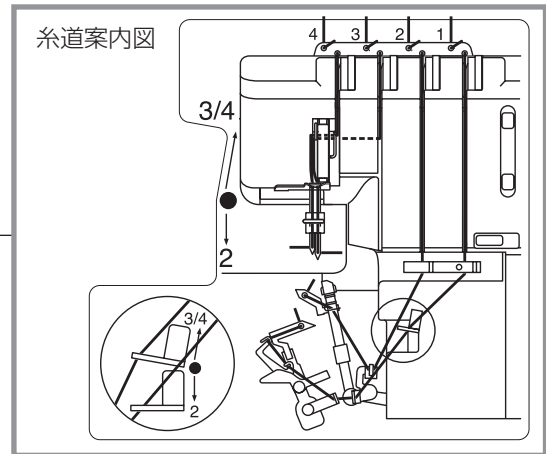
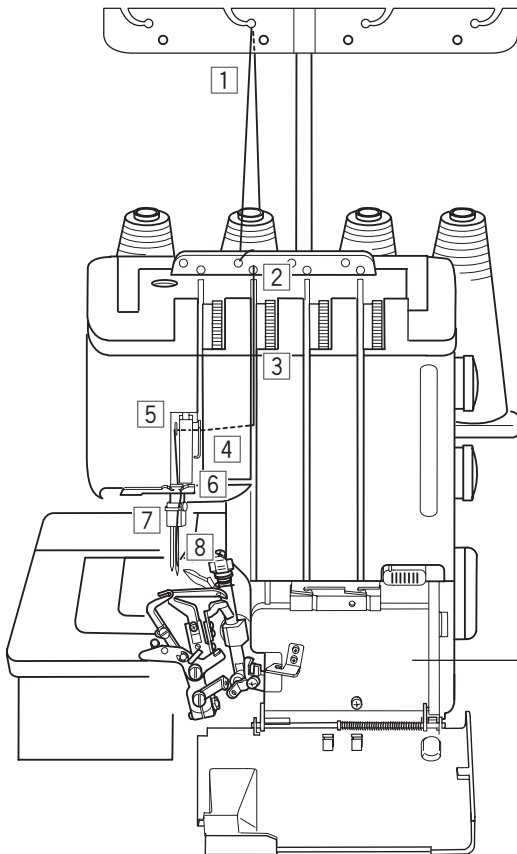
糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

ルーパーカバーを開きます。(7 ページ参照)

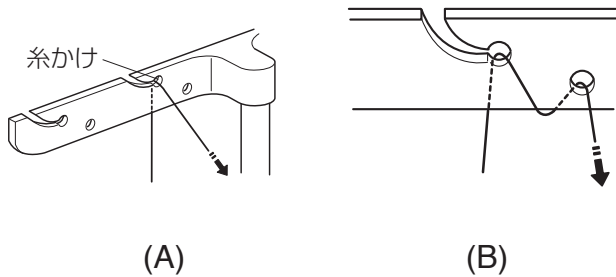
左から 2 番目の糸立て棒に糸コマをセットします。
(8 ページ参照)

※ 糸道案内図の青色マークの糸道を通します。

※ 糸道案内図は、ルーパーカバーを開けると左図の位置
にあります。



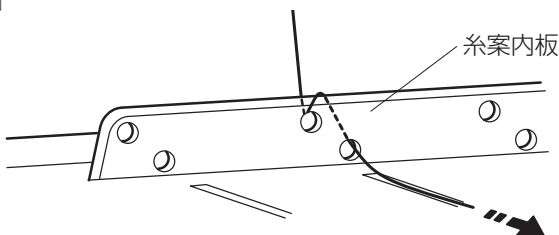
①



① 糸コマから引き出した糸を、左から 2 番目の糸かけに
かけます。

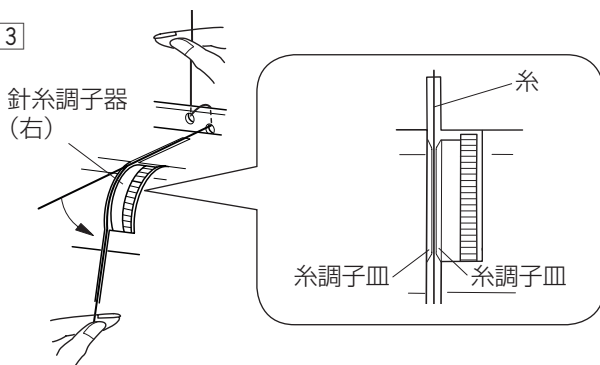
※ 通常は (A) のように糸をかけますが、糸かけか
ら外れやすい糸は (B) のように穴にもう一度通
します。

②



② 糸案内板の左から 2 番目の 2 つの穴に糸を通します。

③

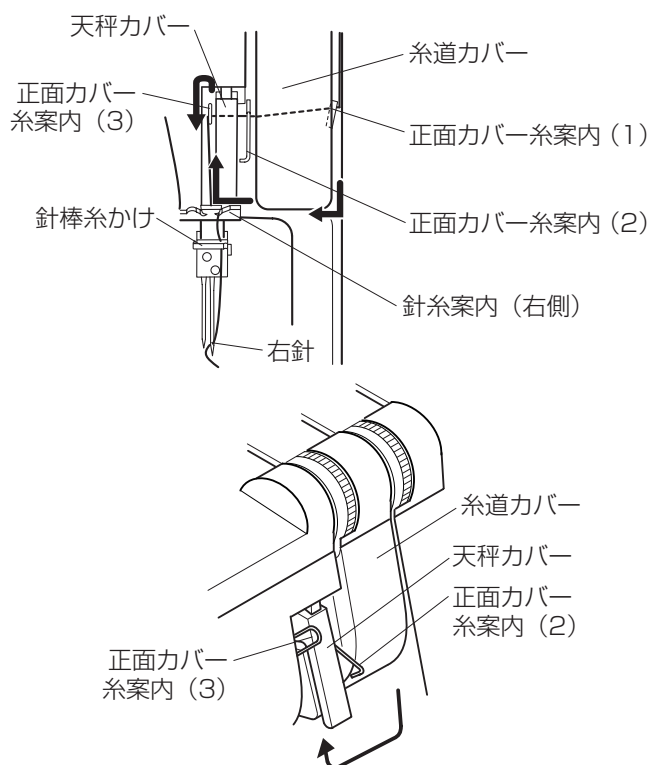


③ 糸の両端を持ってゆっくりと引っ張り、針糸調子器
(右) の 2 枚の糸調子皿のあいだに糸を通します。

※ 押さえ上げをあげると糸調子皿が開放され、糸が
入りやすくなります。

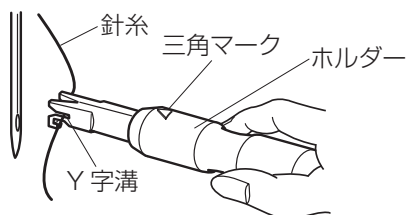
※ 糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子
皿のあいだに入っていることを確かめてください。

4 5 6 7 8

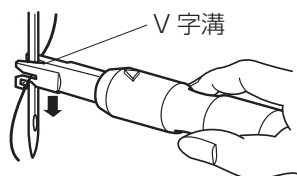


- 4 はずみ車を手前にまわし、針をいちばん上にあげます。
糸を正面カバーのみぞにそって糸道カバーの下側まで
引き降ろし、そのまま天秤カバーの下までまわします。
- 5 天秤カバーの左側面にそって糸を引きあげ、正面カ
バー糸案内 (3) の上側から糸を通します。
このとき、正面カバー糸案内 (1) と (2) に糸がか
かります。
- 6 針糸案内 (右側) のみぞに糸をかけます。
- 7 針棒糸かけに左側から糸をかけます。
- 8 右針の針穴に手前から糸を通します。
糸は押さえの下から向こう側へ 10 cm ほど引き出
しておきます。
※ 糸通し器を使うと便利です。
(下記「糸通し器の使い方」参照)
※ 糸を通し終わったら、ルーパーカバーを閉めます。

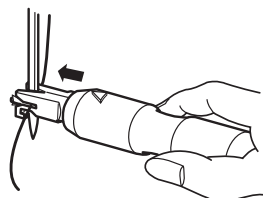
1



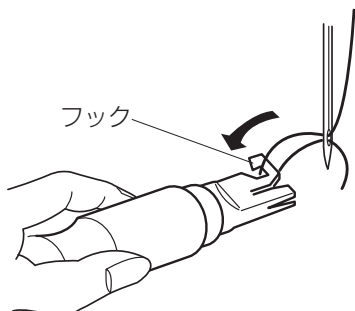
2 3



4



5



● 糸通し器の使い方

針に糸を通すときは、糸通し器を使うとかんたんに糸を
通すことができます。

⚠ 注意

糸通し器を使う場合、必ず電源スイッチを切ってくだ
さい。けがの原因となります。

- 1 ホルダーの三角マークを上向きにして持ち、針糸を横
向きの Y 字溝に入れます。
- 2 ホルダーの三角マークを上向きにして、糸の端を持ち、
V 字溝を針の中ほどに軽く押し当てます。
- 3 糸の端を持ったまま、ホルダーを針に軽く押し当てな
がら下にゆっくりとすべらせます。
- 4 糸通しピンが針穴に入ったら、ホルダーを押して針糸
を針穴に通します。
- 5 ホルダーをゆっくりもどし、糸の輪をフックにかけて、
うしろに引き出します。

● 左針糸の通し方

⚠ 注意

糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

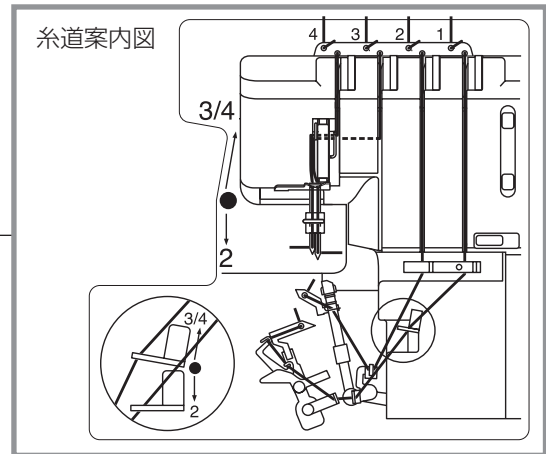
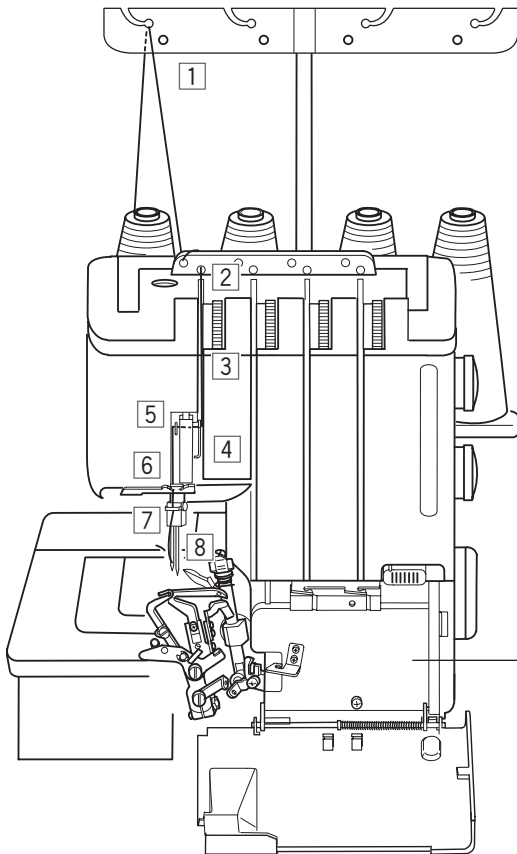
ルーパーカバーを開きます。(7 ページ参照)

左端の糸立て棒に糸コマをセットします。

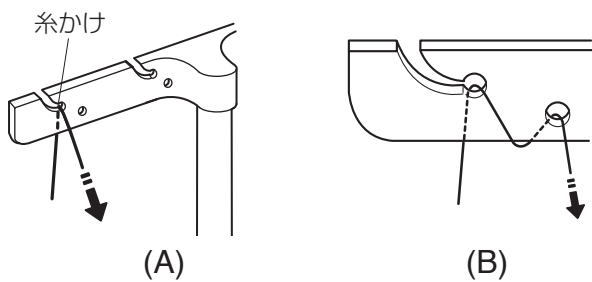
(8 ページ参照)

※ 糸道案内図のオレンジ色マークの糸道を通します。

※ 糸道案内図は、ルーパーカバーを開けると左図の位置にあります。



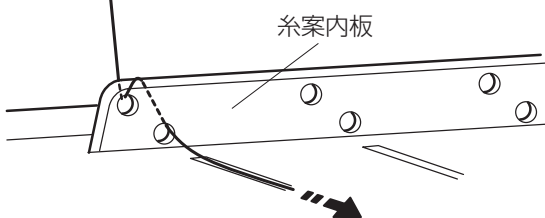
1



1 糸コマから引き出した糸を、左端の糸かけにかけます。

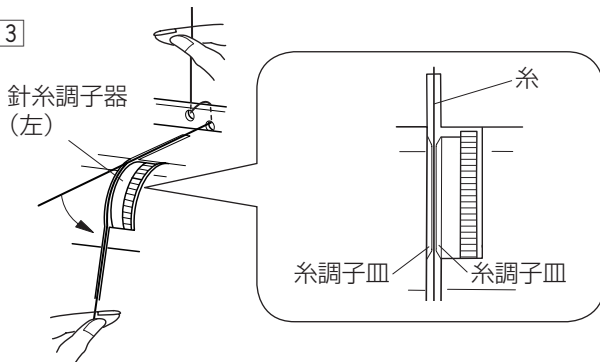
※ 通常は (A) のように糸をかけますが、糸かけから外れやすい糸は (B) のように穴にもう一度通します。

2



2 糸案内板の左端の2つの穴に糸を通します。

3

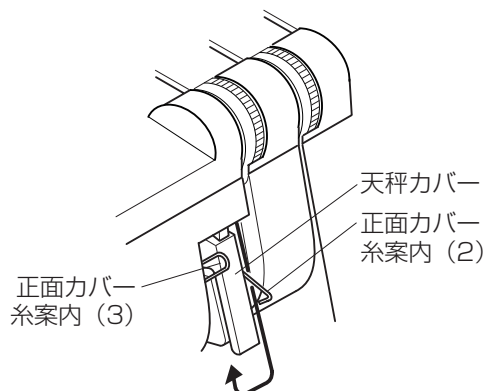
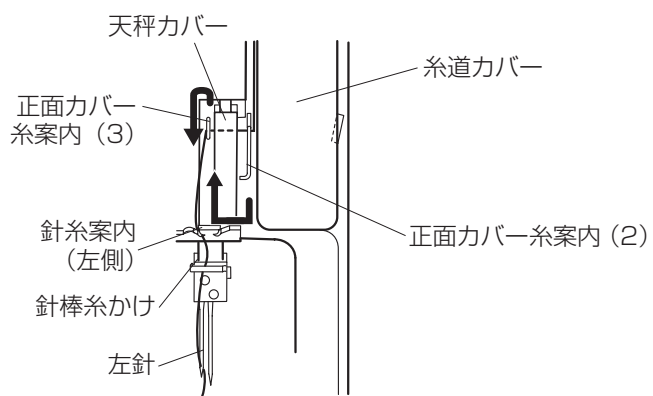


3 糸の両端を持ってゆっくりと引っ張り、針糸調子器 (左) の2枚の糸調子皿のあいだに糸を通します。

※ 押さえ上げをあげると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

※ 糸の両端をもって軽くしごき、糸が確実に糸調子皿のあいだに入っていることを確かめてください。

4 5 6 7 8



- ④ はずみ車を手前にまわし、針をいちばん上にあげます。
糸を正面カバーのみぞにそって糸道カバーの下側まで
引き降ろし、そのまま天秤カバーの下までまわします。
- ⑤ 天秤カバーの左側面にそって糸を引きあげ、正面カ
バー糸案内 (3) の上側から糸を通します。
このとき、正面カバー糸案内 (2) に糸がかかります。
- ⑥ 針糸案内 (左側) のみぞに糸をかけます。
- ⑦ 針棒糸かけに左側から糸をかけます。
- ⑧ 左針の針穴に手前から糸を通します。

糸は押さえの下から向こう側へ 10 cm ほど引き出し
ておきます。

※ 糸を通すときは、糸通し器を使うと便利です。
(23 ページ参照)

※ 糸を通し終わったら、ルーパーカバーをしめます。

● 1 本針 3 本糸ふちかがりぬいの糸の通し方



注意

糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

このミシンは 1 本針 3 本糸のかがりぬいもできます。
針の取り付け方で、かがり幅をかえることができます。

糸は上ルーパー糸、下ルーパー糸、左右いずれかの針糸
を使います。

★ 右針を使うとき

右針を使うと、標準のかがり幅は 3.5 mm です。

糸の通し方は左図のようになります。

※ スライド糸案内は「3/4」側に合わせます。

※ 使用しない側の針止めねじは、針のセットが終わった
ら、ゆるんで外れないように軽くしめておきます。

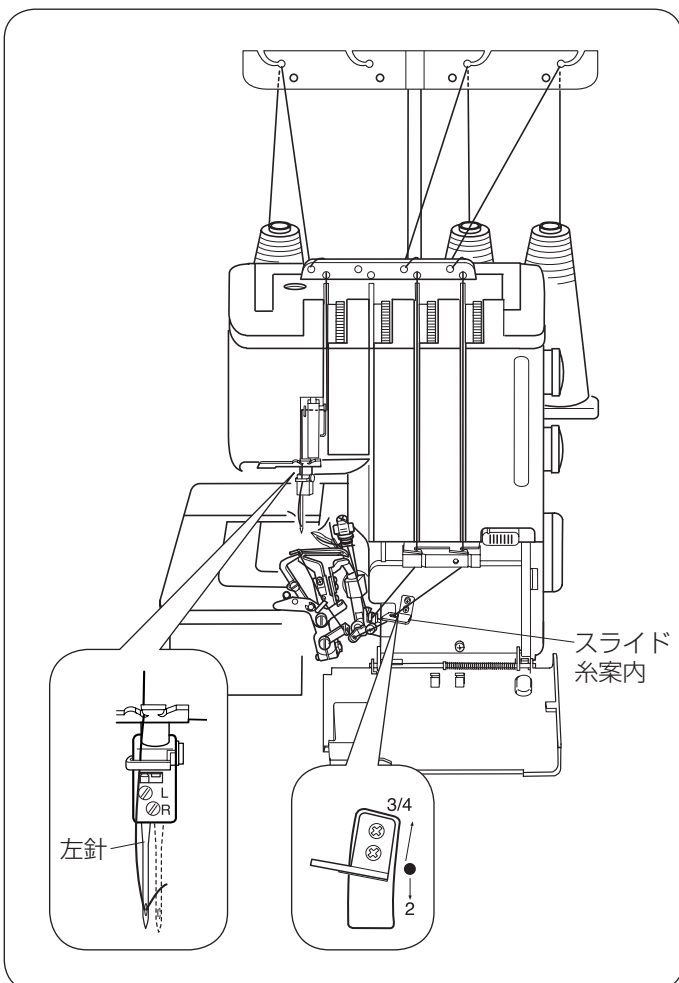
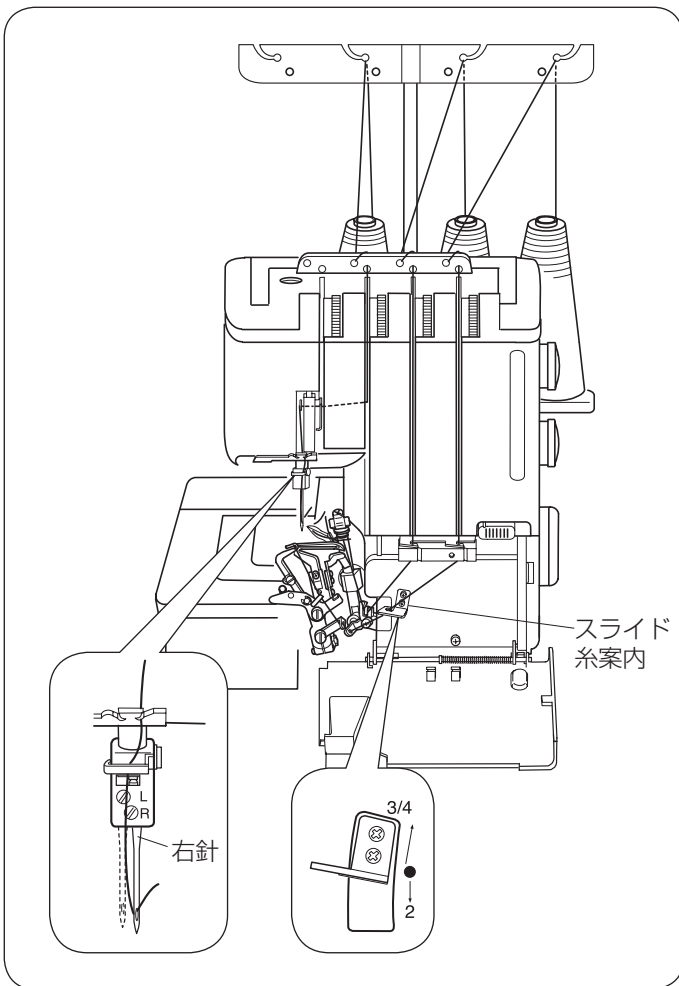
★ 左針を使うとき

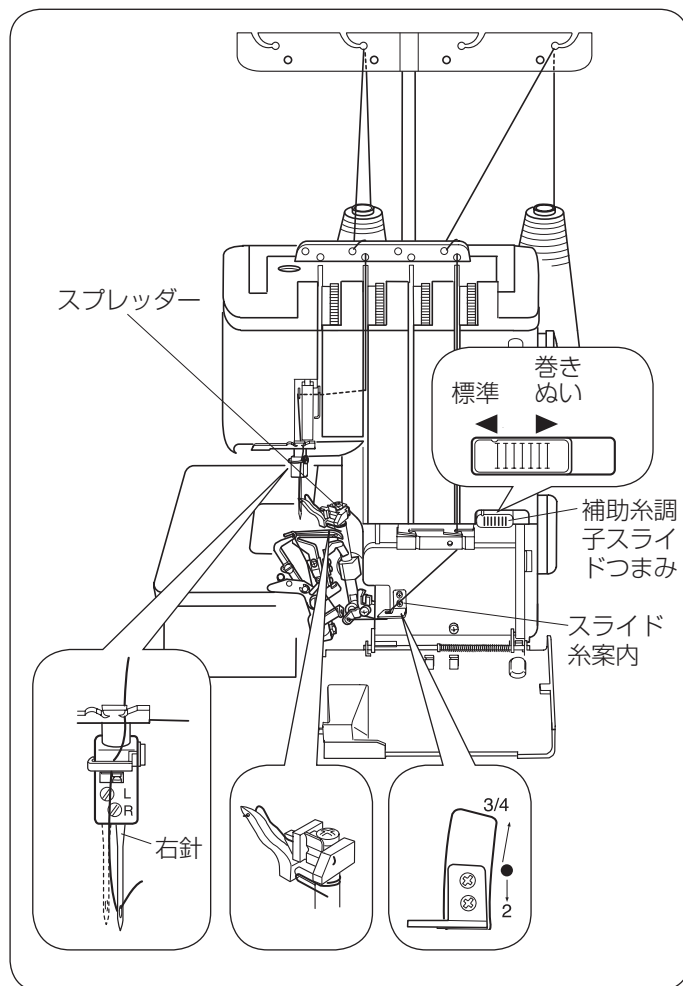
左針を使うと、標準のかがり幅は 5.7 mm です。

糸の通し方は左図のようになります。

※ スライド糸案内は「3/4」側に合わせます。

※ 使用しない側の針止めねじは、針のセットが終わった
ら、ゆるんで外れないように軽くしめておきます。





● 1 本針 2 本糸ふちかがりぬいの糸の通し方



注意

糸を通す場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

1 本針 2 本糸のふちかがりぬいも、1 本針 3 本糸のふちかがりぬいと同じように、針の取り付け方で、かがり幅をかえることができます。

糸は下ルーパー糸と左右いずれかの針糸を使います。

★ 右針を使うとき

右針を使うと、標準のかがり幅は 3.5 mm です。

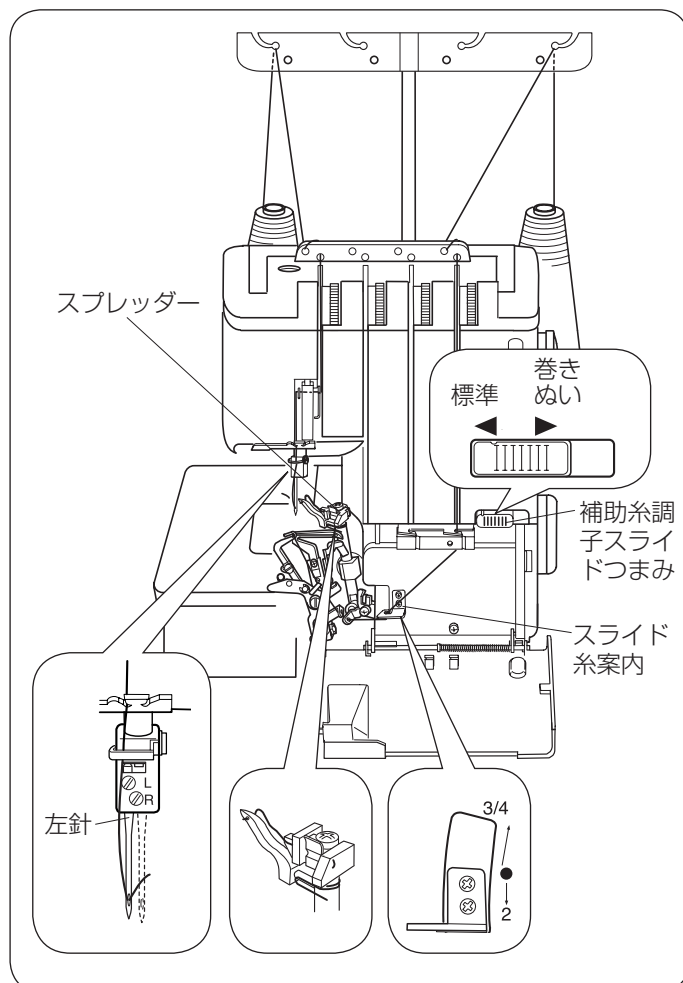
糸の通し方は左図のようになります。

※ 付属のスプレッダーを使います。(28 ページ参照)

※ スライド糸案内は「2」側に、補助糸調子スライドつまみを「標準」側に合わせます。

ただし、下ルーパーの糸通しをするときは、スライド糸案内を「3/4」側に合わせておき、糸通しが終わったら「2」側に合わせます。

※ 使用しない側の針止めねじは、針のセットが終わったら、ゆるんで外れないように軽くしめておきます。



★ 左針を使うとき

左針を使うと、標準のかがり幅は 5.7 mm です。

糸の通し方は左図のようになります。

※ 付属のスプレッダーを使います。(28 ページ参照)

※ スライド糸案内は「2」側に、補助糸調子スライドつまみを「標準」側に合わせます。

ただし、下ルーパー糸通しをするときは、スライド糸案内を「3/4」側に合わせておき、糸通しが終わったら「2」側に合わせます。

※ 使用しない側の針止めねじは、針のセットが終わったら、ゆるんで外れないように軽くしめておきます。

★ スプレッターの付け方、外し方

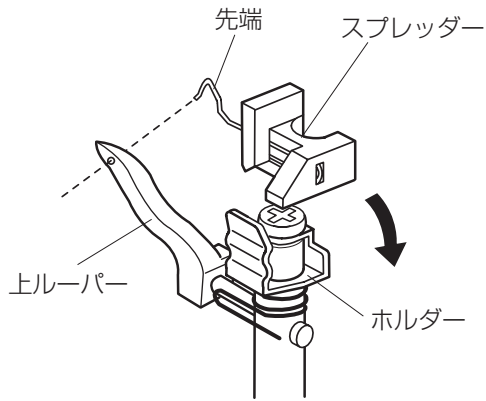
※ 2 本糸ぬいでは付属のスプレッターを使います。

⚠ 注意

スプレッターを付けたり外したりする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

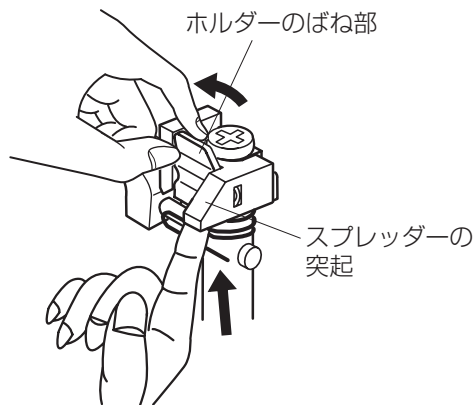
【付け方】

上ルーパーの穴に、スプレッターの先端をうしろから入れ、スプレッターをホルダーに差し込みます。



【外し方】

ホルダーのばね部を、手前に軽く引きながらスプレッターの突起を押しあげて抜き取ります。

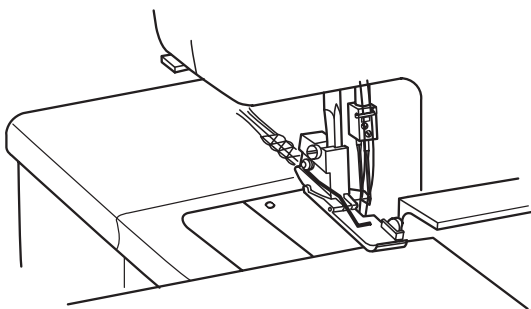


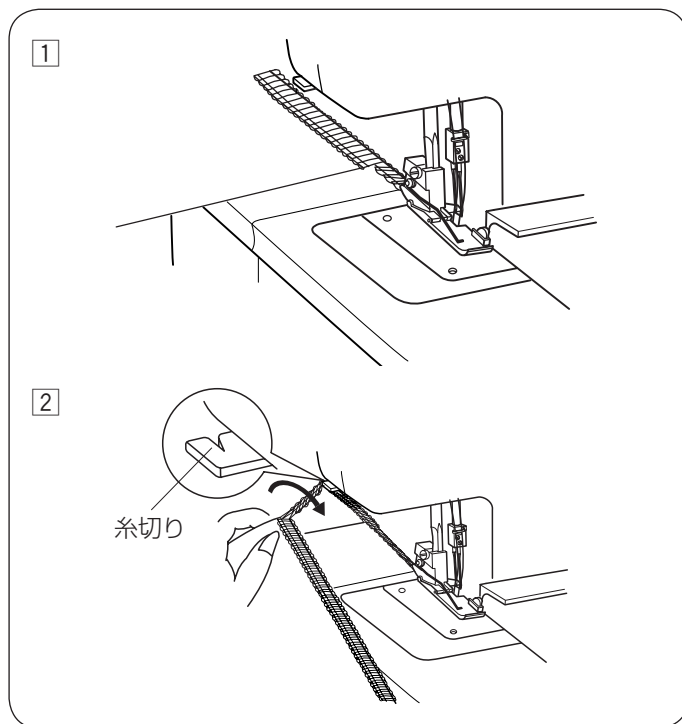
◎ ふちかがりぬい、合わせかがりぬい

● 試しぬいをする

★ ぬい始め

- ① 押さえ上げをさげます。
 - ② 各糸を押さえの下から向こう側に引きそろえます。
軽く向こう側へ引きながらゆっくりぬい始め、
5 ～ 6 cm カラぬいをします。
ほつれないように始末するため、ぬい始めは必ず
5 ～ 6 cm カラぬいをしてください。
(30 ページ参照)
 - ③ カラぬいした糸のからみぐあいを確かめ、布をセット
してぬい始めます。
押さえをあげる必要はありません。
- ※ 布を無理に押したり、引いたりせずに、ぬいたい方向
に軽く案内してください。
- ※ 厚い布をぬうときは、押さえ上げをあげ、布地を上メ
スの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助
しながらぬい始めます。



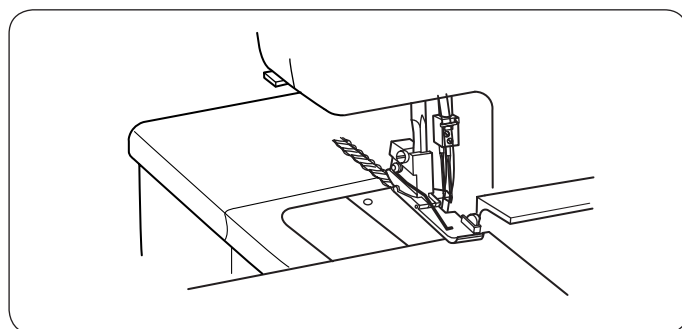


★ めい終わり

- ① 布の端までめい終わったら、そのまま低速で、約 12 ～ 13 cm、カラめいをします。

- ② 布の端から 5 ～ 6 cm 残し、カラめいをした糸を糸切りか、はさみで切ります。

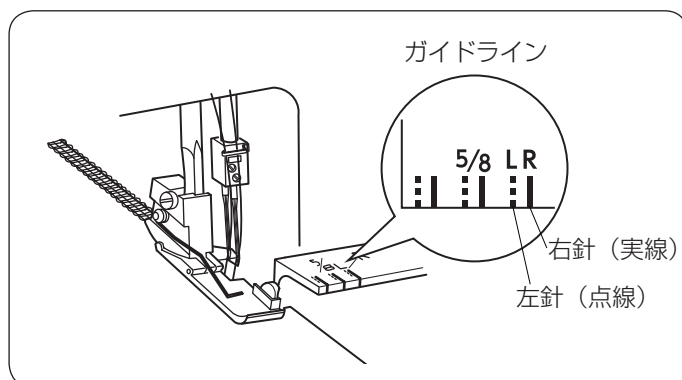
※ めい終わりは、ほつれないよう糸を始末します。
(30 ページ参照)



★ 続けてぬうとき

押さえ上げをあげずに、つぎの布地を押さえの下に差し込むようにしてぬいます。

※ 厚い布をぬうときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助しながらぬい始めます。

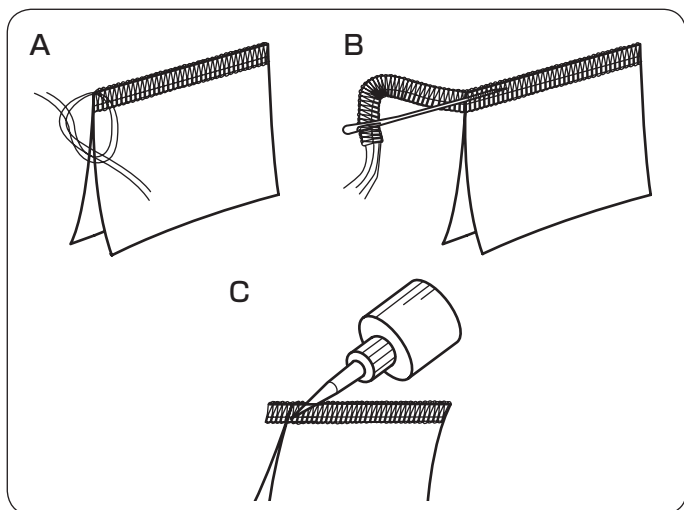


★ ガイドラインの使い方

ルーパーカバーの上部には、針落ちからの距離を示すガイドラインが表示されています。

布ふちからめい目までの目安として使用してください。

- 3 本ある刻み線は 6 mm 間隔となっており、中央は針落ちから 5/8 インチ (15 mm) です。
- それぞれの刻み線は、実線が右針、点線が左針からの距離を表しています。

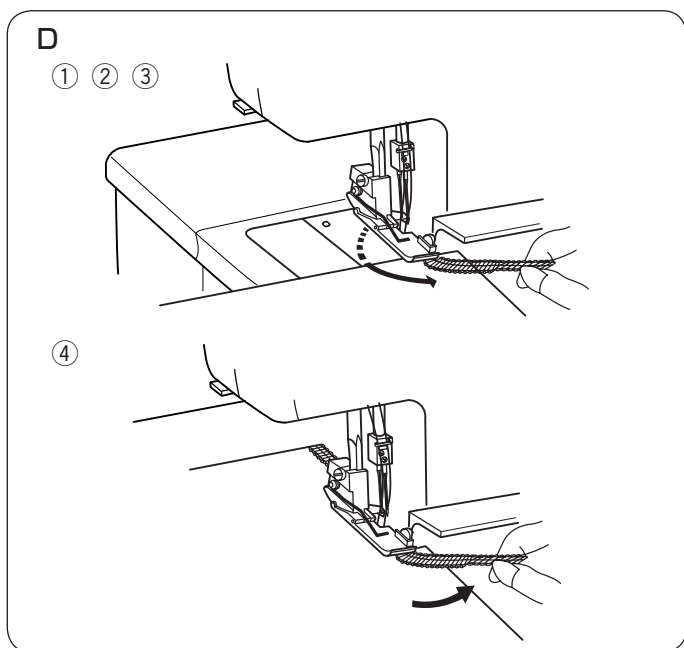


● めい始め、めい終わりの糸の始末

めい始め、めい終わりの糸をそのままにしておくとおぼつれてしまいます。

めい始め、めい終わりの糸の始末には色々な方法がありますので、お好みの方法を選んでください。

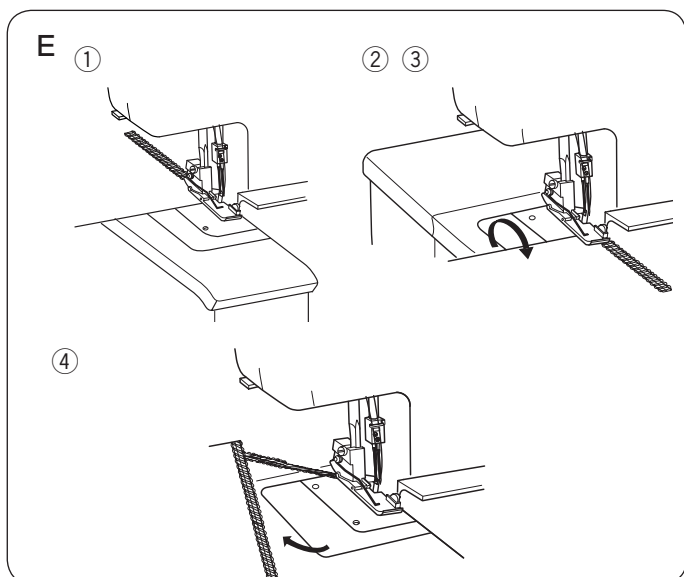
- A カラめいの糸をほどき、その糸を使って布端で結び目を作る
- B カラめいの糸を、とじ針でめい目の中に入れる
- C 布端のカラめい糸の根元に手芸用ボンドを少し付け、乾燥してから余分な糸を切り落とす



D ロックミシンでめい始めを始末する

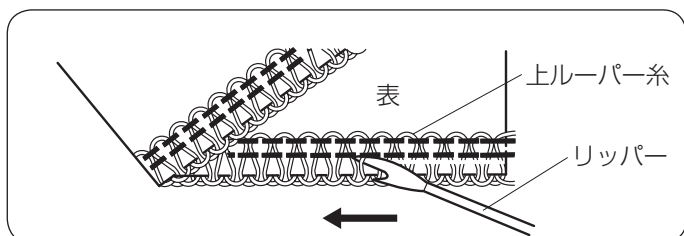
カラめいの糸を 5 cm 位出しておきます。

- ① 布地を入れ、2～3 針ぬいます。
- ② ミシンを止め、押さえをあげます。
- ③ カラめい糸を左から押さえの下に入れ、軽く手前に引きながら、押さえを下げ、布といっしょにぬい込みます。
- ④ 2～3 cm ぬったら、カラめい糸を右によせてメスで切り落としながらぬいこみます。



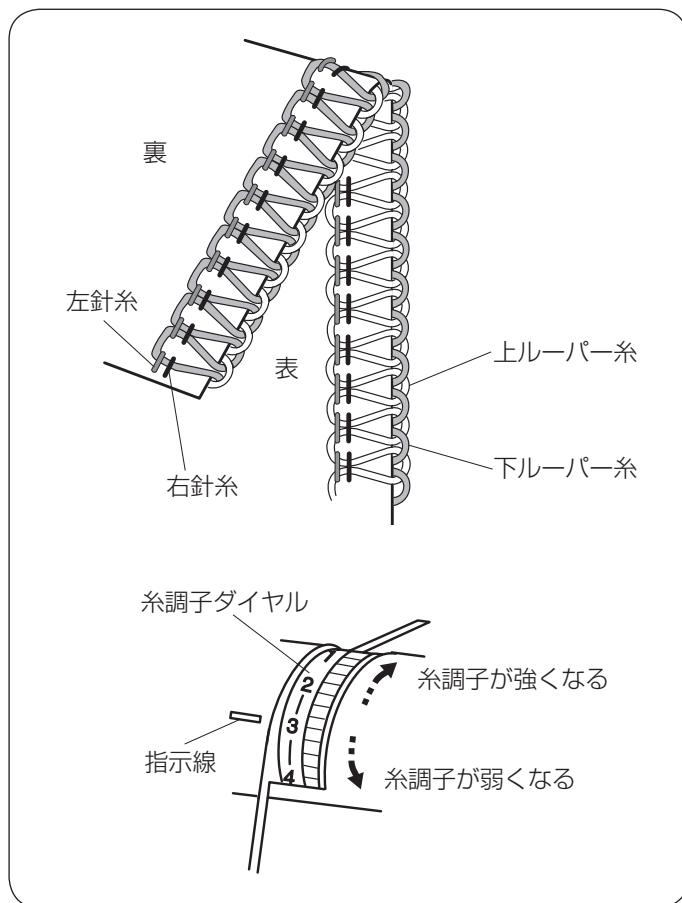
E ロックミシンでめい終わりを始末する

- ① 布地の終わりの所でミシンを止めます。
- ② 針と押さえを上げ、布地をかがり爪から外して裏返します。
かがり幅を合わせて針を落とし、押さえをさげます。
- ③ 今までぬった所がメスに当たらないように 2～3 cm ぬいながら横方向に布地を外します。
- ④ 余分なカラめい糸を切り落とします。



★ めい目のほどき方

上ルーパー糸を市販のリッパーなどで布地を痛めないようにすべて切断すると、簡単にめい目がほどけます。



● 糸調子出し方

★ 2本針4本糸ふちかがりぬい

糸調子のとれたぬい目は左の図のようになります。

左右の針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の糸調子は、各糸調子ダイヤルの目盛「3」を基準にしています。

※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。

【糸調子の調節のし方】

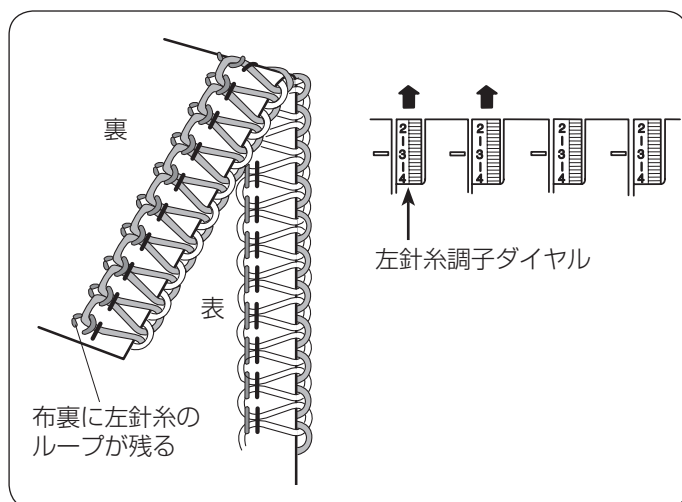
糸調子ダイヤルをまわし、数字を指示線に合わせます。

糸調子は下記のように変化します。

- 上にまわし数字を大きくと、糸調子が強くなります。
- 下にまわし数字を小さくと、糸調子が弱くなります。

※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

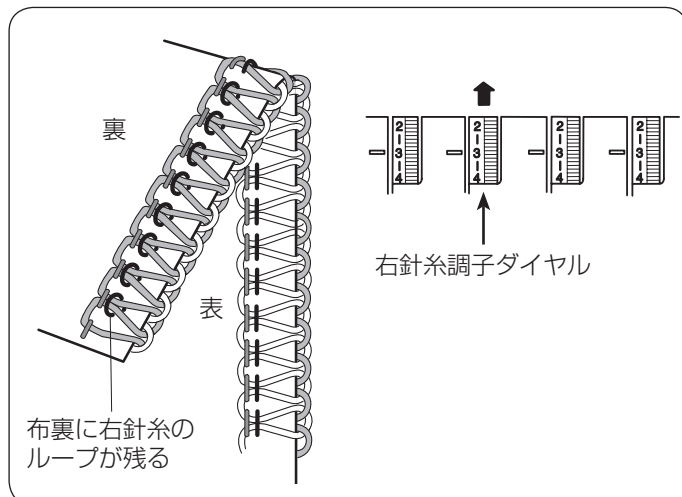
※ 最初に針糸から調節してください。



《左針糸が弱い場合》

- 布裏に左針糸のループが出るとき

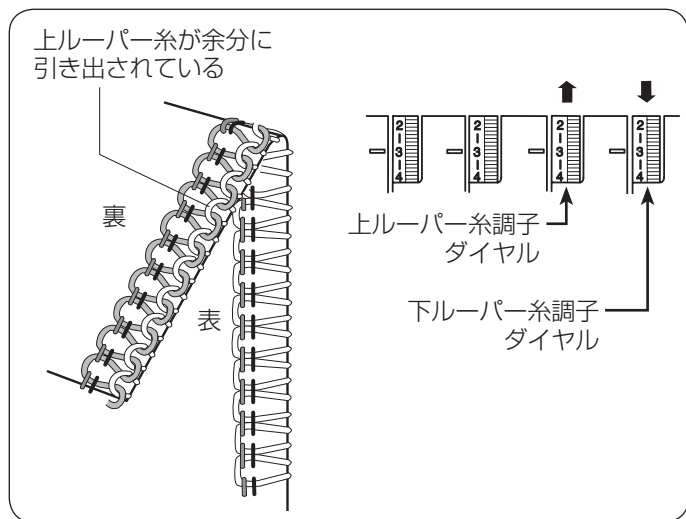
左針糸調子ダイヤルを上をまわして数字を大きくし、糸調子を強くします。



《右針糸が弱い場合》

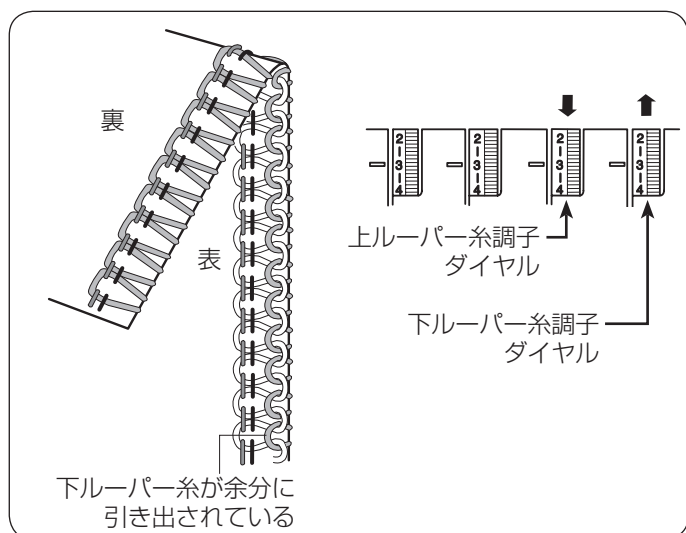
- 布裏に右針糸のループが出るとき

右針糸調子ダイヤルを上をまわして数字を大きくし、糸調子を強くします。



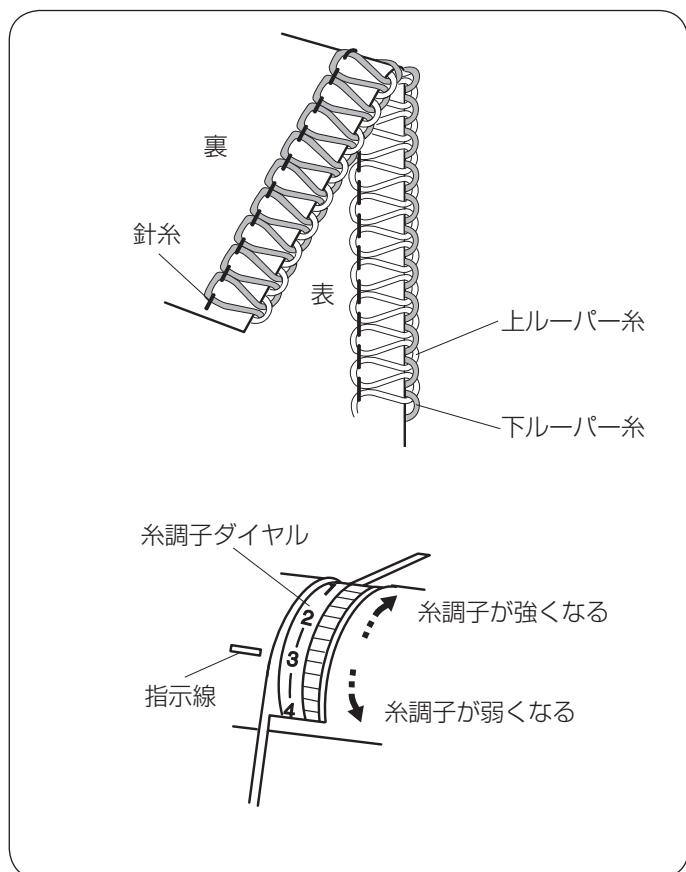
《下ルーパー糸が強い、上ルーパー糸が弱い場合》

- 布裏に上ルーパー糸が余分に引き出されているとき
下ルーパー糸調子を弱くする、または上ルーパー糸調子を強くする。



《下ルーパー糸が弱い、上ルーパー糸が強い場合》

- 布表に下ルーパー糸が余分に引き出されているとき
下ルーパー糸調子を強くする、または上ルーパー糸調子を弱くする。



★ 1 本針 3 本糸ふちかがりぬい

糸調子のとれたぬい目は左の図のようになります。

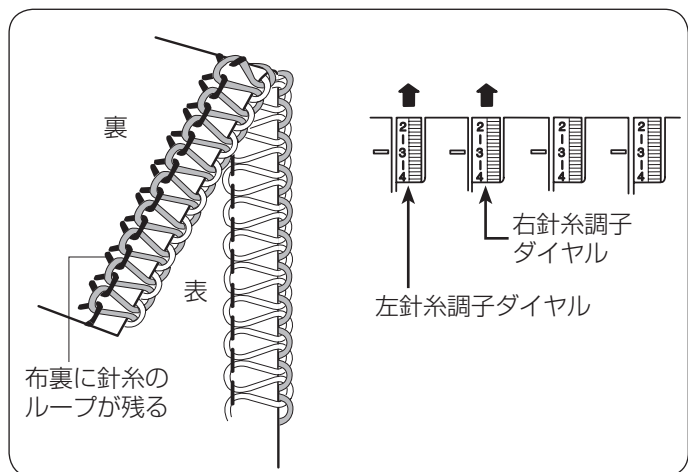
針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の糸調子は、各糸調子ダイヤルの目盛「3」を基準にしています。

- ※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。
- ※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。

【糸調子の調節の仕方】

糸調子ダイヤルをまわし、数字を指示線に合わせます。
糸調子は下記のように変化します。

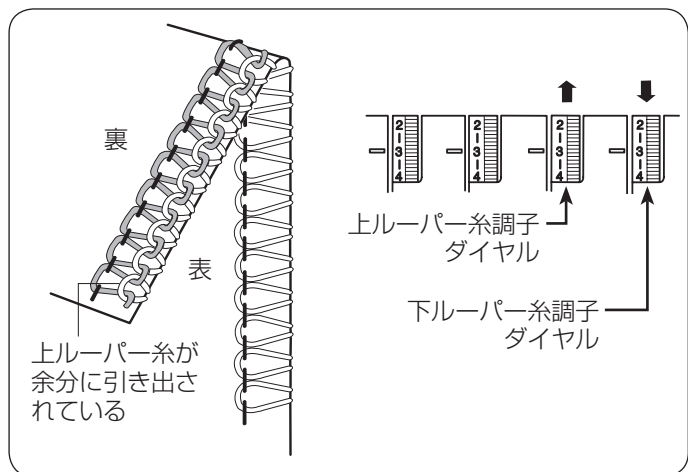
- 上にまわし数字を大きくすると、糸調子が強くなります。
- 下にまわし数字を小さくすると、糸調子が弱くなります。
- ※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。
- ※ 最初に針糸から調節してください。



《針糸が弱い場合》

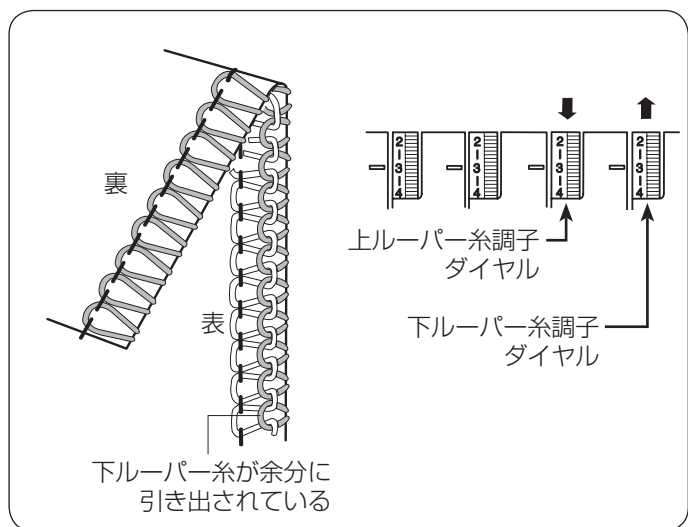
- 布裏に針糸のループが出るとき

使用している側の針糸調子ダイヤルを上にもわして数字を大きくし、糸調子を強くします。



《下ルーパー糸が強い、上ルーパー糸が弱い場合》

- 布裏に上ルーパー糸が余分に引き出されているとき
- 下ルーパー糸調子を弱くする、または上ルーパー糸調子を強くする。



《下ルーパー糸が弱い、上ルーパー糸が強い場合》

- 布表に下ルーパー糸が余分に引き出されているとき
- 下ルーパー糸調子を強くする、または上ルーパー糸調子を弱くする。

★ 1 本針 2 本糸ふちかがりぬい

糸調子のとれたぬい目は左の図のようになります。

針糸調子ダイヤルの目盛「2」、下ルーパー糸の糸調子ダイヤルの目盛「3」を基準にしています。

- ※ スライド糸案内は「2」側に、補助糸調子スライドつまみを「標準」側に合わせます。
- ※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。
- ※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。

【糸調子の調節の仕方】

糸調子ダイヤルをまわし、数字を指示線に合わせます。

糸調子は下記のように変化します。

- 上にまわし数字を大きくすると、糸調子が強くなります。
- 下にまわし数字を小さくすると、糸調子が弱くなります。

※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節してください。

※ 最初に針糸から調節してください。

《下ルーパー糸が強い、針糸が弱い場合》

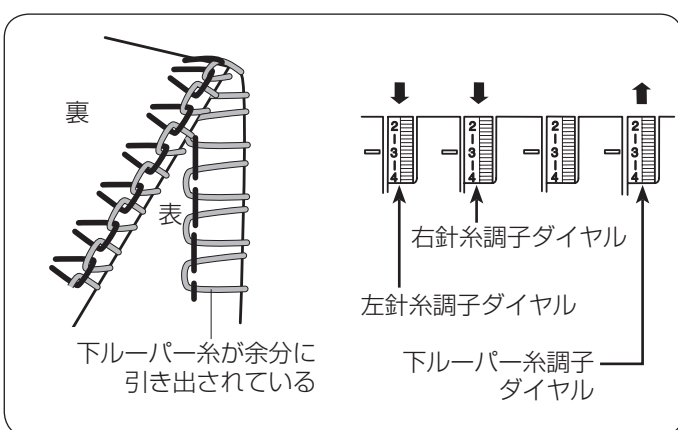
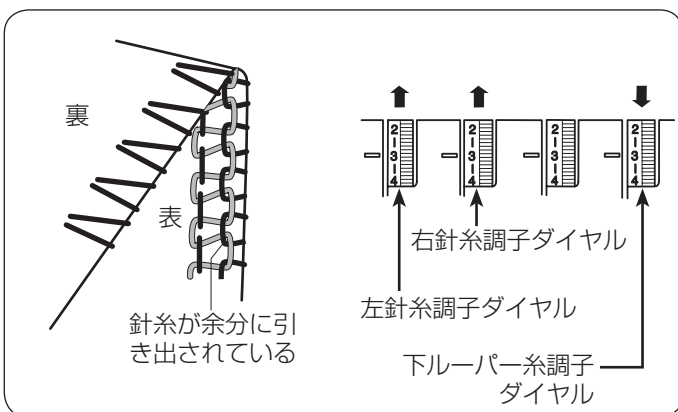
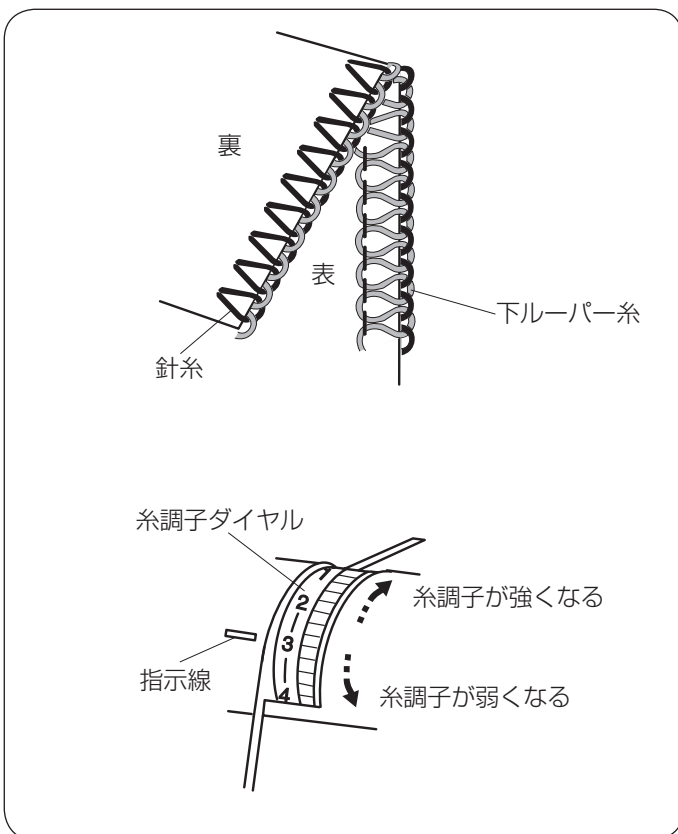
- 布表に針糸が余分に引き出されているとき

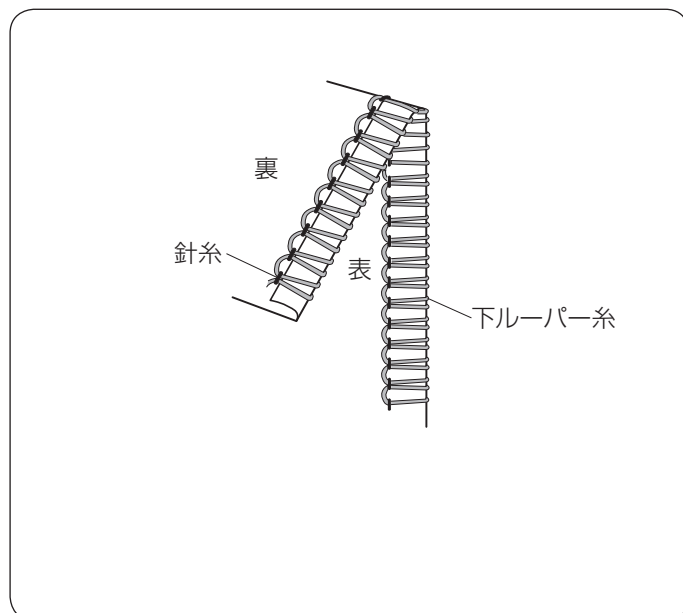
下ルーパー糸調子を弱くする、または使用している側の針糸調子を強くする。

《針糸が強い、下ルーパーが弱い場合》

- 布裏に下ルーパー糸が余分に引き出されているとき

使用している側の針糸調子を弱くする、または下ルーパー糸調子を強くする。





★ 巻きぬい（1 本針 2 本糸）の正しい糸調子

糸調子のとれたぬい目は左の図のようになります。

針糸調子ダイヤルの目盛「3」、下ルーパー糸の糸調子ダイヤルの目盛「3」を基準にしています。

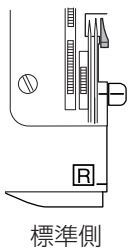
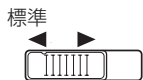
針糸は「化繊糸」、下ルーパーには「ウーリーナイロン糸」を使用します。

※ スライド糸案内は「2」側に、補助糸調子スライドつまみを「巻きぬい」側に合わせます。その他のぬいの条件やセットは、「1 本針 3 本糸ふちかがりぬい」と同じです。

※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。調節の方法はふちかがりぬいと同じです。

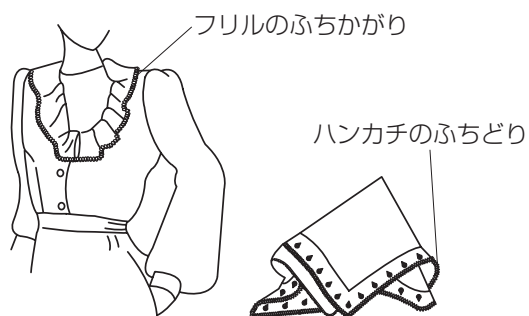
● 布に適した糸や針を選ぶ目安（ふちかがりぬいと合わせかがりぬい）

布の種類		糸	針	ぬい目のあかさ 調節ダイヤル	ぬい目の伸縮 調節ダイヤル	かがり爪つまみ の位置	補助糸調子スライド つまみの位置
うすい布	裏地 ジョーゼット ローン クレープデシン オーガンジー	化繊糸 # 80 ~ 100	HA × 1SP # 11	2 ~ 3	0.5 ~ 1.0	 標準側	 標準
普通の布	木綿地 リンネル サテン シーチング	化繊糸 # 60 ~ 100	HA × 1SP # 11 ~ # 14	2.5 ~ 3.5	1.0		
厚い布	ツイード キルティング デニム ギャバジン	化繊糸 # 50 ~ 60	HA × 1SP # 14	3 ~ 5	1.0		
ニット地	メリヤス ジャージー	化繊糸 # 60 ~ 90 ウーリーナイ ロン糸（上ルー パー糸用）	HA × 1SP # 11 ~ # 14	2.5 ~ 4	1.0 ~ 2.2		

※ 糸調子の目安は「糸調子の出し方」（「2 本針 4 本糸ふちかがりぬい」31 ~ 32 ページ）、（「1 本針 3 本糸ふちかがりぬい」32 ~ 33 ページ）、（「1 本針 2 本糸ふちかがりぬい」34 ページ）をご覧ください。

※ ウーリーナイロン糸は、巻きぬい、細ロックぬいのルーパー糸に使用します。

《実用例》



◎ 1 本針 3 本糸の巻きぬい、ピコぬい、細ロックぬい

⚠ 注意

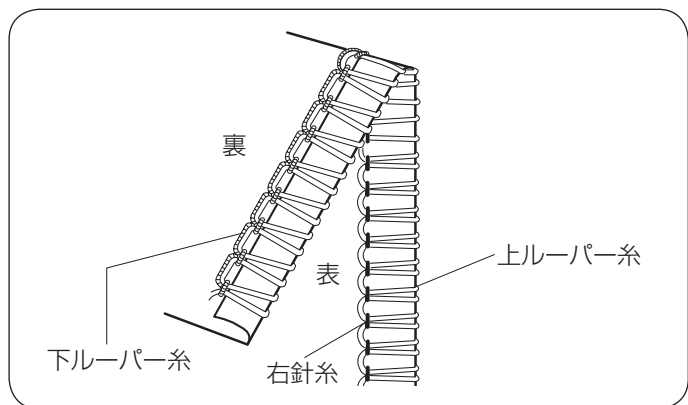
針の交換や、かがり爪の切りかえをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

※ 補助糸調子スライドつまみを「巻きぬい」側へ切りかえるときは、糸通しが終わってから切りかえます。

	巻きぬい	ピコぬい	細ロックぬい
補助糸調子スライドつまみの位置			
スライド糸案内の位置			
糸調子の目安			
ぬい目のあらか調節ダイヤル ※ 11 ページ参照	(R)	(3 ~ 4)	(R)
ぬい目の伸縮調節ダイヤル ※ 11 ページ参照	(1.0)	(1.0)	(1.0)
かがり爪つまみの位置 ※ 14 ページ参照	(R)	(R)	(R)
上メス ※ 12 ページ参照	駆動		
針	右針 HA × 1SP # 11 ※左側の針は外してください。(9 ページ参照)		
針糸	化繊糸 # 80 ~ 100		
上ルーパー糸 下ルーパー糸	ウーリーナイロン糸 または 化繊糸 # 80 ~ 100	化繊糸 # 60 ~ 100	ウーリーナイロン糸 または 化繊糸 # 80 ~ 100
布	うすい布 (オーガンジー、クレープデシン、ローン、ジョーゼット)		
正しい糸調子			

※ 糸調子は、糸調子の目安を基準に試しぬいをして、ぬい目を見ながら正しく調節します。



★ 巻きぬいとピコぬいの糸調子の調節

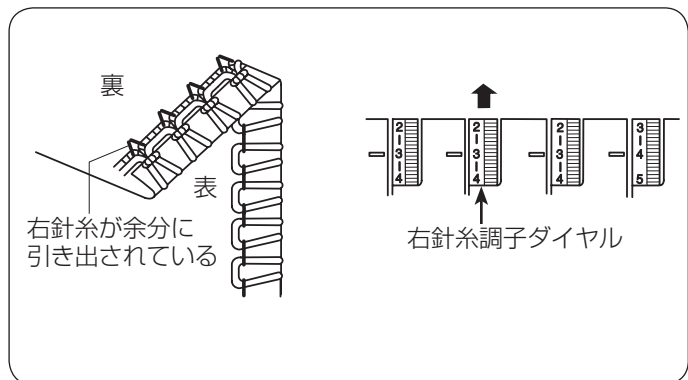
糸調子のとれたぬい目は左図のようになります。

針糸調子や設定などは、前ページの表の内容を基準にしています。

※ 細ロックぬいは、1 本針 3 本糸ふちかがりぬいと同じように調節します。(32 ～ 33 ページ参照)

※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

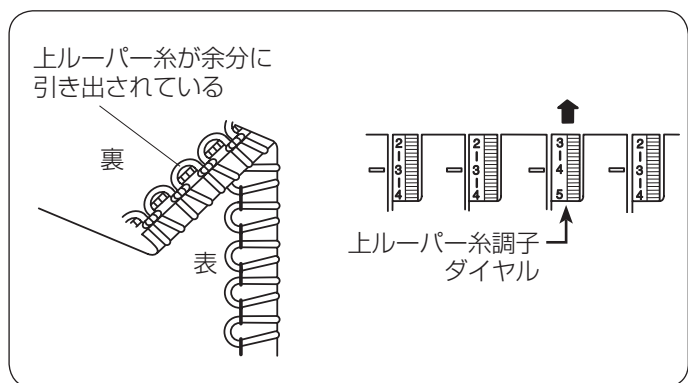
※ 試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。



《右針糸が弱い場合》

- 布裏に右針糸のループが出る

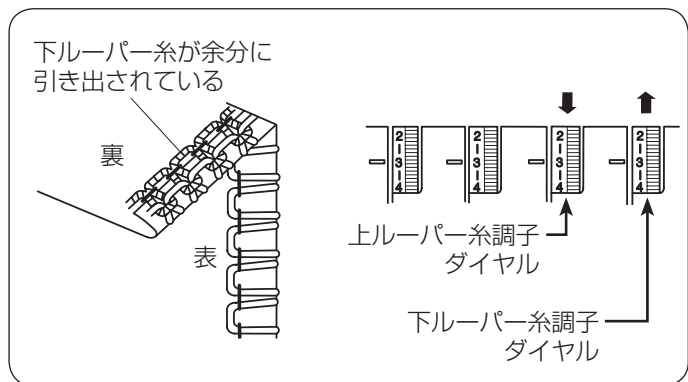
右針糸調子を強くする。



《上ルーパー糸が弱い場合》

- 布裏に上ルーパー糸が余分に引き出されている

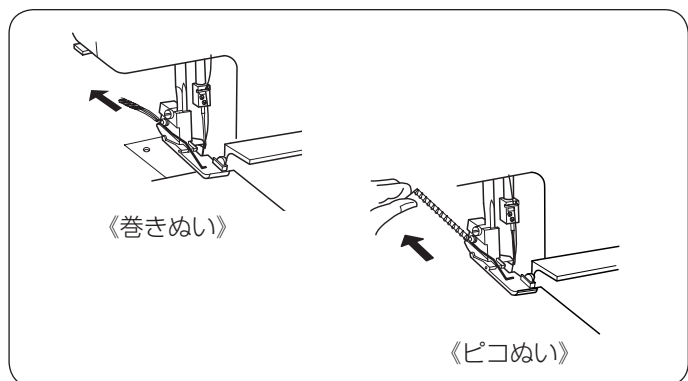
上ルーパー糸調子を強くする。



《下ルーパー糸が弱い、上ルーパー糸が強い場合》

- 布裏に下ルーパー糸が余分に引き出されている

下ルーパー糸調子を強くする、または上ルーパー糸調子を弱くする。



【きれいに仕上げるには】

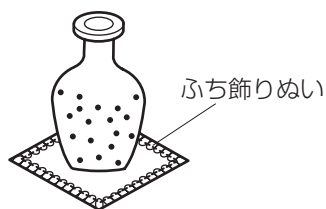
- 巻きぬい

ぬい始めに、カラぬいした糸を指で軽く向こう側へ引きながらぬうときれいに仕上がります。

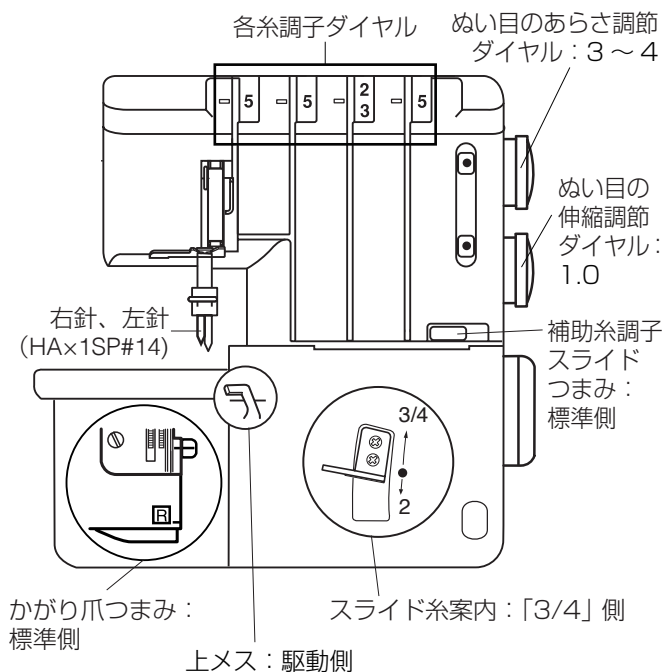
- ピコぬい

布を指で軽く向こう側へ引きながらぬうときれいに仕上がります。

《実用例》



《ミシンのセット》



◎応用ぬい

●ふち飾りぬい

※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。

試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。

糸調子の調節方法は、31 ~ 32 ページをご覧ください。

※ 太い糸を使用する場合、ぬい始めとぬい終わりは、カラぬいした糸を指で軽く向こう側へ引きながらぬうときれいに仕上がります。

⚠ 注意

針の交換、上メスの解除、かがり爪の切りかえをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

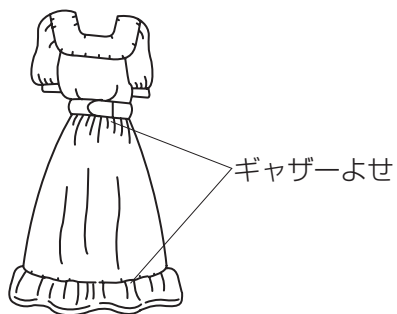
【使用糸と布】

布	使用する糸	
普通地	針糸 (左右)	化繊糸 # 60 ~ 80
または	上ルーパー糸	飾り糸※、極細毛糸
厚い布	下ルーパー糸	化繊糸 # 60 ~ 100

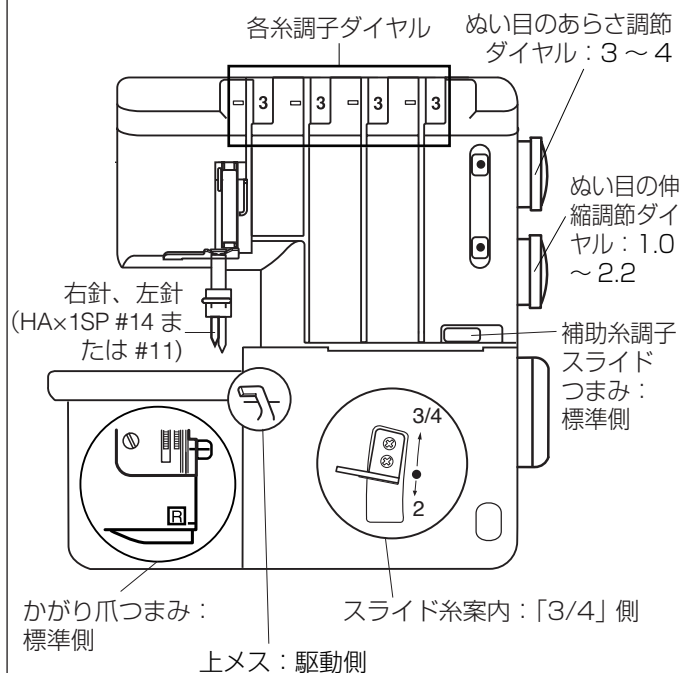
※ 飾り糸は、ルーパーにスムーズに通る糸を使用してください。

- 針の外し方は 9 ページ参照。
- ぬい目のあらかさ調節は 11 ページ参照。
- ぬい目の伸縮調節は 11 ページ参照。
- 上メスの駆動と解除は 12 ページ参照。
- かがり爪の切りかえは 14 ページ参照。

《実用例》



《ミシンのセット》



● ギャザーよせ

- ※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。糸調子の調節方法は、31 ～ 32 ページをご覧ください。
- ※ ギャザーよせぬいをするときは、ぬい目の伸縮調節ダイヤルを 1.0 ～ 2.2 に設定します。
- ※ 2 枚の布の、一方だけにギャザーをよせるときは、別売のギャザリングアタッチメントを使用してください。

⚠ 注意

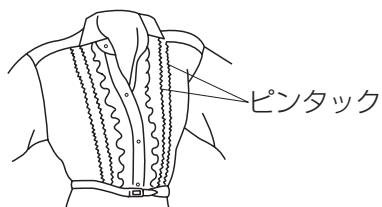
針の交換、上メスの解除、かがり爪の切りかえをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

【使用糸と布】

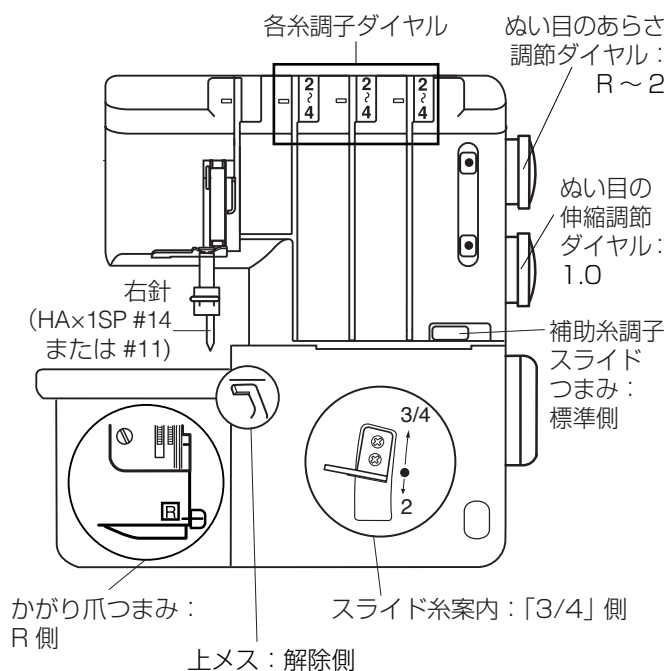
布	使用する糸	
普通地	針糸 (左右)	化繊糸 # 60 ～ 80
または	上ルーパー糸	化繊糸 # 60 ～ 80
うすい布	下ルーパー糸	

- 針の外し方は 9 ページ参照。
- ぬい目のあらさ調節は 11 ページ参照。
- ぬい目の伸縮調節は 11 ページ参照。
- 上メスの駆動と解除は 12 ページ参照。
- かがり爪の切りかえは 14 ページ参照。

《実用例》



《ミシンのセット》



● ピントック

※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。糸調子の調節方法は、32 ~ 33 ページをご覧ください。

⚠ 注意

針の交換、上メスの解除、かがり爪の切りかえをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【使用糸と布】

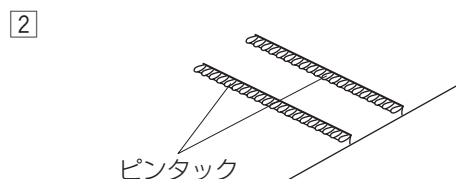
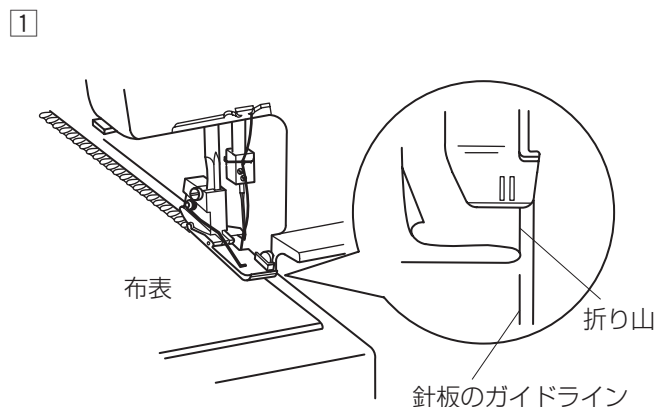
布	使用する糸	
うすい布	針糸 (右)	化繊糸 # 80 ~ 100
または ニット地	上ルーパー糸	化繊糸 # 80 ~ 100
	下ルーパー糸	

- 針の外し方は 9 ページ参照。
- めい目のあらか調節は 11 ページ参照。
- めい目の伸縮調節は 11 ページ参照。
- 上メスの駆動と解除は 12 ページ参照。
- かがり爪の切りかえは 14 ページ参照。

【ぬい方】

- 電源スイッチを切り、左側の針を外します。(9 ページ参照)
- 上メスを解除し (12 ページ参照)、電源スイッチを入れます。

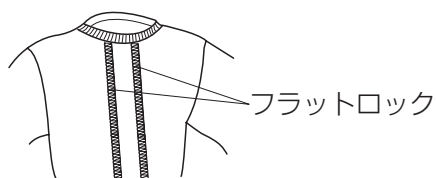
① 布を外表に折り、折り山を針板のガイドラインに合わせてぬいます。



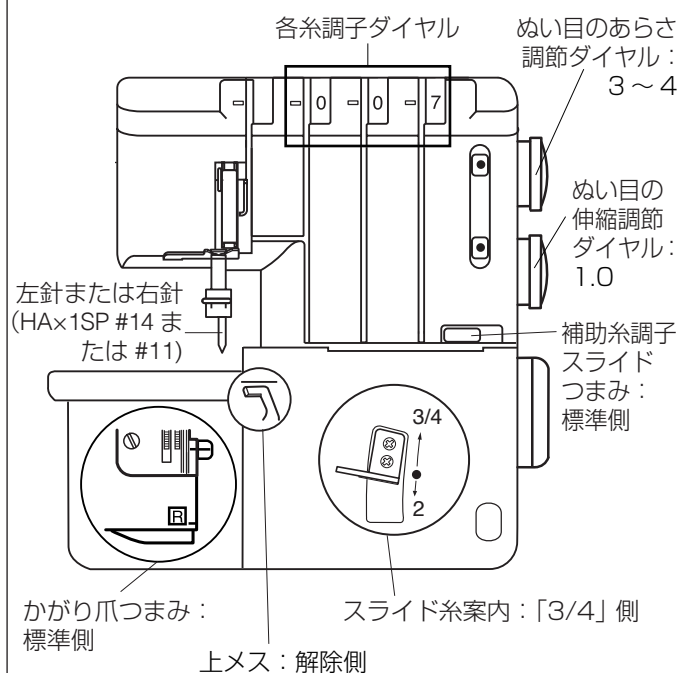
② 布を開いて、アイロンで山を片側に倒します。

※ めいが終わったら、上メスを駆動側にもどします。

《実用例》



《ミシンのセット》



●フラットロックぬい

※ 糸調子は、布地の種類や糸の種類、糸の太さによって多少の調節が必要です。試しぬいをして、ぬい目を見ながらそれぞれの糸調子ダイヤルで調節してください。糸調子の調節方法は、32～33 ページをご覧ください。

⚠ 注意

針の交換、上メスの解除、かがり爪の切りかえをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【使用糸と布】

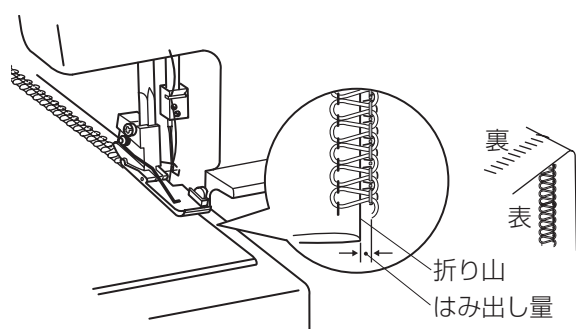
布	使用する糸	
普通の布 または ニット地	針糸 (右または左)	化繊糸 # 60～100
	上ルーパー糸	飾り糸
	下ルーパー糸	化繊糸 # 60～100

- 針の外し方は 9 ページ参照。
- ぬい目のあらさ調節は 11 ページ参照。
- ぬい目の伸縮調節は 11 ページ参照。
- 上メスの駆動と解除は 12 ページ参照。
- かがり爪の切りかえは 14 ページ参照。

【ぬい方】

- 電源スイッチを切り、右または左側の針を外します。(9 ページ参照)
- 上メスを解除し (12 ページ参照)、電源スイッチを入れます。
- 糸調子は、1 本針 3 本糸ふちかがりぬいの糸調子に合わせ、試しぬいをします。
※ 上ルーパーの糸調子は弱くし、下ルーパーの糸調子は強めにします。上ルーパー糸、下ルーパー糸、針糸が全部布の縁にそろうように、針糸調子を弱くします。下ルーパー糸は布端で直線になります。

1 2



- 1 布を外表に 2 つ折りにし、ぬい目が布からはみ出すようにセットします。
※ ぬい目の半分がはみ出すのが目安です。
 - 2 ぬい終わったら、布を広げ裏からアイロンで仕上げます。
※ 布を広げたときのぬい目の仕上がりを見て、はみ出し量を加減してください。
- ※ オプションの布ガイドを使うときれいに仕上がります。(60 ページ参照)

● コーナー部の上手なぬい方

【外角のぬい方】

① 四隅のうち、ぬい始めをのぞく角を3か所図のように切りしろ線にそって、約3 cm 切り落とします。

② ぬい始めから次の角までぬい終わったら、ミシンを止めて針と押さえをあげます。
かがり爪から糸を抜きながら布をまわして、切りしろ線に上メスを当てるようにセットします。

③ 押さえ上げをさげます。

④ コーナー部でぬい目が重なるようにぬいを続けます。

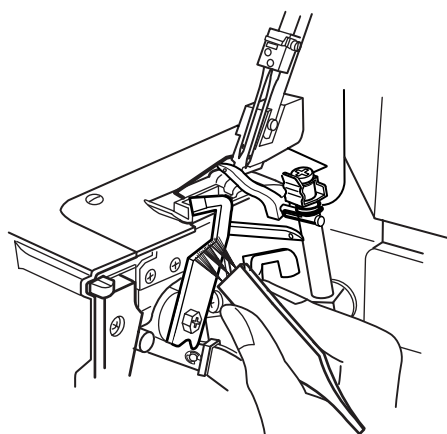
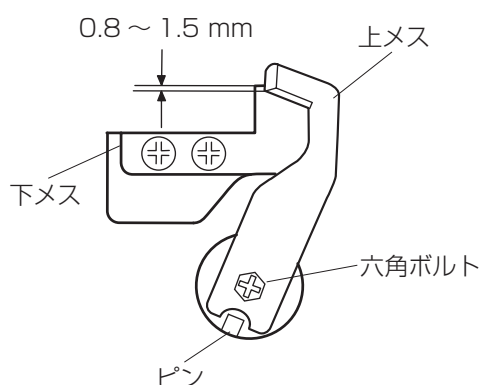
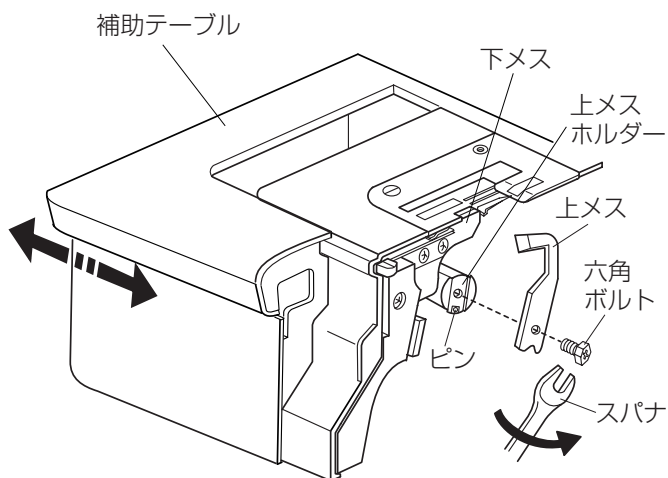
【内角のぬい方】

① あらかじめコーナー部に切り込みを入れます。

② コーナー部に向かってぬい進み、切り込みの約3 cm 手前でミシンを止めます。

③ 次にぬう切りしろ線を直線上にそろえ押さえの下側へ送り込みます。

④ そのままぬい進めると内角のぬいがきれいに仕上がります。



◎ ミシンのお手入れ

⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

● 上メスの交換

【取り外し方】

電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

- ① ルーパーカバーを開き、補助テーブルを外します。(7 ページ参照)
- ② はずみ車を手で手前にまわして、上メスをいちばん高い位置にします。
※ 上メスが解除された状態では、位置の調節ができません。必ず上メスを駆動側にしてから上メスの位置を調節してください。(12 ページ参照)
- ③ 付属のスパナで六角ボルトをまわし、上メスを外します。

【取り付け方】

- ① 上メスホルダーのみぞとピンに新しい上メスを合わせ、六角ボルトを少ししめます。
- ② はずみ車を手で手前にまわして、上メスをいちばん低い位置にします。
六角ボルトをゆるめ、上メスの刃先が下メスの端と 0.8 mm から 1.5 mm 重なるように調整します。
調整が終わったら、六角ボルトをしっかりとしめます。
- ③ ルーパーカバーを閉じ、補助テーブルを取り付けます。(7 ページ参照)

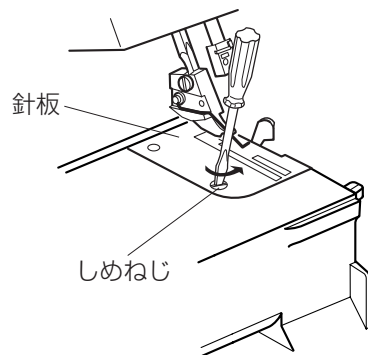
※ 下メスは通常の使用で 1 年以上使用できます。
ただし、ピンやジッパーなど、かたいものを切ってしまった場合、上下両方のメスを同時に交換する必要があります。お買い上げの販売店へご相談ください。

● 切りくず、糸くずの掃除

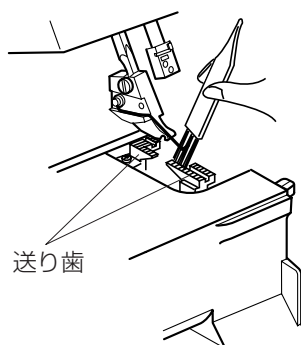
電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

- ① ルーパーカバーを開きます。(7 ページ参照)
- ② 切りくずや糸くずを付属のミシンブラシで取り除きます。
※ ミシンブラシで掃除しにくい切りくずや糸くずは、掃除機で吸い取ってください。

3



4



● 送り歯の掃除

電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

- ① 補助テーブルを外し、ルーパーカバーを開けます。(7 ページ参照)
- ② 針と押さえを外します。(9、10 ページ参照)
- ③ 付属のマイナスドライバーでしめねじを外し、針板を外します。

- ④ 送り歯のごみを、付属のミシンブラシで落とします。

※ ミシンブラシで掃除しにくいごみは、掃除機で吸い取ってください。

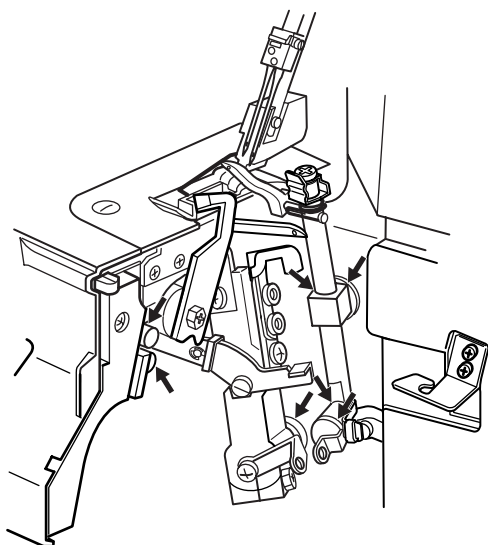
- ⑤ 掃除が終わったら、針板、押さえ、針を取り付けます。補助テーブルを取り付け、ルーパーカバーを閉じます。(7 ページ参照)

● 注油

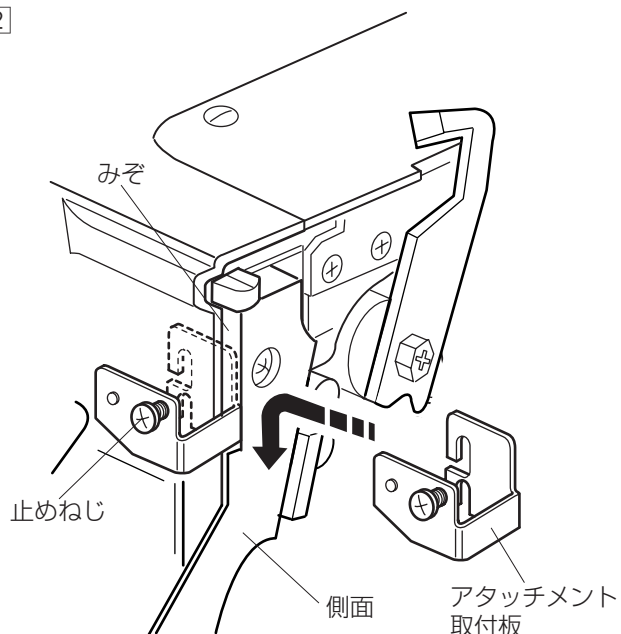
電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

- ① ルーパーカバーを開き (7 ページ参照)、矢印の箇所に付属のミシン油を 1 ～ 2 滴注油します。
- ② 注油後、上メスを解除し、ルーパーカバーをしめ、押さえをあげます。
(上メスの解除方法は、12 ページ参照)
- ③ 電源スイッチを入れ、1 ～ 2 分ほどミシンを動かし、よく油をしみこませます。手や布がふれる所についた油はふき取ってください。

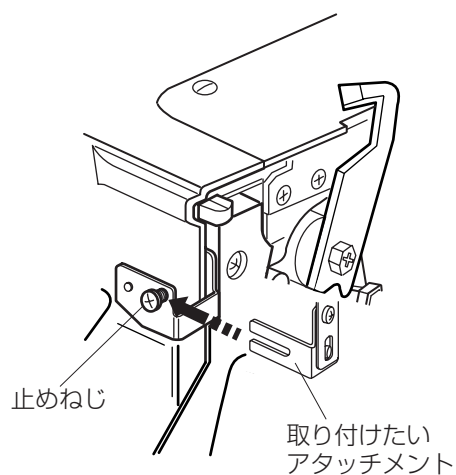
※ 普通の使い方の場合、1 週間に 1 回程度、連続使用の場合、10 時間に 1 回程度を目安に注油してください。



2



3



● アタッチメント取付板

以下の別売りのアタッチメントを使用するときは、アタッチメント取付板が必要です。

- ビーズ付け押さえ
- ギャザリングアタッチメント
- ゴムテープ付けアタッチメント
- 布ガイド

【取り付け方】

- 1 補助テーブルを取り外します。(7 ページ参照)
- 2 アタッチメント取付板のうしろ側のタブをミシン側面のみぞに挿入し、押しさげて固定します。
- 3 止めねじをゆるめ、取り付けたいアタッチメント (オプション) を止めねじの上に右からスライドさせます。止めねじをしめてアタッチメントを固定します。
- 4 必要に応じて補助テーブルを取り付けます。

※ 使用方法については各アタッチメントの取扱説明書をご覧ください。

※ アタッチメント取付板を取り付けている場合、ルーパーカバーはアタッチメント取付板に引っかからないよう、しっかり右に引っぱり開きます。

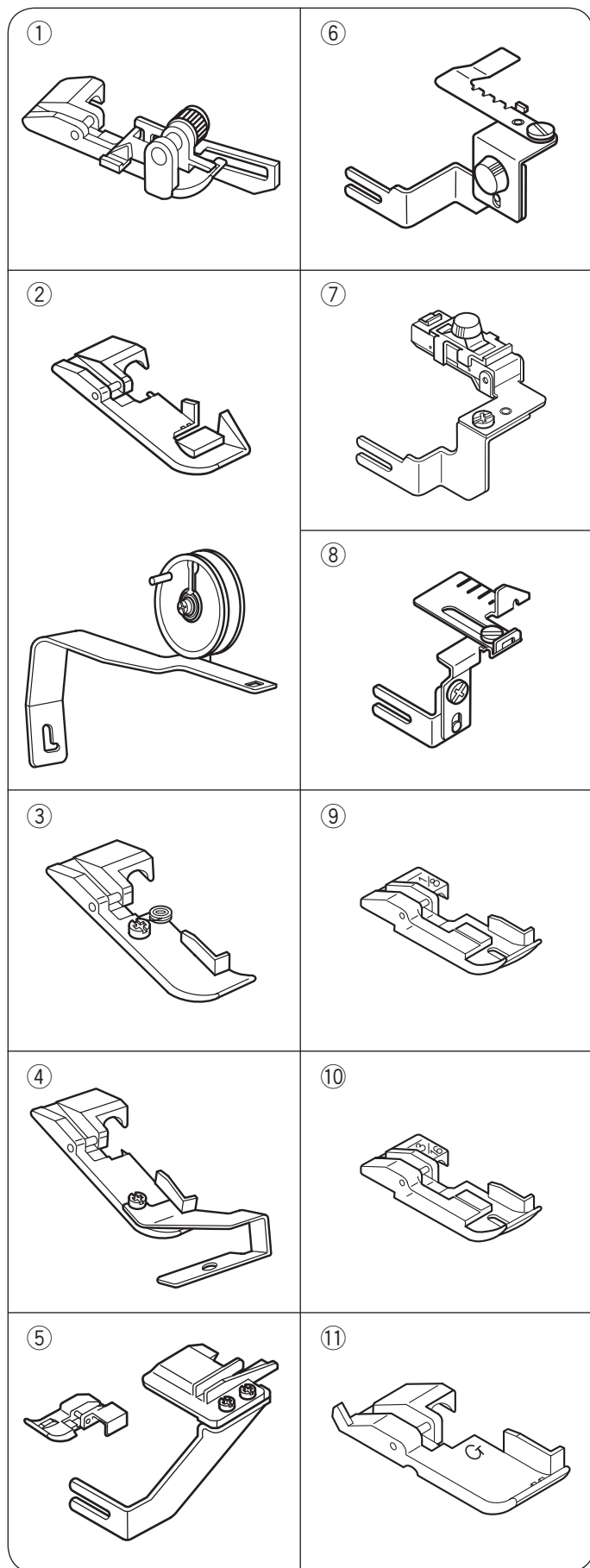
【取り外し方】

- 1 補助テーブルを取り外します。
- 2 止めねじをゆるめ、アタッチメント (オプション) を取り外します。止めねじを少ししめます。
- 3 アタッチメント取付板を上引きあげ、右に引いて取り外します。

● ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	原因	直し方
ミシンが動かない	1. コンセントにプラグがきちんと差し込まれていない。 2. 電源スイッチが OFF になっている。	6 ページ参照 電源スイッチを ON にする
布地を送らない	1. 押さえがあがっている。 2. 押さえ圧が弱すぎる。 3. 送り歯に糸くずがつまっている。	押さえをさげる。 10 ページ参照 44 ページ参照
針が折れる	1. 針の付け方がまちがっている。 2. 針止めねじのしめ付けがゆるんでいる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 布地を無理に引っばった。	9 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 軽く引く程度にする。
糸が切れる	1. 糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。	16 ～ 27 ページ参照 31 ～ 37 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照
ぬい目とぶ	1. 針の付け方がまちがっている。 2. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 3. 糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 4. 布に対して針と糸が合っていない。	9 ページ参照 9 ページ参照 16 ～ 27 ページ参照 35 ページ参照
ぬい目の調子がわるい	1. 糸調子が強すぎるか弱すぎる。 2. 糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 3. ぬい目のあらせ調節ダイヤルまたは、ぬい目の伸縮調節ダイヤルの設定が間違っている。 4. かがり爪の位置が間違っている。 5. 布に対して針と糸があっていない。 6. 糸が糸調子器の皿にきちんと入っていない。 7. スライド糸案内の位置が間違っている。 8. 補助糸調子スライドつまみの位置が間違っている。	31 ～ 37 ページ参照 16 ～ 27 ページ参照 11、35、36、 38 ～ 41 ページ参照 14、35、36、 38 ～ 41 ページ参照 35 ページ参照 18、20、22、 24 ページ参照 26 ～ 27、35 ～ 36、 38 ～ 41 ページ参照 27、35 ～ 36、 38 ～ 41 ページ参照
ぬい目がしわになる	1. 糸調子が強すぎる。 2. 糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 3. ぬい目のあらせ調節ダイヤルまたは、ぬい目の伸縮調節ダイヤルの設定が間違っている。 4. かがり爪の位置が間違っている。	31 ～ 37 ページ参照 16 ～ 27 ページ参照 11、35、36、 38 ～ 41 ページ参照 14、35、36、 38 ～ 41 ページ参照
ぬい上がりの布端がカールしている	1. 上ルーパーまたは下ルーパー糸調子が強すぎる。 2. かがり爪の位置が間違っている。	31 ～ 37 ページ参照 14、35、36、 38 ～ 41 ページ参照
メスで布が切れない	1. 上メスが解除側にセットされている。 2. 上メスの刃が摩耗している。	12 ページ参照 43 ページ参照
ぬい目と布端のすきまが広い、またはせまい	1. 切り幅の調節が合っていない。	13 ページ参照

♥ MEMO ♥



◎ アタッチメント（オプション）

① 裾引き押さえ：200-236-106

ズボンやスカートのすそのまつりぬいが美しくできます。

② テープ付けセット：200-237-107

市販テープを リールに巻き取って、ニット地など伸縮性のある布地の肩線や脇ぬいなどの伸び止めに使用します。

③ コード付け押さえ (1)：200-238-108

飾りコード付け、フィッシュライン（テグス）付けによる波立てフリルなどに使用します。

④ コード付け押さえ (2)：200-239-109

広幅巻きぬい（芯入れ）でテーブルクロスなどの縁取りに、またニット地に毛糸などを一緒にぬうと伸び止めの効果があります。

⑤ ビーズ付けセット：200-240-103

市販ビーズによる衣服のビーズ飾りぬいなどに使用します。使用ビーズ径は 1 ～ 4 mm です。

⑥ ギャザリングアタッチメント：200-241-104

袖付け、袖口、えりぐり付けなどに使用します。

⑦ ゴムテープ付けアタッチメント：200-242-105

衣服のすそなどのゴムテープ付けが簡単にできます。市販のゴムテープ 3.5 ～ 8 mm 幅のものが使用できます。

⑧ 布ガイド：200-243-106

フラットロック、ピンタックぬいなど多様に使用できます。布のガイドや布の切り代のガイドに使用します。

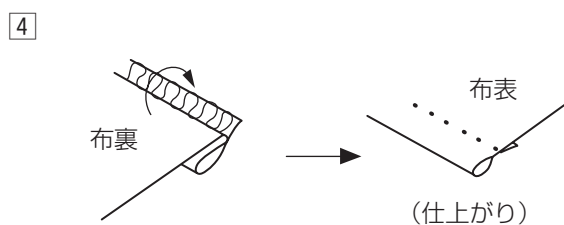
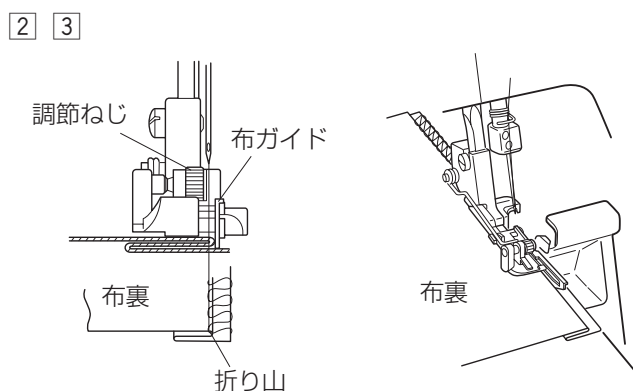
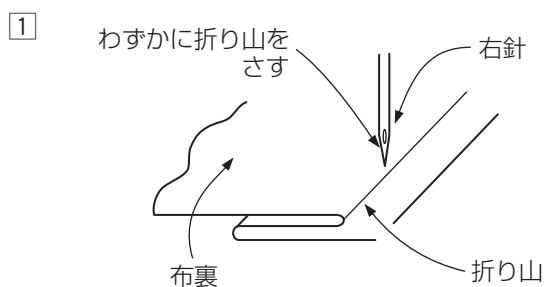
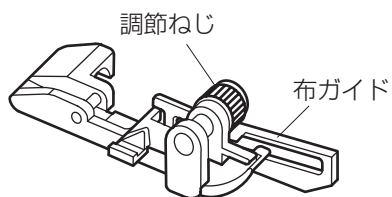
⑨ 3 mm 用パイピング押さえ：200-244-107

⑩ 5 mm 用パイピング押さえ：200-245-108

パイピング（バイヤステープ）材による補強や飾りぬいに使用します。サイズは 3 mm (1/8") 用と、5 mm (3/16") 用があります。

⑪ ギャザリング押さえ：200-250-106

薄地、普通地の 1 枚の布地に、ギャザーよせを手軽にきれいに仕上げるができます。



● すそ引き押さえの使い方



注意

押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

押さえを外し、すそ引き押さえを取り付けます。

【ミシンのセット】

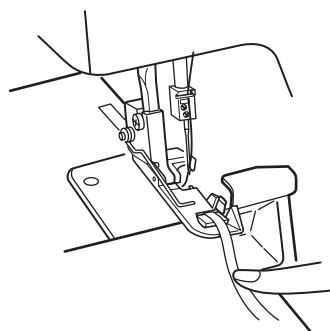
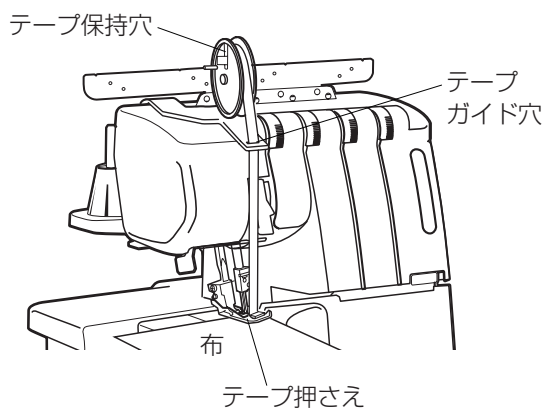
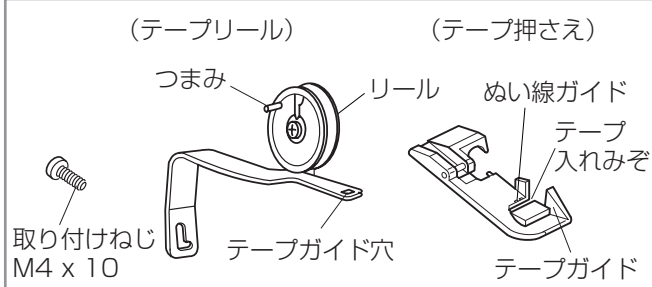
通常のふちかがりぬいと同じですが、針は右針のみを使用します。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーバー糸	下ルーバー糸
糸調子ダイヤルの目安	—	3	3	3

	セット
ぬい目のあらか調節ダイヤル	4 ~ 5
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.0 (標準)
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	標準側
補助糸調子スライドつまみ	標準側
スライド糸案内	3/4 側

【使い方】

- 1 布地を図のように折り、アイロンを軽くかけておきます。
- 2 試しぬいを行ない、針が布の折り山をわずかにさすように調節ねじをまわして布ガイドの位置を決めます。
- 3 折り山を布ガイドにそわせて針が折り山から外れないようにぬいます。
- 4 布を開いて裏側からアイロンをかけます。



● テープ付けセットの使い方

⚠ 注意

テープ付けセットの取り付け、取り外しをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

※ ニット地など、伸縮性のある布地の肩線や脇線部分をぬう場合、伸び止めテープとして市販のテープ（幅 4 ～ 8 mm）をリールに巻取り、布地にぬい付けるのに使用します。

【ミシンのセット】

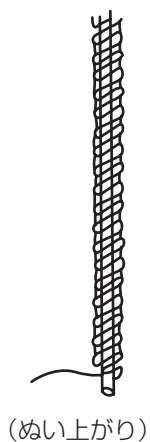
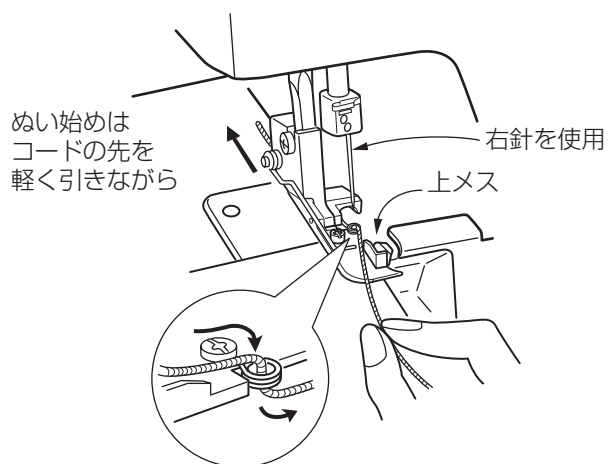
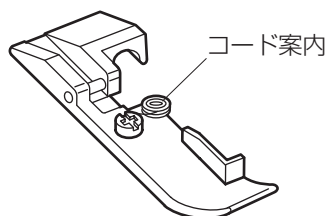
ミシンのセットは通常のふちかがりぬいと同じです。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3	3

	セット
ぬい目のあらさ調節ダイヤル	3 ～ 4
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.0（標準）
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	標準側
補助糸調子スライドつまみ	標準側
スライド糸案内	3/4 側

- 1 面板止めねじ（M4 × 10）を外します。
- 2 テープリールを付属の取り付けねじ（M4 × 10）で面板と一緒に固定します。
- 3 市販のテープをリールの内側からテープ保持穴に差し込み、テープの端を持ちながらテープリールのつまみをまわしてテープを巻取ります。
- 4 ミシンにセットされている押さえを外し、テープ付け押さえを取付け、押さえをあげておきます。
- 5 上メスを解除位置にします。
- 6 テープをテープガイド穴に通し、テープ付け押さえのテープ入れみぞに右から入れて押さえのうしろに少し出しておきます。
- 7 上メスを駆動位置にもどします。
- 8 布を押さえの下に差し込み、押さえをさげます。
- 9 リールのつまみを軽くまわし、テープのたるみを取ります。
- 10 ゆっくりとぬい始めます。

※ テープの素材が柔らかすぎて安定性が悪いときは図のようにテープを軽く指で案内してください。



● コード付け押さえ（１）の使い方

⚠ 注意

押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 飾りコード付け、フィッシュライン付けによるラッフル（波立て）フリルなどに使用します。

【ミシンのセット】

針は右針のみを使用します。

● 飾りコード付けの場合

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーバー糸	下ルーバー糸
糸調子ダイヤルの目安	－	3	3	3

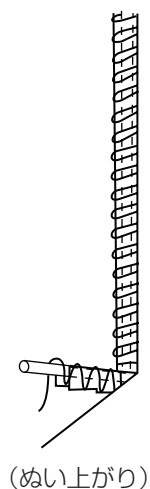
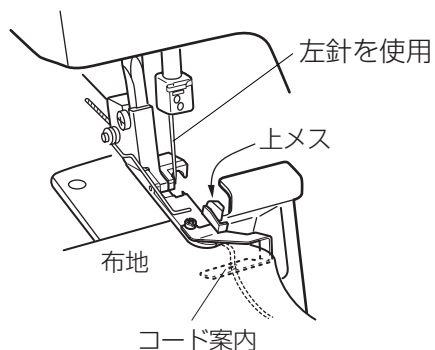
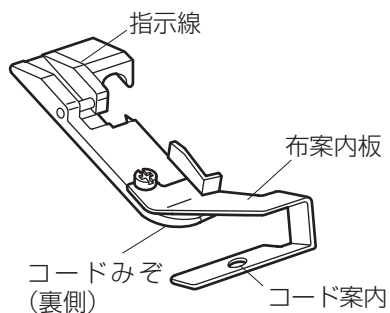
● ラッフルフリルの場合

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーバー糸	下ルーバー糸
糸調子ダイヤルの目安	－	4	3	3

	セット	
	飾りコード付け	ラッフルフリル
ぬい目のあらか調節ダイヤル	2～4	R
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.0（標準）	
上メス	駆動側	
かがり爪つまみ	標準側	R 側
補助糸調子スライドつまみ	標準側	巻きぬい側
スライド糸案内	3/4 側	

【ぬい方】

- ① ミシンにセットされている標準押さえを外します。
- ② コード付け押さえ（１）のコード案内部分にコードを通して、押さえをミシンに取り付けます。
このときコードの先は押さえのうしろに出しておきます。
- ③ 布を上メスの手前まで差し込み、コードが針先の右側になるように両手で案内しながらぬいます。



● コード付け押さえ (2) の使い方

⚠ 注意

押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

★ 広幅巻きぬい (芯入り)

テーブルクロスなどのふちどりに芯を入れることで立体感のあるふちかがりに仕上がります。

【ミシンのセット】

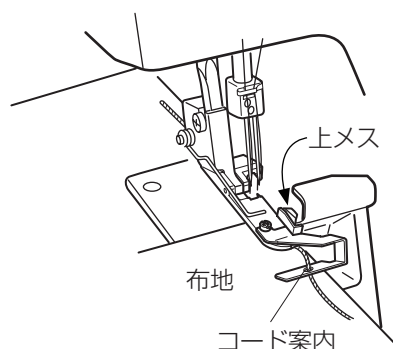
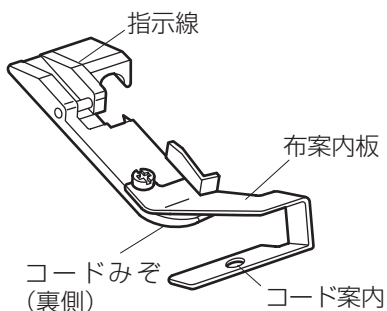
針は左針のみを使用します。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	4	—	3	3

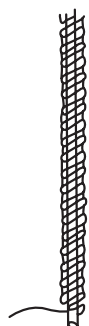
	セット
ぬい目のあらさ調節ダイヤル	R
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.0 (標準)
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	R 側
補助糸調子スライドつまみ	巻きぬい側
スライド糸案内	3/4 側

【ぬい方】

- ミシンにセットされている標準押さえを外し、コード付け押さえ (2) を取り付けます。
- 切り幅調節ダイヤルをまわして、下メスを右へよせます。
- 押さえをあげてコード案内にコードを通します。
押さえの裏のコードみぞの下にコードがくるよう、押さえのうしろにコードを出しておきます。
- 布をコードの上にくるよう左側から差し込み、上メスの手前まで入れます。
押さえをさげ、コードをつつむようにぬいます。
このとき、コードが指示線の真下を通るよう、ゆっくりとぬいます。

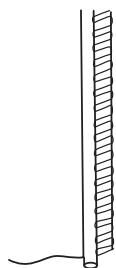


(ぬい上がり)



- 《2本針》
- ニット地の伸び止め
 - 飾りコード付け

(ぬい上がり)



- 《右針を使用》
- 飾りコード付け
 - 巻きぬいによるコード付けにも応用できます。

★ ニット地の伸び止め、または通常のコード付け

伸縮性のあるニット地に毛糸などを一緒にぬい付けると伸び止めの効果があります。

飾りコード付けや、巻きぬいによるコード付けにも応用できます。

【ミシンのセット】

通常のふちかがりぬいと同じですが、針は2本針または右針のみを使用します。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーバー糸	下ルーバー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3	3

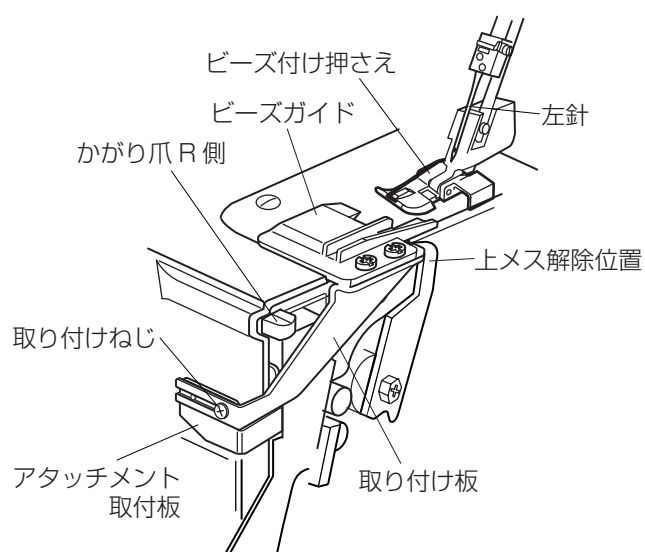
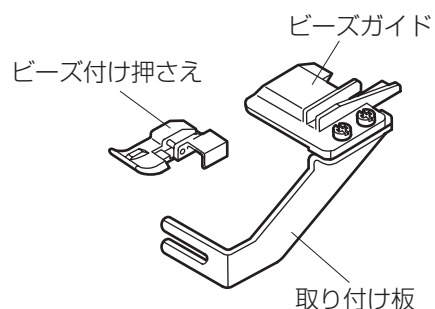
	セット
ぬい目のあらか調節ダイヤル	2 ~ 4
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.0 (標準)
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	標準側
補助糸調子スライドつまみ	標準側
スライド糸案内	3/4 側

【ぬい方】

伸縮性のあるニット地に毛糸などを一緒にぬうと伸び止めの効果がでます。

- ① ミシンにセットされている標準押さえを外し、コード付け押さえ(2)を取り付けます。
- ② 押さえをあげてコード案内にコードを通します。
押さえの裏のコードみぞの下にコードがくるよう、押さえのうしろにコードを出しておきます。
- ③ 布がコードの下にくるように差し込み、上メスの手前まで入れて押さえをさげます。
このとき、コードが指示線の真下を通るよう、ゆっくりとぬいます。

※ 同様のぬい方で、飾りコード付けや巻きぬいによるコード付けにも応用できます。



● ビーズ付けセットの使い方

⚠ 注意

ビーズ付けセットの取り付け、取り外しをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

【ビーズ付けの取り付け】

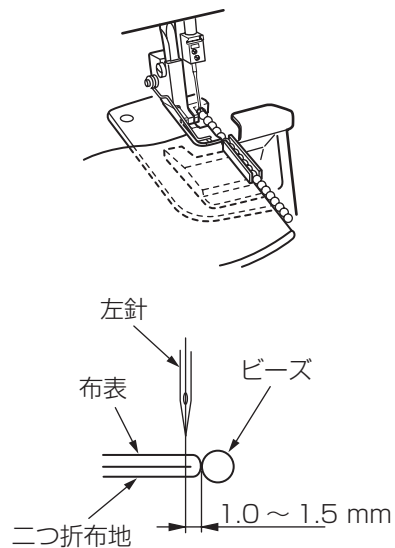
- ① 右の針を外し、左の針を使用します。
- ② ミシンにセットされている標準押さえを外し、ビーズ付け押さえを取り付けます。
- ③ 補助テーブルを外し、ルーパーカバーを開きます。
- ④ 上メスを解除し、かがり爪を R 側にします。
(12、14 ページ参照)
- ⑤ アタッチメント取付板を取り付けます。
(45 ページ参照)
- ⑥ アタッチメント取付板の取り付けねじをゆるめ、ビーズガイドの取り付け板を右側から差し込み取り付けねじをしめます。
- ⑦ ルーパーカバーを閉じます。

【ミシンのセット】

通常のふちかがりぬいと同じですが、針は左針のみを使用します。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	1	—	3	3

	セット
ぬい目のあらさ調節ダイヤル	2 ~ 4
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.0 (標準)
上メス	解除側
かがり爪つまみ	R 側
補助糸調子スライドつまみ	巻きぬい側
スライド糸案内	3/4 側



【使い方】 ※ 使用ビーズは直径 1 ～ 4 mm です。

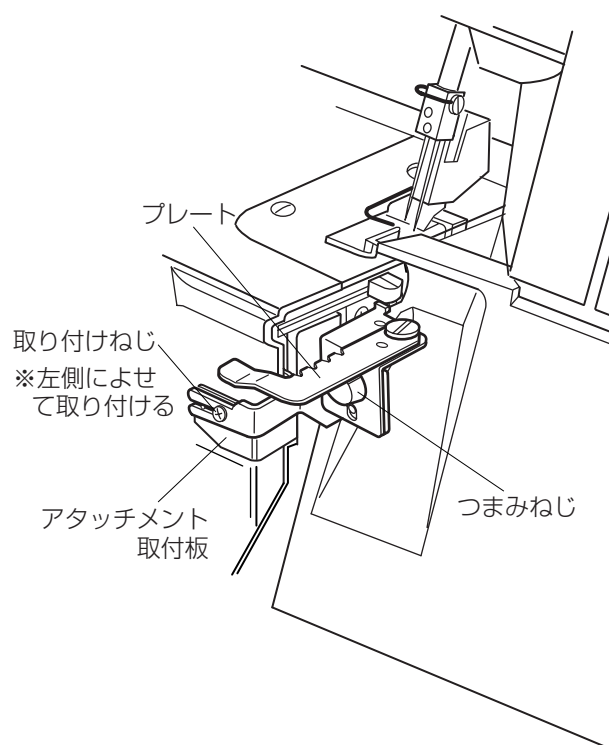
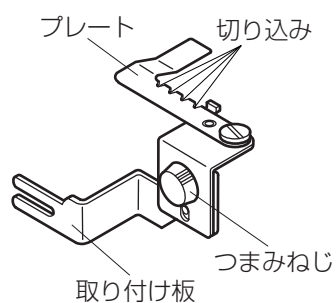
- ① 押さえをあげて、ビーズを押さえの向こう側に出してから押さを下げます。
ビーズを 2 ～ 3 針ぬって仮止めしておきます。
- ② 押さをあげます。
布の表地を表側に二つ折にした布を針落ち付近まで差し込みます。
- ③ 押さをさげて、ぬい込みます。

※ 二つ折にした布の端面から 1 ～ 1.5 mm にぬい上がるよう、ビーズガイドの左右方向の位置を止めねじで調節します。

※ ビーズ自体に重さがあるため、布がつられた状態になりやすいです。
手前側のビーズを手でかるく持ってビーズを送ると、きれいに仕上がります。

※ ビーズの 1 個が送りピッチに合うように、ぬい目のあらしさを調節してください。

※ 太ひも飾り、コーデングにも利用できます。



● ギャザリングアタッチメントの使い方

⚠ 注意

ギャザリングアタッチメントの取り付け、取り外しをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【ギャザリングアタッチメントの取り付け】

- ① アタッチメント取付板を取り付けます。
(45 ページ参照)
- ② アタッチメント取付板の取付けねじをゆるめ、ギャザリングアタッチメントのプレートを手前に引いた状態で、取り付け板を右側から差し込み、左いっぱいによせて取付けねじをしめます。
- ③ プレートの高さを調節します。
プレートを針板の上にセットし、つまみねじをゆるめプレートの下面が送り歯の上になった高さと同じになるように調節します。

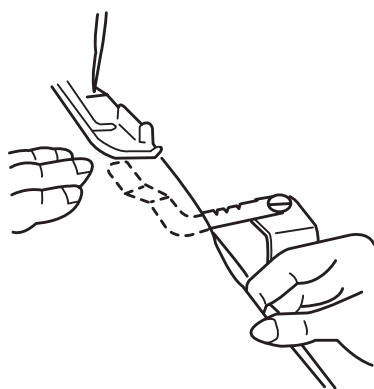
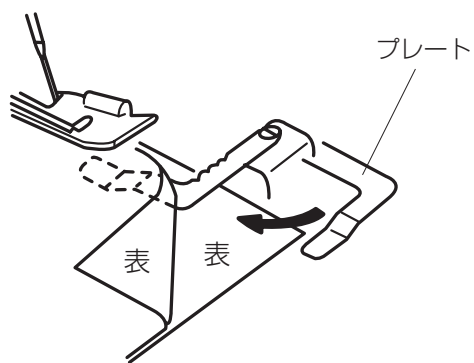
※ ギャザリングアタッチメントを取付けると、ルーパークバーが開きません。
開ける必要が生じた場合は、アタッチメントを取り外してから開けてください。

【ミシンのセット】

糸調子は通常のふちかがりぬいと同じです。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーパーク糸	下ルーパーク糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3	3

	セット
ぬい目のあらさ調節ダイヤル	3 ~ 4
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.5 ~ 2.2
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	標準側
補助糸調子スライドつまみ	標準側
スライド糸案内	3/4 側



【ギャザーの付け方】

通常のギャザー付けは2枚の布地を中表にし、下側の布にひだがつきます。

布地やぬい目の伸縮の大きさにもよりますが、下側の布は長さが半分近く短くなるので、ひだをきれいに仕上げるには、必ず試しぬいをしてください。

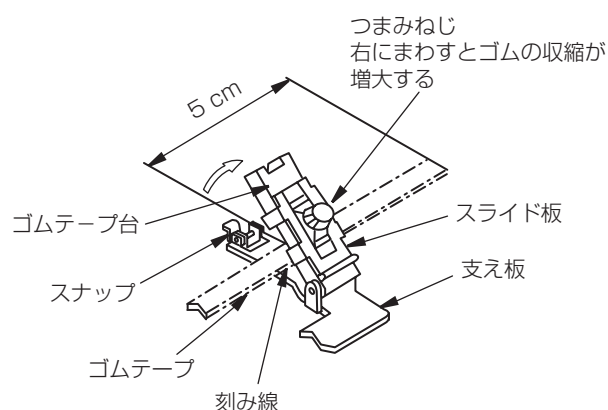
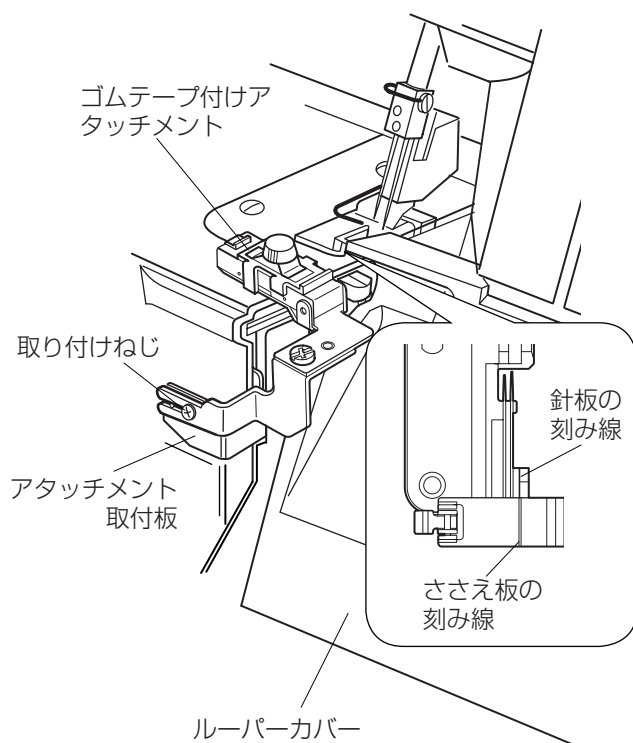
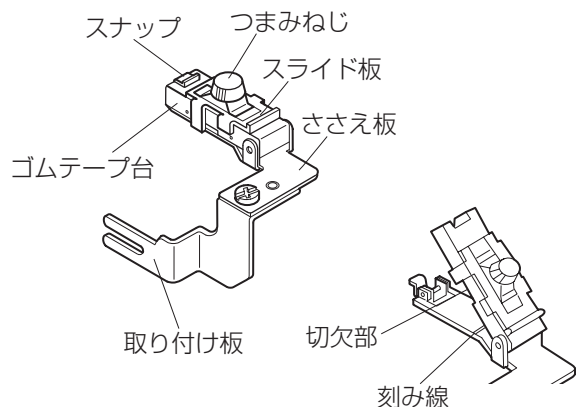
- ① ぬい目の伸縮調節ダイヤルを「1」にし、プレートを外した状態で2枚の布（中表）を2～3針ゆっくりぬいます。
- ② 一度ミシンを止め、手ではずみ車を手前にまわして針を布にさした状態で、押さえ上げをあげます。
- ③ ぬい目の伸縮調節ダイヤルを「1.5～2.2」に調節し、布のあいだにプレートを差し込みます。再び押さえをさげてぬいます。
- ④ 2枚の布端がズレないように、手で案内しながらぬいます。

※ ぬいの途中でギャザー付けをやめるときは、ミシンを止め、手ではずみ車を手前にまわして、針を布にさした状態にします。

ぬい目の伸縮調節ダイヤルを「1」にもどして再度ぬいます。

このとき、プレートは手前に引いた状態にしてください。

※ プレートの切り込みを布の切りしろの目安にすると便利です。



● ゴムテープ付けアタッチメントの使い方

⚠ 注意

ゴムテープ付けアタッチメントの取り付け、取り外しをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【ゴムテープ付けアタッチメントの取り付け】

- ① アタッチメント取付板を取り付けます。
(45 ページ参照)
- ② アタッチメント取付板の取付けねじをゆるめ、ゴムテープ付けアタッチメントを取り付けます。
取り付けの標準位置は、ゴムテープ台を開き、針板の刻み線とささえ板の刻み線を一致させた位置です。
この位置で取付けねじをしめます。
この状態では、メスでゴムテープを切り落とすことはありません。

※ ゴムテープ付けアタッチメントを取付けると、ルーパーカバーが開きません。
開ける必要が生じた場合は、アタッチメントを取り外してから開けてください。

【ゴムテープのセット】

※ セットできるゴムテープの幅は3.5～8 mmまでです。

- ① スナップを左方向へ倒し、ゴムテープ台を矢印方向へ起こします。
- ② ゴムテープをゴムテープ台の切欠部へ入るように置きます。
※ ささえ板のきざみ線とゴムテープの右端が合うように置きます。
※ ゴムテープは5 cm 程度引き出して押さえの下に置きます。
- ③ ゴムテープ台とスナップを元にもどします。
ゴムテープの幅に合わせて、スライド板でテープを右よせに調節します。
- ④ つまみねじを右にまわすとゴムの収縮が増大します。
つまみねじを左にまわすとゴムの収縮が減少します。
- ⑤ ゴムテープの右端と、ぬい目の右端の相対位置の調節は、取付け板の左右調節で行います。

【ミシンのセット】

糸調子は通常のふちかがりぬいと同じです。

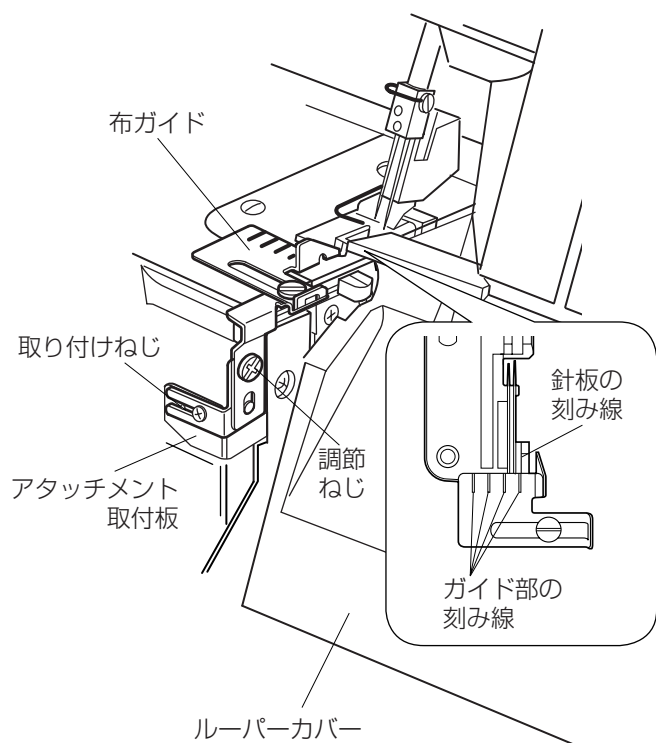
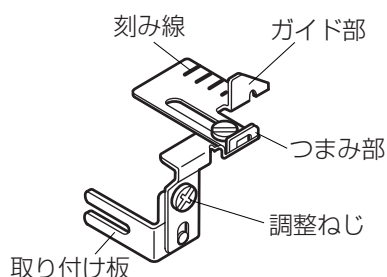
	針糸(左)	針糸(右)	上ルーバー糸	下ルーバー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3	3

	セット
ぬい目のあらか調節ダイヤル	4 ～ 5
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.0 (標準)
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	標準側
補助糸調子スライドつまみ	標準側
スライド糸案内	3/4 側

【ぬい方】

布をゴムテープの下にくるよう、押さえの下に入れます。
ゴムテープと布を一緒にぬい込みます。

※ つまみねじの加減でゴムの収縮が変わります。
きれいに仕上げるには、必ず試しぬいをしてつまみねじを調節してください。



● 布ガイドの使い方

⚠ 注意

布ガイドの取り付け、取り外しをする場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【布ガイドの取り付け】

- ① アタッチメント取付板を取り付けます。
(45 ページ参照)
 - ② アタッチメント取付板の取付けねじをゆるめ、布ガイドを取り付けます。
取り付け板を右から差し込み、左側いっぱいによせてから取り付けねじをしめます。
 - ③ 布ガイドの高さは調整ねじをゆるめ、針板の上に置くように取り付けます。
- ※ ガイド部は用途に応じてスライドさせ、位置を合わせます。
- ※ ルーパーカバーを開ける場合、布ガイドのつまみ部を左側いっぱいによせると開けます。

【布ガイドの使い方】

布ガイドは色々なぬいに対して幅広く使用できるアタッチメントです。

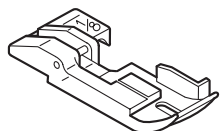
ガイド部または刻み線を針板上の刻み線に合わせて使用すると便利です。

メスを使用しない場合：

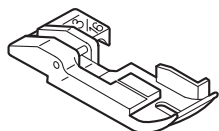
- かがり幅を一定の幅にガイドしてぬう作業です。
 - フラットロックぬいやピンタックに使用できます。
- ※ メスの解除の方法は 12 ページの「上メスの解除と駆動」をご覧ください。

メスを使用する場合：

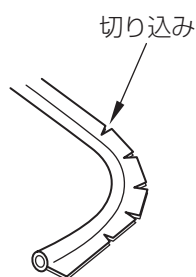
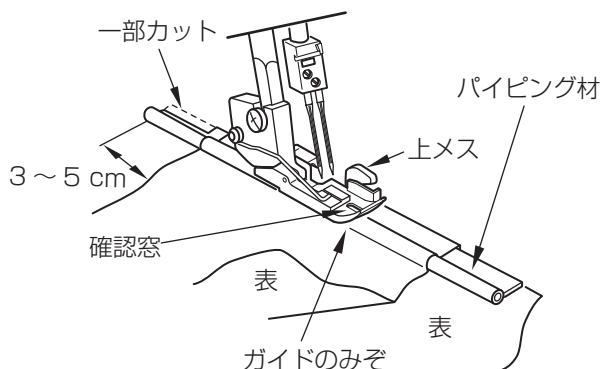
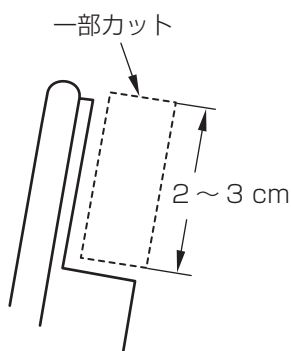
- 布の切り落とし幅がある場合など、切り幅を一定に保ちながら、縫製物を長い距離案内することができます。
- 布ガイドには 5 mm 間隔で刻み線が入っていますので目安にしてください。



3 mm (1/8") 用



5 mm (3/16") 用



● パイピング押さえの使い方

※ サイズが 3 mm (1/8") 用と 5 mm (3/16") 用があり、外箱および押さえに表示があります。

⚠ 注意

押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【パイピング押さえの取り付け】

- ① 針は 2 本針を使用するか、左針のみを使用します。
- ② ミシンにセットされている標準押さえを外し、パイピング押さえを取り付けます。

【ミシンのセット】

糸調子は通常のふちかがりぬいと同じです。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーバー糸	下ルーバー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3	3

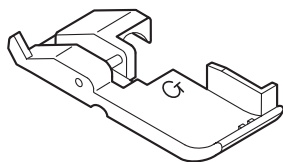
	セット
ぬい目のあらさ調節ダイヤル	3 ~ 4
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	標準側
補助糸調子スライドつまみ	標準側
スライド糸案内	3/4 側

【パイピングのぬい方】

- ① 針を上方位置にして押さえをあげます。
- ② パイピング材の先端はぬい代部を 2 ~ 3 cm カットしておきます。
- ③ 2 枚の布地を中表にして、パイピング材をはさみ込むようにします。
先端を布端より 3 ~ 5 cm 出して、布地を上メスの直前まで差し込みます。
- ④ 押さえをさげて、パイピング材が押さえ裏面のガイドのみぞにあることを確認窓で確かめます。
- ⑤ パイピング材がガイドのみぞから外れないように手で案内しながらぬいます。

【よりきれいに仕上げるには】

- ※ 曲線部分のぬいはゆるやかであればできますが、急なカーブはぬい目が外れることがあります。必ず試しぬいを行なってください。
曲線部のテープ部分に切り込みを入れると、きれいに仕上がります。
- ※ 厚い布地にパイピングする場合、パイピングコードのきわに「しつけ」をかけるときれいにぬえます。
薄い布地の場合、手芸用のボンドなどで仮止めするときれいにぬえます。



● ギャザリング押さえの使い方

※ 通常、差動送り付きのミシンで差動比を大きくするとある程度のギャザーはよります。より多くのギャザーをよせたい場合、ギャザリング押さえを使用します。（使用例：袖口、ヨーク、レース、フリルなど）

⚠ 注意

押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

【ギャザリング押さえの取り付け】

- ① ミシンにセットされている標準押さえを外し、ギャザリング押さえを取り付けます。

【ミシンのセット】

糸調子は通常のふちかがりぬいと同じです。

	針糸(左)	針糸(右)	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	3	3	3	3

	セット
ぬい目のあらさ調節ダイヤル	3 ~ 4
ぬい目の伸縮調節ダイヤル	1.5 ~ 2.2
上メス	駆動側
かがり爪つまみ	標準側
補助糸調子スライドつまみ	標準側
スライド糸案内	3/4 側

♥ MEMO ♥

♥ MEMO ♥

仕 様	
使 用 電 圧	100 V 50 Hz / 60 Hz
消 費 電 力	105 W
外 形 寸 法	幅 324 mm × 奥行 291 mm × 高さ 282 mm
質 量	6.9 kg (本体)
使 用 針	家庭用 HA X 1SP (#11、#14)
最高ぬい速度	毎分 1300 針

仕様および外観は改良のため
予告なく変更することがあり
ますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。
ただし、次のような場合は修理できない場合があります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住 所 〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電 話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル)
042 - 661 - 2600

受 付 平日 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>

問合せフォームをご利用ください。

794-800-871